

Hanno Municipal Museum
Annual Report 2019

飯能市立博物館館報（実績報告書）

きつとすしポート

第2号

通巻第17号（令和元年度）



飯能市立博物館

あいさつ

飯能市立博物館「きつとす」の実績報告書第2号(通巻17号)をお届けいたします。対象は平成31年、5月に改元されて令和元年となった2019年です。

日本博物館協会が平成25年度に発行した『日本の博物館総合調査報告書』によりますと、全国の博物館の35.2%が館報や年報と呼ばれる博物館の活動報告書(以下「年報」とします)を作成しています。確かに都道府県立館においては比較的多くの館で発行されているようですが、こと市町村立館になりますと、その数は非常に少ないのが現状です。埼玉県内で見ても毎年定期的に発行しているのは、管見の限りでは当館を含め5館ほどにすぎません。

またこれまで発行された博物館の年報を見えますと、意外と多いのが「あいさつ」(巻頭言)がないという点です。巻頭言は、館長など責任ある立場の職員がその刊行物を発行する目的や内容などを紹介する「場」であると私は考えています。すなわち、巻頭言がないということはそれを発行する積極的な意味を見出せないということもあるのではないのでしょうか。現在、年報を発行していない博物館が多いのもそこに一番の理由があるように思われます。

だからこそ年報を発行する以上、その目的は明確でなければなりません。本誌は、当館にとって17冊目の「館報」となりますが、少なくとも第4号からはその目的を「あいさつ」に記してきました。現在の当館では、当館の外に向けてその存在価値を納得していただけるように当館の活動の総体を知ってもらうことにあります。

さて、きつとすレポート第2号ですが、これは来年度より導入を検討している博物館評価を意識したものといたしました。当館では平成30年3月にミッション(使命)を策定いたしました。ミッションとはその目指すべき博物館像を明文化したものです。博物館評価とはそれと現在の姿の差を認識することで、その基となるのはミッション(使命)であり、博物館の活動はミッションに連鎖(リンク)している必要があります。既に前号(きつとすレポート1号、通巻16号)より教育行政の重点施策とミッションを対応させた表を掲載しておりますが、今回さらに、当館のそれぞれの活動とミッションとの関係性が一目でわかるように、ミッションと掲載内容の対応表を新たに加えました(13P)。また、それぞれの活動分野のページの冒頭に、該当するミッションの項目を掲示いたしました。このことは、来たるべき博物館(外部)評価の基礎資料として「館報」を位置づけることを意識した改善—それは発行時期を例年より半年ほど早めたこと—の理由でもあります—でもあるのです。

周辺の自然のビジターセンター的機能が加わり、当館を訪れる方の間口は広がったように思います。さらに親しまれる博物館となるためには、自己評価をし、外部評価を受けながら、常によりよいものを目指していくことが必要です。館報もそうした中で発行する意義がより明確になっていくと考えます。

今後ともみなさまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年11月

飯能市立博物館
館長 尾崎泰弘

目次

あいさつ	1
目次	2
沿革	3

第1章 施設

建物平面図	6
面積表・施設等修繕	7
常設展示・名栗くらしの展示室	8

第2章 事業

ミッション	12
平成30年度の事業	14
平成30年度教育行政の重点施策とその評価	15
展示	
(特別展)	16
(その他の展示)	22
講座・学習会	26
交流	32
博学連携	41
資料・施設の利用	46
レファレンスの対応	48
講師派遣	49
収集	50
整理・保存	52
調査研究	56
情報発信	58
事業支援	61
博物館協議会	62
博物館実習	63

第3章 各種データ

利用者数	68
歳出予算・決算	69
図書資料寄贈機関	70
飯能市立博物館条例・施行規則	72

職員	75
利用案内	76

表紙写真：開館30年記念特別展「飯能の名宝」

沿革

年月日	できごと
昭和46(1971)年3月	「飯能市郷土館建設基金の設置、管理及び処分に関する条例」が公布され、(株)丸広百貨店より寄附された1千200万円が予算化される。
昭和61(1986)年3月	(株)丸広百貨店より寄附された観光施設整備基金約2億1千万円を郷土館建設基金に繰り入れる。
昭和61(1986)年6月	飯能市文化財保護審議委員会へ、郷土館建設基本構想・基本計画策定について諮問する。
昭和62(1987)年3月	飯能市文化財保護審議委員会から郷土館建設基本構想・基本計画が答申される。
昭和62(1987)年7月	(株)平安設計による建築設計を開始する。
昭和62(1987)年10月	(株)タイムアートデザインによる展示基本設計を開始する。
昭和63(1988)年6月	市川・前久保建設共同企業体による建築工事に着工する。
平成元(1989)年4月	社会教育課内に郷土館準備係(係長1・係員1)が配置される。
平成元(1989)年6月	(株)タイムアートデザインによる展示工事に着手する。
平成元(1989)年12月	飯能市郷土館条例が制定される。
平成2(1990)年4月	飯能市郷土館友の会が結成される。
平成2(1990)年4月	飯能市郷土館が開館する。 (常勤職員は館長・学芸員1・主事補1)
平成2(1990)年4月	開館記念特別展「飯能の国指定重要文化財」・「わたしの宝物ー思い出に残る品々ー」開催。
平成2(1990)年8月	夏休み子ども歴史教室開催。(以後、毎年実施)
平成2(1990)年11月	古文書講座「むかしの飯能を知ろう」開催。この講座の受講生を中心に「古文書同好会」が結成され、現在も自主活動をつづける。
平成3(1991)年4月	特別展「能仁寺と黒田氏」開催。(10月にも特別展を開催し、以後平成10年秋まで春・秋の年2回特別展開催となる)
平成3(1991)年7月	郷土館友の会主催による郷土館ギャラリー「飯能の陶芸家たち」開催。
平成4(1992)年8月	埋蔵文化財出土品展「掘り起こせ！古代からのメッセージⅠ」を開催。(生涯学習課と共催で平成6年までは毎年、その後は隔年で開催)
平成4(1992)年10月	特別展「絵図からの伝言」開催。この特別展より企画委員会を組織し、展示構成を検討することとなる。(平成14年秋の「うちおり」展まで)
平成5(1993)年1月	郷土館友の会主催による「まゆ玉づくり」開催、以後平成22年1月まで毎年実施。(それ以後は館主催事業として平成29年まで実施)
平成5(1993)年6月	開館以来の入館者数が10万人を突破。
平成6(1994)年4月	開館5周年記念特別展「幕末・明治の幻陶 飯能焼」開催。この展示で初めて特別展の図録をつくる。
平成6(1994)年10月	特別展「ジャパン・マイセンー瀬戸の磁器人形ー」開催。この展示で、1日平均入館者数最多の205.6人を記録する。(開館記念特別展を除く)
平成7(1995)年7月	常勤職員が4人(館長・学芸員2・主事補1)となる。
平成8(1996)年5月	開館以来の入館者数が20万人を突破。
平成8(1996)年8月	常設展示等企画委員会が発足し、当館の改善すべき点をまとめる。(任期は平成10年3月まで)
平成9(1997)年3月	『館報』第1号発行。
平成10(1998)年9月	「中学校社会科研究展」開催。(以後毎年実施)
平成10(1998)年11月	市民との交流事業「定点撮影プロジェクト」開始。
平成11(1999)年3月	収蔵品展開催。(これ以降、毎年春に収蔵品展、秋に特別展という枠組みになる)

年月日	できごと
平成11(1999)年12月	開館以来の入館者数が30万人を突破。
平成12(2000)年1月	第I期市民学芸員養成講座開始。
平成12(2000)年3月	博物館法に基づく登録博物館となる。
平成13(2001)年3月	『研究紀要』第1号発行。
平成13(2001)年9月	これまでの「中学校社会科研究展」に小学生も対象に加え、「小・中学校社会科研究展」として開催。
平成14(2002)年10月	当館ホームページをインターネット上で公開し始める。
平成15(2003)年3月	『収蔵資料目録1 写真資料目録I』発行。
平成15(2003)年7月	市制施行50周年記念特別事業として特別展「写真でたどる飯能市の50年」開催。
平成15(2003)年8月	開館以来の入館者数が40万人を突破。
平成16(2004)年10月	入間川4市1村合同企画展「筏師が見た入間川 ―その流域の今昔―」開催。
平成17(2005)年1月	名栗村との合併にともない、名栗村史編さん事業を当館が引き継ぐ。
平成19(2007)年3月	当館所蔵の「飯能の西川材関係用具」が埼玉県有形民俗文化財に指定される。
平成19(2007)年4月	開館以来の入館者数が50万人を突破する。
平成19(2007)年6月	市民のコレクションを展示する第1回「マイ・コレ。」(マイ・コレクション展)を開催する。(以後、平成23年まで7回実施)
平成22(2010)年3月	『名栗の歴史(下)』を刊行し、名栗村史編さん事業が終了する。
平成22(2010)年11月	開館以来の入館者数が60万人を突破する。
平成23(2011)年4月	飯能市名栗民俗資料室資料保存活用検討委員会を設置し、旧名栗村で収集した民俗資料の保存・活用について検討を始める。(平成25年3月まで)
平成23(2011)年10月	特別展飯能戦争「飯能炎上 ―明治維新・激動の6日間―」開催。会期中に展示図録が完売し、300部増刷する。(当館発行の刊行物増刷は初めて)
平成24(2012)年4月	当館館長に初めて学芸員有資格者が就任する。
平成24(2012)年6月	史料集活用講座「地域を学ぶ・調べる・歩く」実施。(全3回)
平成25(2013)年10月	収蔵絵画のうち216点を精明小学校内絵画保管室に移す。(計342点を同室で保管)
平成26(2014)年5月	開館以来の入館者数が70万人を突破する。
平成26(2014)年6月	名栗くらしの展示室を開設する。
平成28(2016)年8月	「飯能市郷土館常設展示改装に関する計画」策定、郷土館協議会で承認される。
平成28(2016)年9月	(株)ムラヤマによる常設展示改装展示設計業務を開始する。(平成29年2月完成)
平成29(2017)年6月	展示改装工事のため休館し(6月1日から平成30年3月31日まで)、常設展示改装工事を開始する。(平成29年12月完成)
平成30(2018)年4月	飯能河原・天覧山周辺のビジターセンター的機能を追加し、「飯能市立博物館」としてリニューアルオープンする。
平成30(2018)年4月	リニューアルオープン記念写真展「春を告げるものたち」開催(～5月)
平成30(2018)年4月	春の自然観察会「里山の草花をたずねて」開催。
平成30(2018)年5月	開館以来の入館者数が80万人を突破する。
平成31(2019)年3月	年間入館者数が始めて40,000人を超える。(平成31年度の入館者数は41,533人)
令和元(2019)年5月	令和に改元
令和元(2019)年10月	開館30年記念特別展「飯能の名宝」開催。
令和2(2020)年3月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、28日(土)・29日(日)が臨時休館となる。



新型コロナウイルス感染症のため休館(3月)



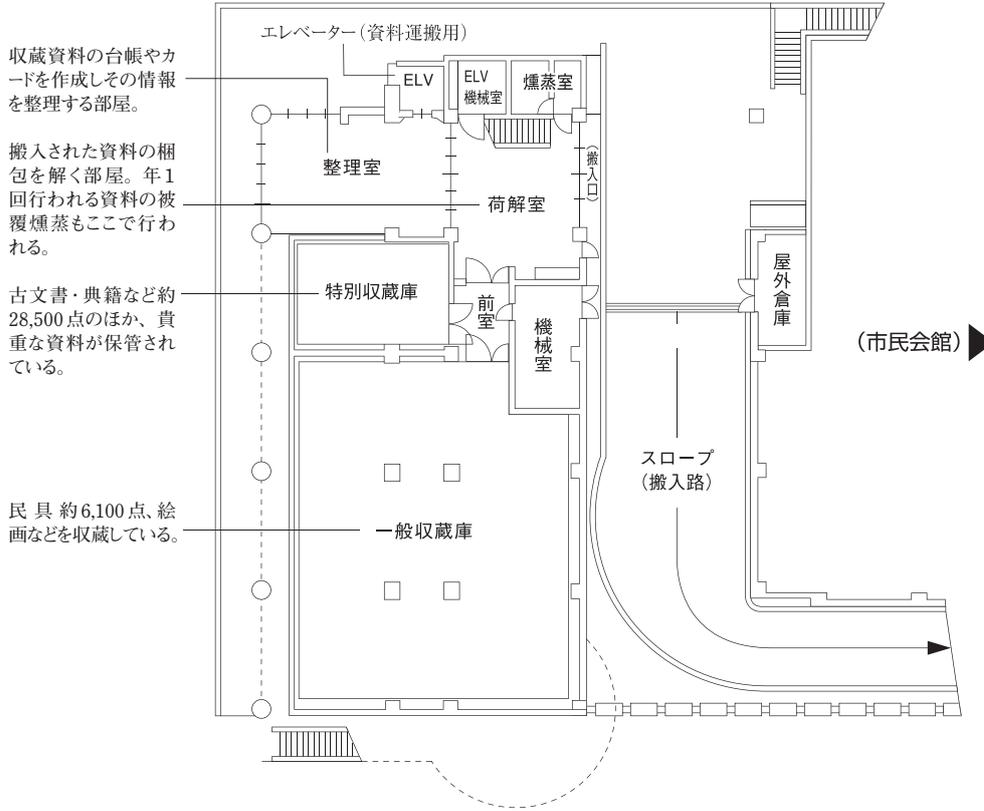
第 1 章

– Chapter 1 –

【 施 設 】

建物平面図

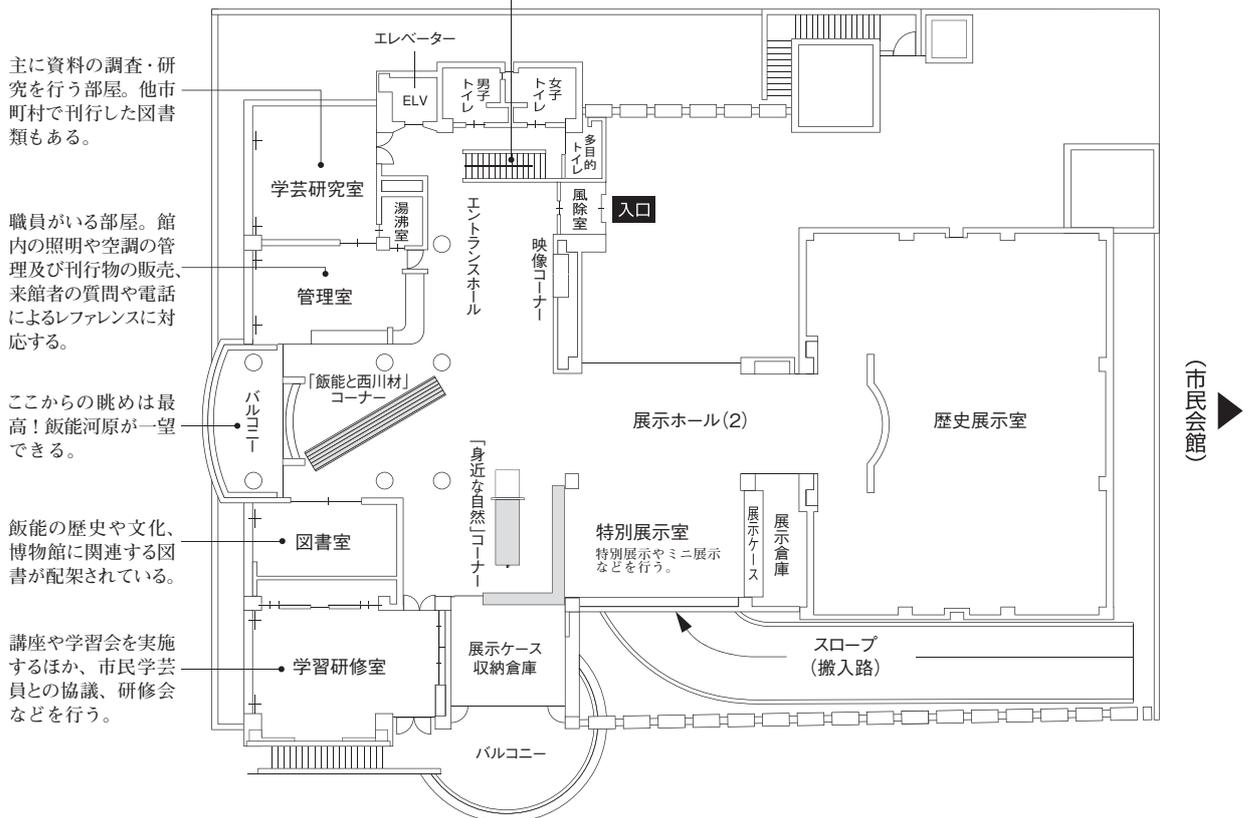
< 1階 >



※(R階)

階段をあがると展望台があり、龍崖山、前ヶ貫丘陵など遠くまで見渡すことができる。

< 2階 >



面積表

〈各階床面積一覧表〉

(単位：㎡)

室名	面積	室名	面積
1 階	497.458	「飯能と西川材」コーナー	41.520
一般収蔵庫	256.094	学習研修室	62.779
機械室	24.375	倉庫	10.464
前室	11.295	図書室	28.101
特別収蔵庫	47.205	管理室	38.558
荷解室	55.875	風除室	7.360
整理室	58.353	湯沸室	7.848
燻蒸室	11.424	学芸研究室	44.050
エレベーター機械室	9.405	多目的トイレ	5.266
エレベーター	7.442	女子トイレ	10.468
屋外倉庫	15.990	男子トイレ	10.361
		エレベーター	7.500
2 階	959.774	R階	40.040
歴史展示室	273.965	階段	15.846
特別展示室	59.850	階段ホール	15.944
展示倉庫	20.675	エレベーター	8.250
「身近な自然」コーナー等	139.750		
展示ホール (2)	88.128		
エントランスホール	103.131	合計	1,497.272

〈用途別面積一覧表〉

用途	内 訳	面積(㎡)	割合(%)
教育普及	展示(歴史展示室・特別展示室・展示ホール等)	561.693	37.5
	その他(学習研修室)	62.779	4.2
収集・保存	(一般収蔵庫・特別収蔵庫・前室・燻蒸室)	326.018	21.8
調査研究	(学芸研究室・図書室・整理室)	130.504	8.7
管 理	(管理室)	38.558	2.6
そ の 他		377.720	25.2

敷地面積 3,626.120㎡ 建築面積 1,165.999㎡

施設等修繕

- ・学習研修室・図書室空調設備交換(11月)
- ・「身近な自然」コーナーデジタルフォトフレーム修理(12月)
- ・受変電設備内の変圧器等の交換(2月)
- ・「飯能と西川材コーナー」誘導灯修繕(3月)
- ・公用車タイヤ取り替え(3月)
- ・特別展示室スライディングウォールクロス貼替え(3月)
- ・スロープ照明灯設備修繕(3月)

常設展示

◇歴史展示室

平成30年4月1日、当館は常設展示を改装しリニューアルオープンした。従来の常設展示室は、「里」「町」「山」「飯能今昔」の4つのゾーンからなる歴史展示室となった。この展示室は、最新の情報・知見を常に反映させることができるよう展示替えが容易な構造とし、「更新される展示」を目指している（『常設展示改装に関する計画』平成28年8月）。歴史展示室では、訪れた来館者をまちなか、山間地へと誘うため「おでかけガイドマップ」と称する歴史文化資源を紹介する地図を5種類、そのほか展示内容や資料の解説カードである「もっと知りたい飯能の歴史」を5種類配布している。

さらに常設展示による資料の劣化を防ぐため、里ゾーンの「うちおり」と町ゾーンの引札はほぼ2ヶ月に1回の割合で展示資料を取り替えている。当該年度は、うちおりを4回、引札は6回実施した。

◆歴史展示室「おでかけガイドマップ」一覧

No.	マップの名称	場所
1	飯能戦争の跡を訪ねるコース	町
2	旧中山村の魅力を訪ねるコース	町
3	飯能市内獅子舞マップ	山
4	歴史的建造物を訪ねるコース	町
5	町のまつり 山車マップ	町

◆歴史展示室「もっと知りたい飯能の歴史」(解説カード) 一覧

No.	タイトル	場所
1	高麗人移住の証 一堂ノ根遺跡1号住居跡出土遺物ー(市指定文化財)	里
2	飯能市内の板碑	里
3	多峯主山黒田直邦墓(市指定文化財)	町
4	山をめぐる土地争い	山
5	飯能の西川材関係用具(県指定有形民俗文化財)	山

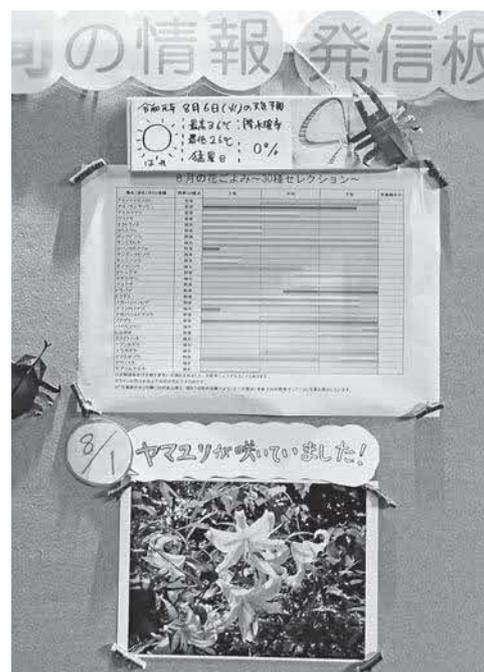
◇「身近な自然コーナー」

このコーナーは、当館周辺の飯能河原・天覧山周辺の自然のビジターセンター的機能を担うところである。当館を訪れた人々に、天覧山や多峯主山といった里山、そして飯能河原の自然の魅力を伝えるために、鳥類、植物など分野ごとに分けながら、生息している生き物を紹介している。また、訪れた人が、季節ごとの旬な情報を手に入れてから散策に向かえることを目指し、今の見どころの案内や、季節により入れ替える体験やクラフトができる展示を設置している。

令和元年度は、コルクボード「旬の情報発信板」を利用して、季節の移り変わりに合わせた見どころの掲示を増やし、「観察・体験コーナー」に季節ごとの展示を加えた。ここでは新しく追加、入れ替えを行ったところを中心に紹介をする。

●天気予報の更新

この掲示は、登山や散策を目的とする来館者に、一日の天気予報を伝えるために設置した。その



「旬の情報発信板」
(上から天気予報、今月の花暦、季節の自然情報)

ため、〈天気〉、〈最高気温〉、〈最低気温〉、〈降水確率〉を、毎朝開館前に書き出している。天気予報は、一般財団法人日本気象協会が運営するHP情報「tenki.jp」を参考に、1日の中で最高・最低値を示すようにした。

●「〇月の花暦～30種セレクション～」の掲示

この花暦は、「天覧山・多峯主山散策ガイドマップ」では紹介しきれない全体の移り変わりを伝えるために作成したものである。マップ上で掲示している種の他に今の季節はどんな植物が見られるのか、いつまで観察ができるのかを知りたい方に利用していただくことを目的とした。

花暦は基本的に毎月30種の植物をピックアップすることとし、開花時期や熟した実が見られる期間を示した。3～12月の間は毎月作成し張り替えを行った。ただし1、2月は開花・結実期間が長く、移り変わりがわかりにくいため除外した。

掲載する30種の植物は、その季節によく見ることができ植物、目立つ植物であることを基準に選んだ。暦は、平成29年～30年度にかけて当館で行った自然調査のデータを基としている。現地で主に確認できた期間をおおよその時期として、花や実の移り変わりを確認できるようにした。

●季節の自然情報の紹介

「旬の自然情報発信板」では、常に掲示している天気予報と花暦の他に、不定期に自然情報を発信している。当該年度はおおよそ月に1回以上の張り替えを行い、合計15回の更新を行った。更新のタイミングは、その時の自然の状況と内容が合っているかどうかを基準とした。

掲示内容は、その時の見どころである〈植物の



観察・体験コーナーで楽しむ来館者

紹介〉、季節ごとの〈観察ポイント〉、調査で見つけた面白い場面等の〈出来事の紹介〉、自然観察会等の〈お知らせ〉などである。

●観察・体験コーナー

中央の大きな机のところで、自然に触れ、体験できるようにしたのが、このコーナーである。季節に応じた自然の魅力を伝えるために体験の内容を変えている。当該年度は、夏、秋、冬に展示替えを行った。

夏は、新しく作成した標本箱「抜け殻コレクション」を展示した。これはトンボの幼虫のときの姿であるヤゴの抜け殻や、オス、メスの見分け方を観察できるセミの抜け殻標本の展示である。トンボの写真シートをめくって標本を見ることができるようしたり、見わけ方の分かりにくいものは固定式の拡大鏡を設置するなどして、観察のしやすさ、面白さを演出した。

その他、秋は前年度作成した木の実のタッチコーナー「さわって実！こぼれおち種！」を展示し、冬は前年度配布したクラフト体験「トチノキくんをつくってみよう！」を約2ヵ月設置した。なお、実の補充個数によると、この年のクラフト体験者



観察ポイントの一例



標本箱「抜け殻コレクション」

は194人であった。これは1ヵ月に平均100人の人が体験したペースにあたる。

また今回、季節ごとの体験展示の他、その時期に野外で見つかったムササビの食痕も展示した。調査で見つかったものを小さなケースですぐに紹介することができれば、来館者の目を楽しませることができ、野外で、より新鮮な体験や発見ができるのではと考えた。

●「天覧山・多峯主山散策ガイドマップ」の更新

現在の具体的な自然情報を得ることができるのが、このマップである。月に2回以上の定期調査をもとに、植物や生き物の写真を位置情報と共に掲示し、更新している。

当該年度の更新頻度は1ヵ月に2回を目標とし、年間18回更新を行った。更新日に追加した写真の種および掲示枚数は右の表の通りである。1年間の掲載写真数は155枚であった。



ムササビの食痕展示

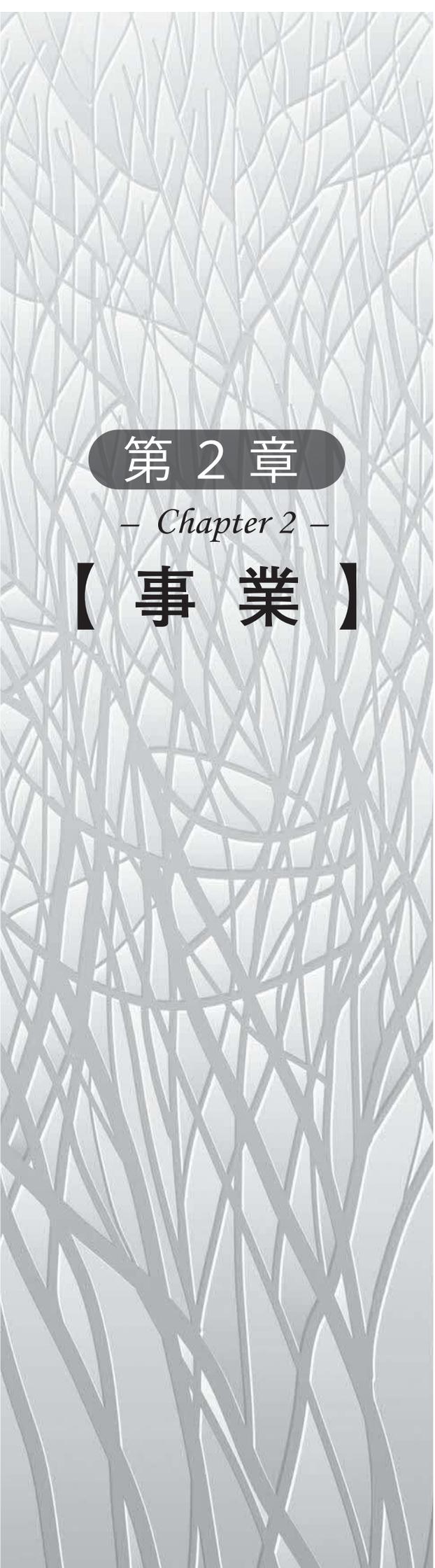
◆「天覧山・多峯主山散策ガイドマップ」更新一覧

回	日付	分野	追加写真	写真枚数
1	4/7	草本	ニオイタチツボスミレ、ナガバノスミレサイシン、カキドオシ、オオイヌノフグリ	12
		木本	ウリカエダ、アセビ、ウグイスカグラ、どんぐりの成長過程、モミジイチゴ	
		その他	ツチグリ、キツツキの巣、ウスタビガの繭、シロスジカミキリの痕	
2	5/1	草本	ツボスミレ、チゴユリ、ヘビイチゴ、ゲンゲ、フモトスミレ	16
		木本	オトコヨウゾメ、ウワミズザクラ、ミツバツツジ、ニワトコ	
3	6/4	草本	クサヨシ、コナスビ、ノアザミ	12
		木本	パイカツツジ、ナワシロイチゴ、マルバウツギ、コアジサイ、テイカカズラ	
		その他	アズマヒキガエルの幼体、オバボタル	
4	7/13	草本	ダイコンソウ、オオバジャノヒゲ、ジャノヒゲ	15
		木本	アカメガシワ、ヤブコウジ	
		その他	カノコガ、ホソヒラタアブ、ニホンアナグマ、シマヘビ、アワフキムシ、アカスジキンカメムシ	
5	8/2	草本	オオバギボウシ、ヘクソカズラ(ヤイトバナ)、アキノタムラソウ、ヒヨドリバナ、ヤブツルアズキ、ミツバ	19
		木本	ミズキ(実)	
		その他	ミンミンゼミ(昨晩羽化したもの)、ミンミンゼミ、アズマヒキガエル	
6	8/22	草本	コケオドギリ、ワレモコウ、ヤブガラシ、センニンソウ	17
		その他	ニホンアマガエル、エントツドロバチの巣	
7	8/31	草本	ヤブガラシ、ヤマノイモ(雄花)、ヤブミョウガ、ヤマジノホトトギス、ノダケ、ヒルガオ	19
		木本	マルバハギ、コウヤボウキ、ゴンズイ(実)	
		その他	クロノマチョウ(幼虫)、ダイミョウセセリ(幼虫)、ムホンホソアシナガバチ、オトコエシとカマキリ	
8	9/6	草本	コバノカモメヅル、マツカゼソウ、アマチャヅル、ツリガネニンジン、ヤブツルアズキ、アキノタムラソウ	19
		その他	チョウセンカマキリ	
9	10/5	草本	ミソソバ、ヤブラン、ユウガギク、ノハラアザミ、コナギ、アキノナギツカミ、ヤブマメ、サクラタデ、ボントクタデ、ヤノネグサ	17
		木本	クリ、カマズミ	
10	11/2	草本	ヤクシソウ、トキリマメ(オオバタンキリマメ)、ゲンノショウコ	15
		木本	チャノキ、ヤブコウジ(ジュウリョウ・実)、オトコヨウゾメ(実)	
		その他	オオハナアブ	
11	12/6	草本	ズメウリ(実)、ノササゲ(実)、ススキ、キツネノマゴの紅葉、マルバノホロシ(実)	15
		木本	シロダモ、ヤマウルシ、マユミ(実)、シラカシ(実)、モミ	
		その他	ツチグリ	
12	12/21	草本	キチジョウソウ(実)、マルバノホロシ(実)	20
		木本	ツクバネウツギのがく	
		その他	ハラビロカマキリの卵のう、センチコガネの仲間、ハエトリグモの仲間の食べ痕、動物の足跡	
13	1/5	木本	マンリョウ(実)、コウヤボウキ(実)、フユイチゴ(実)	19
14	1/17	草本	アオイスミレ(蕾)、ハハコグサ、アキノキリンソウ(種)、ヤブラン(実)	18
		その他	ジョロウグモの卵のう、イソウロウグモの卵のう	
15	2/8	草本	タチツボスミレ2枚、ノダケ(実)、センニンソウ(実)	16
		木本	ツルグミ、サワラ(雄花)	
		その他	イソウロウグモ(卵のう)	
16	2/22	草本	ミチタネツケバナ、コハコベ、オオイヌノフグリ	18
		木本	ウリカエダの冬芽、イヌザクラの冬芽、ミヤマウグイスカグラ、ウメ	
17	3/1	草本	タチツボスミレ、カキドオシ、ナズナ、ヒメカンスゲ、ヒメカンスゲ(雄小穂)	17
		木本	アセビ	
18	3/12	草本	シロバナタンポポ、ニオイタチツボスミレ、アオイスミレ	22
		木本	キブシ、ウリカエダ、ミヤマウグイスカグラ、ヒサカキ	
		その他	コゲラ、テングチョウ、オナガグモ	

名栗くらしの展示室

名栗くらしの展示室は名栗地区行政センターの2階にあり、平成17(2005)年1月の合併前の名栗村時代より収集されてきた民具の活用と、平成21年度に完結した名栗村史編さん事業の成果を展示することを目的としている。

展示は、2階へ向かう階段部分の導入展示「名栗の風景」、シンボル展示「西川林業」、名栗の歴史をパネルで紹介する「歴史の回廊」、炭焼き、養蚕・機織り、麦づくりといった名栗での生業を紹介する「くらしの展示室」で構成されている。



第 2 章

– Chapter 2 –

【 事 業 】

飯能市立博物館ミッション(使命)



博物館には3つの価値があります。1つは知的な体験をするという一般的な人々にとっての「個人的な価値」、2つめが資料を集積し調査研究の成果を発信していることによる専門家にとっての「学術的価値」、3つめは、博物館の活動がその時の社会、経済、教育、文化などに影響を与えることによって生じる「社会的価値」です。飯能市立博物館は、これら3つの価値を意識しながら、以下に掲げるミッションを達成することで、市民文化の向上と社会の発展に寄与していきます。

I 飯能の新たな魅力に出会える博物館をめざします。

古くからの歴史と多彩な自然を有する飯能には、まだ知られていない魅力(宝物)がたくさんあります。当館は資料の収集・保存及び調査・研究活動により地域の新たな魅力の発見に努め、展示や学習活動などを通してそれらをストーリーとして発信し続けることで、人々の知的好奇心に応えていきます。またその魅力を活かして個性豊かで活力のある地域づくり・人づくりに取り組んでいきます。

II 「学び」の入口となる博物館をめざします。

当館は、着実な博物館活動を通してさまざまな「学び」への欲求に応え、支援していくとともに、学習者の交流の場となることを目指します。そのために情報の蓄積を進め、図書館などの社会教育施設や地域の団体、企業などと連携・協働していきます。

III 常に広い視野を持って活動し、資料の価値を高めていく博物館をめざします。

当館が収蔵する資料は市民共有の財産として永く継承され、市民の学習活動に活用されますが、同時に学術研究の資料でもあります。それら資料を用いた研究者による学術研究を支援するとともに、当館学芸員の研究と交流させることで、広い視点から資料の価値を高めるとともに、地域の特色を明らかにし、市民の地域への愛着を育んでいきます。

IV 学校教育と連携し、質の高い学びを提供する博物館をめざします。

当館と学校が連携して、収蔵資料などを活用しながら、子どもたちが自ら体験・観察することができる学習プログラムを作り、質の高い学習活動を支援します。それにより自らの頭で考え、見て、確かめることの大切さを伝え、変化の激しい時代を生き抜くために必要な学びへとつなげていきます。

V 歴史や文化を現在、そして未来へと活かしていく博物館をめざします。

歴史・文化とは、はるか昔から続く人々の営みの積み重ねであり、そこには先人たちの知恵や教訓がたくさん含まれています。当館は、地域文化発信の核として、地域の歴史・文化情報を積極的に発信するとともに、例えば災害記憶を伝承し安全なまちづくりに寄与するなど、歴史・文化を現代そして未来に活かすことに努めていきます。

VI 飯能河原・天覧山周辺地域の自然の情報発信拠点としての機能もあわせもつ博物館をめざします。

当館が所在する飯能河原・天覧山周辺地域は、豊かな自然に恵まれ、多くの方が来訪します。当館は、この地域における自然のビジターセンターとしての機能も果たし、自然環境についての情報を集め、提供していくことにより、自然と人間との共生に貢献していきます。

(2018年3月23日策定)

◆飯能市立博物館ミッションと館報「きっとすレポート」掲載内容対応表

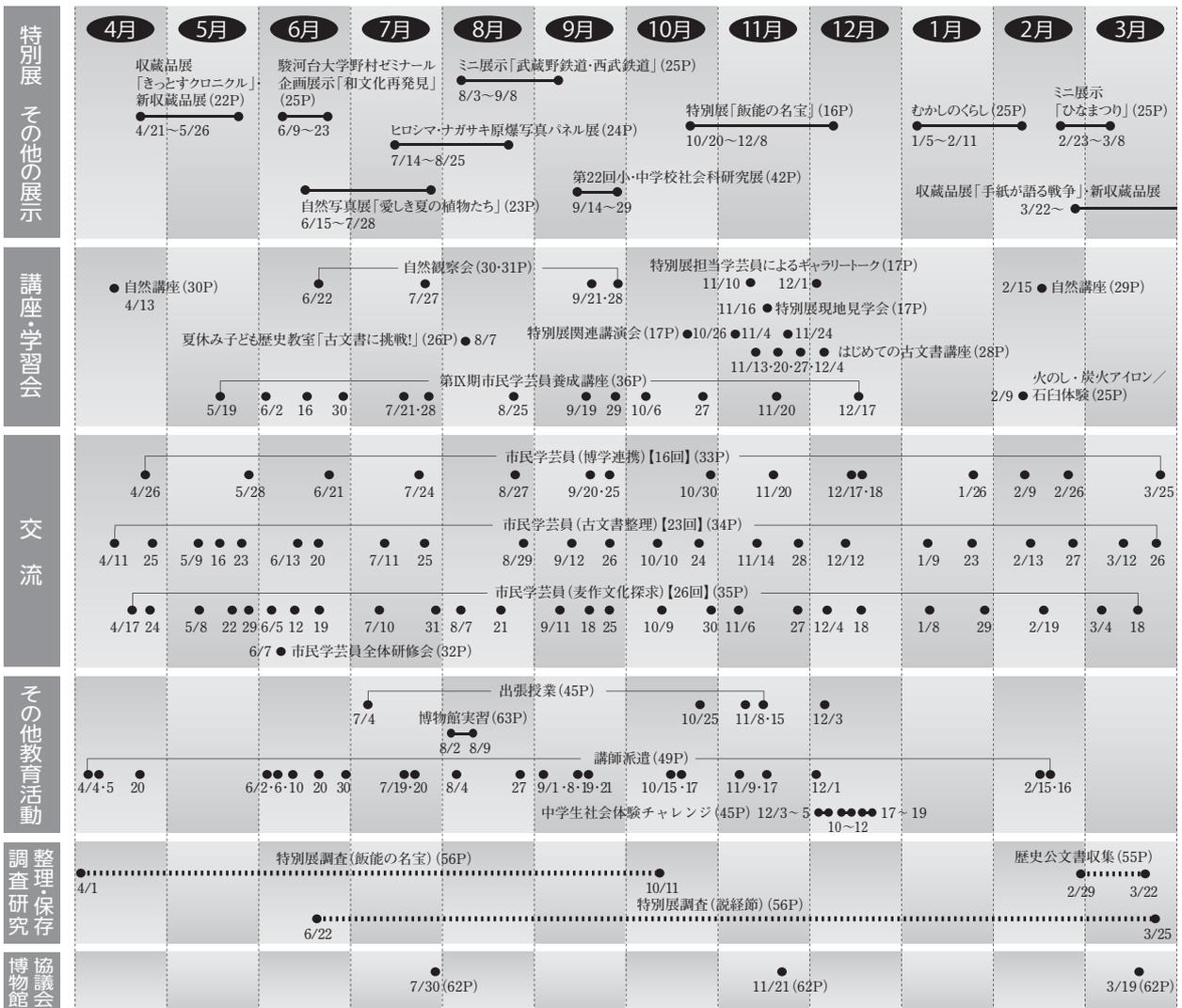
項	価値	博物館ミッション(項目)	本文	館報(見出し)	活動内容	ページ
I	個人	飯能の新たな魅力に出会える博物館をめざします。	古くからの歴史と多彩な自然を有する飯能には、まだ知られていない魅力(宝物)がたくさんあります。当館は資料の収集・保存及び調査・研究活動により地域の新たな魅力の発見に努め、展示や学習活動などを通してそれらをストーリーとして発信し続けることで、人々の知的好奇心に応えていきます。またその魅力を活かして個性豊かで活力のある地域づくり・人づくりに取り組んでいきます。	常設展示(「歴史展示室」)	展示資料の展示替え	8
				名栗くらしの展示室		10
				展示	特別展	16
					収蔵品展	22
				講座・学習会	夏休みこども歴史教室	26
					歴史講座(一般対象)	28
	現地見学会	—				
情報発信	ホームページ	58				
	SNS	58				
	That'sきっとす	60				
II	個人	「学び」の入口となる博物館をめざします。	当館は、着実な博物館活動を通してさまざまな「学び」への欲求に応え、支援していくとともに、学習者の交流の場となることを目指します。そのために情報の蓄積を進め、図書館などの社会教育施設や地域の団体、企業などと連携・協働していきます。	展示	駿河台大学野村ゼミ実習展示	25
				交流	市民学芸員(全体)	32
					市民学芸員(博学連携)	32
					市民学芸員(古文書整理)	34
					市民学芸員(麦作文化)	34
				博学連携	社会体験チャレンジ	45
				施設の利用	施設の利用	47
				講師派遣(歴史・文化)	講師派遣(災害史など)	49
				レファレンスの対応	レファレンスの対応	48
				事業支援	事業支援	61
博物館実習	博物館実習	63				
III	学術	常に広い視野を持って活動し、資料の価値を高めていく博物館をめざします。	当館が収蔵する資料は市民共有の財産として永く継承され、市民の学習活動に活用されますが、同時に学術研究の資料でもあります。それら資料を用いた研究者による学術研究を支援するとともに、当館学芸員の研究と交流させることで、広い視点から資料の価値を高めるとともに、地域の特色を明らかにし、市民の地域への愛着を育んでいきます。	展示	今月の一品	25
				収蔵資料の利用	収蔵資料の利用	46
				収集	寄贈資料受入	50
					寄託資料受入	—
					資料購入	51
					歴史公文書の収集	55
				整理	民具	52
					古文書	52
					写真	52
				保存	資料の修復	53
					燻蒸	55
					環境調査	55
調査研究	調査(歴史部門)	56				
	研究紀要の発行	—				
IV	社会	学校教育と連携し、質の高い学びを提供する博物館をめざします。	当館と学校が連携して、収蔵資料などを活用しながら、子どもたちが自ら体験・観察することができる学習プログラムを作り、質の高い学習活動を支援します。それにより自らの頭で考え、見て、確かめることの大切さを伝え、変化の激しい時代を生き抜くために必要な学びへとつなげていきます。	博学連携	小学3年生見学対応	41
					小・中学校社会科研究展	42
					出張授業	45
				交流	市民学芸員(博学連携)	32
V	社会	歴史や文化を現在、そして未来へと活かしていく博物館をめざします。	歴史・文化とは、はるか昔から続く人々の営みの積み重ねであり、そこには先人たちの知恵や教訓がたくさん含まれています。当館は、地域文化発信の核として、地域の歴史・文化情報を積極的に発信するとともに、例えば災害記憶を伝承し安全なまちづくりに寄与するなど、歴史・文化を現代そして未来に活かすことに努めていきます。	展示	特別展	16
				講師派遣	講師派遣(災害史など)	49
				調査研究		—
VI	社会	飯能河原・天覧山周辺地域の自然の情報発信拠点としての機能もあわせもつ博物館をめざします。	当館が所在する飯能河原・天覧山周辺地域は、豊かな自然に恵まれ、多くの方が来訪します。当館は、この地域における自然のビジターセンターとしての機能も果たし、自然環境についての情報を集め、提供していくことにより、自然と人間との共生に貢献していきます。	展示(ビジターセンター)	常設展示(「身近な自然」)	8
				展示	自然写真展	23
				講座・学習会	自然観察会	30
					自然講座	29
				講師派遣	講師派遣(自然分野)	49
調査研究	自然調査	57				

令和元年度の事業

当館が飯能市立博物館「きつとす」としてリニューアルして2年目となる令和元(平成31)年度は、平成2年4月に開館してちょうど30年目の年でもあった。そして、平成は4月30日をもって終わり、5月から令和と改元された。その令和元年度の特別展は、開館30年を記念して、埼玉県指定文化財を中心にこれまで当館で展示したことのない文化財などを一堂に会した「飯能の名宝」とした。中にはこれまで秘仏とされてきた「木造虚空蔵菩薩坐像」(大光寺)や絹本着色不動明王画像(常楽院)といった古美術品が多く出展されたため、会期を前半と後半に分け一部を展示替えして行った。展示では、このほか本市の平和都市宣言記念として「ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネル展」を夏に開催し、特に50歳未満の若い層の入館が多く見られた。

また学習活動では、5月から平成26年度以来5年ぶりとなる市民学芸員養成講座(第Ⅸ期)を行った。養成分野は博学連携事業参加型で、通算では5回目となる。そのほか古文書を解読するスキルを身につける講座「はじめての古文書講座」も5年ぶりに実施し、普段あまり行わない事業が集中した年でもあった。

一方で、施設の老朽化が事業に影響を及ぼすようになってきた。夏には学習研修室と図書室の空調設備が故障し、特に8月の当館主催事業や市民の学習活動に大きな支障が出た。そして年明けには新型コロナウイルス感染症が徐々に拡大の兆しを見せ、ついに2月27日には全国の小・中学校に休校の要請が出されるなど社会に大きな影響を与えた。当館でも一部の事業の中止を余儀なくされ、3月末の土・日には臨時休館することとなった。この影響は次年度さらに深刻になっていった。



令和元年度 飯能市立博物館の重点施策とその評価（ミッション対応）

教育振興基本計画の項目	事業名	目標	目指す達成点・到達点	達成指標と目標値	達成結果とその成果	達成率	評価分野	項目	博物館ミッション(項目)	価値
(4) 博物館活動の充実	① 地域の情報センター機能の充実	新たな地域の魅力を発信するため、地域の資料を収集し、それらから新たな地域の魅力を引き出し、多くの人が利用できるようにするため、収集資料の整理を推進する。	古文書、写真資料については、資料カード作成と右帳登録を先行し、一般収蔵庫に収蔵される民具については、冊子の清掃と資料の確認及びデジタルカメラでの撮影を行う。	収集資料の整理をすすめ、古文書300点以上、古写真20点以上のカードを作成し右帳に登録する。また、民具の再整理は、200点以上を目標とする。	平成30年度に購入した文書、中山忠三九家(稲荷町)など23の史料群282点の整理を行ったが、目標としていた300点には及ばなかった。古写真は175点のカードを作成した。また民具の再整理は、一般収蔵庫の資料の清掃し、資料の確認をしながら新たなスペースを生みだし、デジタルカメラでの撮影を371点行った。いずれも目標を大きく上回った。	95%	B 整理	III	常に広い視野を持って活動し、資料の価値を高め、高い学びを提供する博物館をめざします。	学術
	② 市民、小中学校、大学、他の教育機関等と連携した博物館活動の推進	学校と連携し、小学3年生の新たな社会科副読本の内容に即したプログラムを開発し、市民学芸員とともに博物館における児童の質の高い学びを支援する。	学校教員、教育センターと連携し、新たな学習指導要領の内容を理解し、市民学芸員とともに調査、資料研究を進めながら見学対応プログラムを開発し、そのマニュアルを作成する。	新たな小学3年生見学対応マニュアルを作成し、それに基づき3学期に小学3年生の見学を受け入れて、先生からのアンケートでその対応に満足だった学校が80%以上であること。	新たな学習指導要領に基づいて作成された小学3年生の社会科副読本中の「市のひとびと」とのくらしのつくりかたの単元に準じたプログラムを、教育センター指導員と市民学芸員が本編委員の先生方よりご教示をいただきながら、市民学芸員とともに作成した。それに基づき1月から2月にかけて見学を受け入れ、ほとんどの学校より満足との回答をいただいた。	95%	B 教育	IV	学校教育と連携し、質の高い学びを提供する博物館をめざします。	社会
(5) 地域魅力発信	① 地域情報の積極的な発信と地域の活性化支援	調査研究によって地域の新たな魅力を掘り起こし、それを特別展の開催によって発信し、個性豊かな活力のある地域づくり・人づくりに取り組み。	地域情報の積極的な発信手段の一つとして、開館30年目の区切りの年に、これまで展示したことのない指定文化財などを一堂に会した特別展を開催し、内容の充実を図り、本市の歴史や文化の魅力を明らかにする。	特別展「飯能の名宝」の観覧者を4回以上開催する。このうち1回は子どもを対象とし、観覧者のアンケートによる満足度は80%以上であること。	特別展「飯能の名宝」は、41日の会期中、7,578人の入館者があり、1日平均で184.8人であった。これは目標を大きく上回り、平成2年度の開館以来5番目に多い観覧数であった。アンケートでは80.4%が満足と回答し、目標に達した。多くの方に地域に存在する文化財を通して文化・歴史について再認識していただいた。	100%	A 展示	I	飯能の新たな魅力を出せる博物館をめざします。	個人
	② 平和都市宣言に関連し、世界の恒久平和に貢献するたためヒロシマ・ナガサキ原爆写真展を開催し、先人たちの知恵や教訓を現代に活かす。	本市の平和都市宣言では、戦争の悲惨さと核兵器の恐ろしさを伝え、世界の恒久平和に貢献するため、ヒロシマ・ナガサキ原爆被害の真相を知ることを通じて、本市の平和都市宣言の内容とその意図を理解してもらうことを目指す。本市を含め周辺市町村からの来館をも促したい。	本市の平和都市宣言を知り、内容を理解した人の割合が来館者の80%以上であること。	7月14日から8月25日までの37日の会期中、5,214人の入館者があった。このうち、97%が飯能市が平和都市宣言を制定したことを知り、89%がその趣旨を理解できたことと回答し、目標を上回った。また通常の展示会と異なり、小・中学生が20%、20～40歳代が25%を超え、若い世代の来館が多かった。	飯能河原・天覧山周辺の自然の観察会を4回以上開催する。このうち1回は子どもを対象としたものとする。達成指標は以下のとおりとする。 ・募集定員以上の申込みがあること。 ・入館者のアンケートによる満足度が80%以上であること。	飯能河原・天覧山周辺の自然の観察会は、6月・7月・9月(2回、うち1回は埼玉県立自然の博物館と共催)の計4回実施した。このうち6月は20名募集のところ12名、7月は20名募集のところ8名、9月21日は20名募集のところ6名、同月28日は30名募集のところ25名といずれも参加者が定員に達した。アンケートではすべての会で満足とする人の割合がほぼ100%であった。	100%	A 展示	V	歴史や文化を現在、そして未来へと活かしていく博物館をめざします。
(5) 地域魅力発信	③ 天覧山・飯能河原周辺の魅力の発信	当館がリニューアルオープンする機会を捉え、飯能河原・天覧山周辺の自然の魅力を発信する。また、自然の魅力を発信する機会を捉え、飯能河原・天覧山周辺の自然の魅力を発信する。	飯能河原・天覧山周辺の自然の観察会を4回以上開催する。このうち1回は子どもを対象としたものとする。達成指標は以下のとおりとする。 ・募集定員以上の申込みがあること。 ・入館者のアンケートによる満足度が80%以上であること。	飯能河原・天覧山周辺の自然の観察会を4回以上開催する。このうち1回は子どもを対象としたものとする。達成指標は以下のとおりとする。 ・募集定員以上の申込みがあること。 ・入館者のアンケートによる満足度が80%以上であること。	飯能河原・天覧山周辺の自然の観察会を4回以上開催する。このうち1回は子どもを対象としたものとする。達成指標は以下のとおりとする。 ・募集定員以上の申込みがあること。 ・入館者のアンケートによる満足度が80%以上であること。	80%	C 教育	VI	飯能河原・天覧山周辺地域の自然の魅力を発信する博物館をめざします。	社会

展 示



- I 飯能の新たな魅力に出会える博物館
- II 「学び」の入口となる博物館
- III 常に広い視野を持って活動し、資料の価値を高めていく博物館
- V 歴史や文化を現在、そして未来へと活かしていく博物館
- VI 飯能河原・天覧山周辺地域の自然の情報発信拠点としての機能もあわせもつ博物館

特別展 飯能の名宝

同時開催：記念物100年パネル展

期 間	令和元年10月20日(日)～12月8日(日)		
開館日数	41日間		
入館者数	7,578人(1日平均184.8人)		
展示点数	62点(ほかに「記念物100年」パネル展でパネル20枚、「国宝のお医者さん」コーナーで複製原画1式を展示)		
経 費	2,672,098円(入館者1人当たり 352.6円)		
(内 訳)	印刷費 658,735円	展示委託料 898,700円	通信運搬費 827,322円
	消耗品費 58,101円	報 償 費 84,000円	非常勤報酬 145,240円

1 趣 旨

本展は、当館の開館30年記念特別展として開催されたものである。2019年は開館30年の他に、奇しくも践祚改元により令和元年となった年であり、また記念物保護制度100周年の年でもあった。

これら節目の年にふさわしい事業として、また、埼玉県指定文化財を可能な限り一堂に会し展示することで、地域の宝物である文化財を通して地域の歴史や文化の再認識を促すこと、そして記念物100周年ということもあり文化財保護制度の紹介及び文化財愛護の啓発を目的に開催した。

2 展示構成と内容

本展の展示構成を作成するに際し意図したことの一つに、文化財保護についてより多くの方に関心を持ってもらう契機とするということがある。この手の展示は、ややもすれば単なる「お宝展」としてモノの陳列に終わってしまう恐れもある。30年という記念展であることから、「打ち上げ花火」と割り切り単なる陳列にすることも考えた。ただ、やはり博物館としての基本は守りたいと思い、文化財保護をテーマに設定した。そのため導入部には文化財保護制度の概要に関する展示を配置し、終わりでは、本市の文化財保護行政における先人たちの姿や現在の取り組みについて触れることとした。それ以外の文化財の実物展示についても、文化財保護法上の文化財分類(有形文化財や民俗

文化財など)に沿って展示した。これによって文化財保護制度に関する体感的な学習につながるのではないかと考えた次第である。

各章の内容については、以下の通りである。

はじめに 「名宝」を支える

本展の導入として文化財保護制度の概要とその歩みについてパネルで紹介した。

第1章 それは天覧山から始まった ～記念物～
県指定の記念物(史跡・名勝・天然記念物)について写真パネルで紹介するとともに、本市における



特別展「飯能の名宝」ポスター

文化財保護制度の嚆矢となった「天覧山の勝」について絵はがきなどを展示し紹介した。

第Ⅱ章 飯能文化の精華 ～有形文化財～

本章では、県指定有形文化財を中心に展示した。建造物については動かさないのでパネルでの紹介となったが、その他は可能な限り実物を展示した。特に、通常非公開の「木造虚空蔵菩薩坐像」（大光寺蔵）や「絹本着色不動明王画像」（常楽院蔵）など、普段は目にすることが困難な貴重な文化財の数々は、本展の白眉として人々の関心を集めた。

第Ⅲ章 地域をつなぐ宝 ～無形民俗文化財～

県無形民俗文化財に指定されている「下名栗の獅子舞」の獅子頭と、「落合西光寺双盤念仏」の双盤鉦と太鼓を展示し、「地域をつなぐ宝」である無形民俗文化財について紹介した。

第Ⅳ章 宝物を掘り起こす

～有形民俗文化財・重要遺跡（埋蔵文化財）～

本章では、県指定有形民俗文化財「飯能の西川材関係用具」の一部と県選定重要遺跡であり本市の本格的発掘調査の先駆けとなった「小岩井渡場遺跡」の出土遺物を展示した。民具のように身近卑近であったり、埋蔵文化財のように埋もれていたためそのままでは宝物（＝文化財）としては認識されないものが、掘りおこしや整理・分類、調査・研究といった過程を経て、市民の宝物（＝文化財）になっていったことについて示した。

第Ⅴ章 未来につなぐ ～文化財保護の取り組み～

本市における文化財保護の歩みと現在の取り組みを紹介した。創刊号からの『飯能文化財時報』綴りや様々な文化財調査の野帳やカードなど、文化財保護に情熱を傾けた先人たちの息遣いが聞こえてきそうな資料を展示した。

おわりに 「名宝」がつなぐ、「名宝」をつなぐ

本展の終わりに際し、マンガ『国宝のお医者さん』の1コマ（「（文化財は）残そうとする人がいるから残るんだ」という台詞がある）を転載したパネルを展示し、まとめとした。

『国宝のお医者さん』コーナー

芳井アキ氏のマンガ『国宝のお医者さん』の複製原稿を(株)KADOKAWA COMIC BRIDGE編集部より提供を受け展示した。また、作品の主人公と一緒に写真が撮影できるフォトスポットも設置した。

「記念物100年」パネル展

展示ホール側にて文化庁より提供を受けたパネルを展示する「記念物100年」パネル展を開催した。

3 印刷物

ポスター（B2判カラー）	300枚
ちらし（A4判カラー）	7,000枚
宣伝はがき（官製はがきサイズ・カラー）	700枚
展示図録（A4判カラー56ページ）	1,000部

4 関連事業

◎関連講座「文化財と文化財保護」

①「地域における文化財保護の現状と課題」

日 時 10月26日(土)午前10時～正午
講 師 馬場憲一氏(法政大学名誉教授)
会 場 当館学習研修室
参加者 22名

②「飯能の仏像」

日 時 11月4日(月・祝)午後2時～4時
講 師 林 宏一氏(元埼玉県立博物館長)
会 場 当館学習研修室
参加者 29名

③「地域を語る文化財 ―埼玉の天然記念物とそれを守るお仕事―」

日 時 11月24日(日)午後2時～4時
講 師 木山加奈子氏(埼玉県教育局文化資源課)
会 場 当館学習研修室
参加者 15名

◎現地見学会

日 時 11月16日(土)午前9時30分～正午
見学先 法光寺(大字坂石町分)
長光寺(大字下直竹)
参加者 20名

◎担当学芸員によるギャラリートーク

日 時 ①11月10日(日)午後2時～2時30分
②12月1日(日)午後2時～2時30分
解 説 引間隆文(当館学芸員)



関連講座②「飯能の仏像」

参加者 ①16人 ②13人

5 内覧会

本展の開催に先立ち、内覧会を開催した。これは、資料寄贈者をはじめとする関係者に謝意を表するとともに、開館記念事業のオープニングセレモニー的な位置づけにより企画したものである。

日時 10月19日(土)午前10時～正午

出席者 32名

6 評価

先述の通り、本展は開館30年記念特別展として開催されたものであり、ある程度の祝祭要素を醸し出す必要があった。その一方で、単なる「陳列」ではなくテーマ性を有する「展示」とするにはどうすべきか企画段階で苦慮した。そこでひねり出した補助線が、「文化財保護」であった。

本来であれば、資料について研究し、その成果を示すのが博物館の展示なのであろう。しかし、今回は、県指定文化財を全て展示するということで、ジャンルが多岐に渡るため、資料個々より



展示風景 (前期)

も「文化財」という枠組み、つまり文化財保護制度の仕組みと歩みという視点で展示することとしたのである。これは苦し紛れに捻り出したところもあり、担当者としては奇策に近い感は否めなかった。来館者のアンケートには、地域の宝物である文化財について再認識する良い契機となったという旨の回答が多数あったものの、その反面、掘り下げが足りないとする意見も多く寄せられた。仏像など特定のジャンルに興味がある人からすれば、内容が浅薄に感じられたのであろう。特定のテーマに基づいて体系的に資料を集め構成した展示に比して、本来つながらない資料を網羅的に集めて展示することの難

しさを感じずにはいられなかった。

展示の難しさという点では、当館での古美術展示の難しさも痛感させられた。今回展示した資料は多くが県指定文化財であり、中にはいまだかつて寺外に出たことがない秘仏「木造虚空蔵菩薩坐像」(大光寺蔵)など美術的な価値からも屈指の名宝が揃った。それらは脆弱な作品も多く、特に照度については資料保護の観点からできるだけ落とし暗くする必要があった。

見やすさと暗さの両立には、それなりの設備と工夫が必要であるが、当館の特別展示室は、天井が低く外部との遮蔽性もほとんどないことから通常の展示でも照明に苦労させられている。加えて、低反射ガラスのケースもないため、資料に当たる光量を抑えれば、暗さで資料が見にくくなるばかりでなく、ガラスが反射して鏡のようになり資料がほとんど見えない。明るくすれば資料が劣化し、暗くすれば資料が見えなくなるという相反する状況のもと、試行錯誤の末に何とか見えるように調整した。それでもアンケートには「見にくい」という声が多々寄せられた。今後も試行錯誤を繰り返すよりほかないが、担当としては今後の展示技法について大きな宿題を与えられたように感じた。

本展では、2つの連携企画も実施した。

1つは、マンガ『国宝のお医者さん』とのコラボレーションである。これは、たまたま担当者が読んでいた同作品の内容が、本展の趣旨や意図に合致していることから一部を図録へ転載したいと思い、その許可を(株)KADOKAWAに申し出たことから始まったことである。作者の芳井アキ氏並びに担当編集者の方の格別なご配慮・ご厚情により、無償で作品を使用できただけでなく、複製原画の展示など全面的な協力を得ることができた。とかく敷居が高いと感じられがちな文化財の世界だが、マンガという要素が加わったことで展示が多少なりとも身近に感じられたのではないかと思う。また、同社や作品のファンのSNSを通じて本展を宣伝していただいたことは、誠に効果的であった。今後もこのような機会があれば前向きにコラボレーションしていくべきと感じた。

もう1つは、文化庁の「記念物100周年事業」としてパネル展を同時開催できたことである。文化庁のホームページに掲載されたこと、記念事業のロゴマークが使えたこと、そして文化庁が作成し

提供したパネル用データから作成したパネルを展示できたことは大変ありがたかった。本展の趣旨である文化財保護の普及という点で、記念物について解説し、最新の取り組みまでも紹介する当パネル展は、見学者にとって記念物という視点から我が国における文化財保護制度を俯瞰する良い契機になったものと思われる。「名宝展」と合わせて見ることで、地域/全国という2つの異なる視点から文化財保護について学びつつ、より深く理解することができたのではないだろうか。

今回、記念事業ということで、通常の当館の特別展に比して極めて「贅沢」な展示であった。その分、費用や監視員の配置と言った点で課題もあった。そこで今回は2つの新たな取り組みを取り入れた。前者については、本市の「文化スポーツ振興基金」からの繰入金を本展経費の財源として充当することとした。ふるさと納税により増加している基金を当館の事業に活かすことは十分に意義のあることを示すことができた。後者については、展示の監視を市民学芸員にお願いした。事故もなく会期を終えることができたこと、また多くのアンケートを回収できたことなど、市民学芸員の貢献は多大であった。

以上、本展を大まかに振り返ってみたが、「文化財を通して地域の文化・歴史を再認識する」という点において、本展は少なからぬ役割を果たしたと思われる。アンケートでも「このような宝物があったことを初めて知った」という旨の声が多数寄せられた。これは企画者としては喜ばしい反響であり、素直に評価したい所である。

しかしながら裏返して考えると、私たち文化財・博物館関係者の想像以上に地域の文化財・地域遺産が認識されていないとも言えるのではなからうか。今回展示したのは、いずれも県指定クラスである。指定の有無や指定者によって地域に存する文化財の価値や優劣をあげつらうものではないことはいうまでもないが、それでも

一般的には「未指定より指定」、「市指定より県指定」の方が優れている(=お宝感がある)イメージはあるだろう。にもかかわらず県指定ですらこれほどに知名度の低い状態である。市指定や未指定にあっては推して知るべしであろう。このことは、地域博物館である当館が、今後も活動の充実を図り、より一層の情報発信を行うべき必要性を示していると言える。

本展は、近年まれに見る来館者数を記録するとともに、通常非公開の仏像など貴重な文化財を一堂に会した点等において開館記念事業にふさわしい展示であった。また、マンガとのコラボレーションなど新たな取り組みを行った点でも評価できる。一方で、資料の脈絡の無さから系統立てた調査・展示ができず、内容が表層的であった点は反省せずにはいられない。

記念事業である以上、「打ち上げ花火」的であることは仕方がないのかもしれない。しかし、その「打ち上げ花火」によって、はからずも地域の歴史や文化を掘り起こす地道な地域博物館の基本的な取り組みの重要性に光が当てられ、再び認識する契機となったとも言える。

開館30年という節目の年を迎えて、改めて地域博物館としての原点に立ち返り、基礎・基本の大切さを明白にしたという点において、本展の意義は少なからぬものがあったと言えるのではないだろうか。



入館状況

◆開館30年記念特別展 「飯能の名宝」 展示資料目録

(敬称略)

No.	章	名称	所有者・寄贈者	備考
1	I	写真「天覧山の勝」	飯能市教育委員会	能仁寺所有
2	I	「飯能名勝絵はかき」	牛込 努	
3	I	『四季の武蔵野』	白田 昭一	
4	I	写真「滝の入タブの木」	飯能市教育委員会	富士浅間神社所有
5	I	写真「子の権現の二本スギ」	飯能市教育委員会	子ノ権現天龍寺所有
6	I	写真「見返り坂の飯能ササ」	飯能市教育委員会	西武鉄道(株)所有

No.	章	名 称	所有者・寄贈者・管理者	備 考
7	I	写真「高山不動の大イチョウ」	飯能市教育委員会	常楽院所有
8	I	写真「飯能の大ケヤキ」	飯能市教育委員会	神明神社所有
9	I	写真「南川のウラジロガシ林」	飯能市教育委員会	個人所有
10	I	写真「中山信吉墓」	飯能市教育委員会	智観寺所有
11	I	写真「中山家範館跡」	飯能市教育委員会	個人所有
12	I	写真「石灰焼場跡」	飯能市教育委員会	飯能市所有
13	I	写真「本橋溪水筆塚」	飯能市教育委員会	加治神社所有
14	I	写真「観音窟石龕」	飯能市教育委員会	西武建材(株)所有
15	II	写真「白鬚神社本殿」	飯能市教育委員会	白鬚神社所有
16	II	写真「長光寺の惣門」	飯能市教育委員会	長光寺所有
17	II	写真「長光寺本堂」(新旧2組)	飯能市教育委員会	長光寺所有
18	II	長光寺本堂柱頭組物模型	飯能市教育委員会	
19	II	写真「常楽院不動堂」	飯能市教育委員会	常楽院所有
20	II	写真「名栗川橋」	飯能市教育委員会	飯能市所有
21	II	刀 銘 表 日州古屋之住実忠作 裏 永禄十二年五月五日	個人(当館寄託)	
22	II	白鬚神社御正体(4点)	白鬚神社	
23	II	木造来迎阿弥陀如来立像	鳥居観音	
24	II	木造薬師如来坐像	常 楽 院	
25	II	木造聖観音菩薩坐像	長 念 寺	
26	II	写真「木造地藏菩薩坐像」	飯能市教育委員会	法光寺所有
27	II	木造虚空蔵菩薩坐像	大 光 寺	11/13からは写真展示
28	II	鉄造阿弥陀三尊立像	福 徳 寺	11/13からは写真展示
29	II	銅板経(野口家宝印塔塔内納入品のうち)	個人(当館寄託)	市指定(考古資料)
30	II	野口観音堂奉納経	個人(当館寄託)	市指定(歴史資料)
31	II	長念寺寺領に関する文書(うち3点)	長 念 寺	市指定(書跡・古文書)
32	II	絹本着色不動明王画像	常 楽 院	11/10までは写真展示
33	II	写真「絹本着色仏涅槃図」	埼玉県立歴史と民俗の博物館	智観寺所有
34	II	写真「中山信吉木碑」	飯能市教育委員会	智観寺所有
35	II	写真「智観寺板石塔婆」	飯能市教育委員会	智観寺所有
36	III	双盤鉦	西 光 寺	
37	III	双盤鉦の代用品	西 光 寺	
38	III	太鼓	西 光 寺	
39	III	写真「落合西光寺双盤念仏」	飯能市教育委員会	
40	III	獅子頭(3点)	下名栗諏訪神社	
41	III	写真「下名栗の獅子舞」	関根 健二	
42	IV	スリコミイタ(飯能の西川材関係用具のうち・2点)	埼玉県農林総合センター	
43	IV	カワマワシ・マワシイレ(飯能の西川材関係用具のうち・3点)	高野桂一・村野源一・池田森吉	
44	IV	マエビキノコ(飯能の西川材関係用具のうち)	名栗村教育委員会	
45	IV	シャクボウ(飯能の西川材関係用具のうち)	中里 吉平	
46	IV	シルシバンテン(飯能の西川材関係用具のうち)	こめよし商店	
47	IV	コビキイタ(飯能の西川材関係用具のうち)	関根 義雄	
48	IV	写真「伐採現場」	吉田 一博	
49	IV	ソリ(飯能の西川材関係用具のうち)	高野 桂一	
50	IV	写真「ソリ曳き」	清水登代子	
51	IV	石器(小岩井渡場遺跡出土遺物・35点)	飯能市教育委員会	県選定重要遺跡出土
52	IV	土器(小岩井渡場遺跡出土遺物・3点)	飯能市教育委員会	県選定重要遺跡出土
53	IV	写真「小岩井渡場遺跡の発掘」	飯能市教育委員会	
54	V	写真「常楽院不動堂屋根修理」	飯能市教育委員会	
55	V	写真「福德寺阿弥陀堂防火訓練」	飯能市教育委員会	
56	V	写真「上畑自治会館での調査会」	当 館	
57	V	写真「落合西光寺双盤念仏記録保存調査」	飯能市教育委員会	
58	V	写真「郷土芸能フェスティバル」	飯能市教育委員会	
59	V	写真「夏休み子ども文化財教室」	飯能市教育委員会	
60	V	DVD「落合西光寺双盤念仏」	当 館	
61	V	「飯能市文化財時報」	飯能市教育委員会	
62	V	文化財調査関係資料	飯能市教育委員会	
63		芳井アキ著『国宝のお医者さん』第1話複製原画	(株)KADOKAWA	

| 来 | 館 | 者 | の | 声 |

- 文化財についてよく理解できた。
- 心の栄養になりました。
- 身近にあって目に触れる機会が少ない有形無形の貴重な文化財を目にすることができてとても嬉しく思いました。ご苦労が多かったことと思います。ありがとうございました。
- 普段見ることのできない名宝を見ることができてとても良かった。ここにはないものも実際に行ってみてみたいと思った。
- このような展示はとても大事なことと思うし地域の方たちにも今以上に知っていただけると良い。
- 飯能にこれほどの名宝があるとは初めて知った。
- 大変興味深い展示でした。寺院や武家の宝物以外にも市井の人々の生活に根付いた文化を示す物品や西川材の歴史をとどめる物などが含まれていることが素晴らしいと思います。以前の吾野展に続く好企画でした。
- 無料なので立ち寄りました。予想以上の展示で満足です。
- 文化財に有形、無形、民俗などがあるのを初めて知った。鋸も文化財になることを知った。
- 近くで見ることができないものを横や下からじっくりと味わうことができて大満足でした。
- 無形文化財についてもちゃんと扱っているのが良かった。
- 小中高生にもPRして見に来てもらいたい。
- 仏像には興味があり、以前より飯能にはないと思っていましたが素晴らしい物がたくさんある事がわかりました。
- マンガとのタイアップがすごくて、ここまでやって使用料とか大丈夫なのかと思ってしまった。
- 全体的に見学ルートが分かりやすかった。展示物も充実している。
- 名宝展ということで来たが数が少なく残念。
- もう少し大きい会場で行った方がいい。
- 文化財の現物だけでなく保護に至る前の記録員の手記・カードが興味深かった。詳細で臨場感を感じられた。
- 秘仏を拝見できたことがうれしかった。仏像を見るのが好きなので他にもたくさん飯能や周辺の仏様を見たいです。
- 興味深い仏像が展示され楽しかった。法衣のドレープの表現の仕方での時代の違いが現れるなどの説明があるともっと関心を寄せられるのではと思いました。
- 像が作られた時代背景と信仰の深さ、技術のすばらしさ、大切に保存されていること、全てに感激しました。
- もう少しこの地域の歴史を他の地域の歴史と見比べられるようなパネルがあると良かった。
- 説明が優等生的で読みとばしてしまう。
- 仏像(特に常楽院蔵)はもう少し高い展示台が使われたほうが良いと思います。
- 仏像に対する調査が不足しているのではないか。年代等もう少し詳細なことを調べてほしい。展示の仕方に工夫が必要。ガラス越しに見るだけではよさが伝わらないのでは。
- ライトがガラスに反射して見にくい所があった。
- 中央の展示物が少し暗くて見えにくいです。
- もう少し明るいと良いですね。
- 古い文は読めない。何と書いてあるか具体的に書かれていると良いと思いました。
- パネルが場所によっては少し小さかったが、大きくするとおしゃれじゃなくなるので難しい。
- 寺等の所在地が書かれていないパネルがありました。地元民にとってはどの辺りにあるか興味があるので住所(大字ぐらい)はほしかった。
- 地名だけでは市内のどの辺りか分からないので入り口にある地図を縮小して各展示品のわきに置いていただくの良いと思います。
- 写真OKであればありがたいと思います。
- 特別展は毎年期待しています。毎年楽しみにしています。上野の博物館のように音製入りの説明(イヤホン型)業者に依頼検討しては…。予算もあります。
- 文化財の保護は地味で目立たない仕事です。難しいです。大変です。みんなが文化の深みを知り、大切にする心を持ちたいものだと思います。あと、入り口に入ってすぐわきにある今月の一品コーナーがとてもとても良いと思いました。身近にあるあのような文化、大切です。大事にしていきたいものです。

収蔵品展 「きつとすクロニクル」

期 間 平成31年4月21日(日)～
令和元年5月26日(日)

開館日数 32日間
入館者数 3,183人(1日平均99.5人)
展示点数 98点

1 趣 旨

平成31年は改元の年であるとともに、当館が平成2年に開館して30年目の節目の年である。平成生まれの当館は、平成と共に歩んできたと言っても良い。そこで本展示は、当館の軌跡を展示するとともに、本市における平成の歴史を示す展示を行うことで当館及び平成の歩みを振り返る契機とした。また、歴史的節目を迎えることを周知するとともに、今後開催される周年記念事業への機運を高めることを目的とした。

なお、展示ホールにおいては、平成30年度に新たに寄贈された資料の一部を紹介する「新収蔵品展」を同時に開催した。

2 展示の構成

本展示は編年的に当館の歩みを開館から現在まで紹介するものであるため章立てはせず、開館した平成2年以降の各年における特別展ポスター並びにそこで取り上げた収蔵品を中心に展示するとともに、平成における飯能の出来事を紹介するコーナーを設け、平成の31年間を俯瞰した。

3 印刷物

ポスター (B2判カラー)	300部
チラシ (A4判モノクロ)	280枚

4 反省と展望

展示のふりかえりはポスターとともに各展の概要を示す解説文を入れ、関連する資料を展示するなどした。什器の制限から、展示風景の写真や関連資料の展示を増やすことができなかった。また飯能の平成史コーナーでは、文字サイズを大きくするため壁面の年表に上げる項目を各年2つに絞った。その結果見やすくなったと思

うが、このような資料も歴史的な資料としていずれ価値を持つ旨を解説として添えておけば、より意義ある展示となったであろう。

今回、新たな試みとして取り入れたフォトスポットは、大変好評だった。インスタグラムに投稿した来館者もあり、当初の目論見どおりとなった。今後の展示・事業において、フォトスポットの設置は、有効なコンテンツとして活用できるものと感じた。

タイトルの「きつとすクロニクル」については、「クロニクル」の意味が分からない、との声が複数寄せられた。近年、テレビ番組のタイトルや新聞・雑誌記事の見出しに使われることもままあることから使用したのだが、まだ一般的な言葉ではなかったようだ。分かりやすいタイトルは往々にして陳腐となり、凝ったタイトルは理解されにくいというこの矛盾した課題をどのように解決するか、今後の課題である。



展示風景

来館者の声

- 毎年やっている企画展のポスターを見てよく頑張っているなあと思いました。(60代)
- 歴代のポスターが面白かった。懐かしいこと、知らなかったこと…ちょっとしたタイムトラベラー気分であります。地味だけどとても大切なことだと思います。(50代)
- 新語流行語のパネル付きだったので、自分の30年を振り返る機会をいただいたような良い展示でした。(60代)
- 今まで行った展示の紹介だけかと思っていましたが、実際に展示した資料も展示してあったので、嬉しかったです。(20代)

その他の展示

「天覧山・多峯主山の植物 夏編」刊行記念自然写真展

愛しき夏の植物たち

期 間 令和元年6月15日(土)～7月28日(日)
開館日数 33日間
入館者数 3,962人
展示点数 37点

1 趣 旨

飯能市教育委員会により平成31年3月に『天覧山・多峯主山の植物 夏編』が発行されたことを記念し、主にそれに掲載した写真を展示することによって、天覧山・多峯主山とそこに生息する植物の魅力を伝えることを目的とした。また飯能市内で見ることのできるものの中で、来館者が1つ好きな植物を見つけられるような展示を目指した。

2 展示の構成

最初に里山である天覧山・多峯主山の魅力を伝え、その代表的な環境と、その環境に自生する植物を紹介した。次に視覚で感じてもらえるように、色と形がおもしろい植物を取り上げた。さらにフィールドでの植物観察のおもしろさを伝えるために、同じ地点における時間帯による変化と嗅覚での観察を紹介した。締めくくりとして天覧山・多峯主山の保全活動の紹介と観察のマナーを伝え、フィールドへと誘うパネルを展示した。

3 印刷物

ポスター (B2判カラー) 12枚
チラシ (A4判モノクロ) 260枚

4 反省と評価

アンケートによれば、写真展を見て「天覧山・多峯主山に行ってみよう」「機会があれば行ってみよう」と答えた方が約88%で、多くの方に天覧山・多峯主山の魅力を伝えることができたように思う。また、印象に残った写真を訊いたところ67%の人から回答があり、コアジサイやカラスウリ、ランの仲間などが挙げられていた。これらは視覚的に印象に残ったものや知らなかったものが多く、展示を見て好きな植物を見つけることができた人がいたと評価できる。また、今回展示期間中に、自然観察会「いつもよりもっと知る！天覧山の夏の植

物」を実施したが、天覧山・多峯主山の魅力に触れるのに、本、展示、観察会と多角的にアプローチできたことも良かった。

反省点としては、花の模様を伝えるため、個人提供の写真を撮影者の同意なしにトリミングして展示してしまったことが挙げられる。むろん提供者には当館の事業で使わせていただくことの承諾を得ているが、これは著作権法に定める著作物の同一性保持の点で問題があった。以後、その取扱いには十分に気をつけていきたい。今回は、植物やその生育環境を説明する展示としたが、今後、天覧山・多峯主山の魅力をさらに伝えていくため、写真をコラージュのように展示するなど展示方法を工夫していきたい。



展示風景

来館者の声

- 天覧山・多峯主山を大切にしたいと思いました。日常のなかにある非日常に気づかせてくれて、ありがとう!!! (50代)
- 解説がすごく面白く勉強になりました。この知識をエコツアーに利用したいと思います。 (60代)
- 名前の由来など短い文章でわかりやすく解説してあったのがよかったです。 (30代)
- 自然の草花に興味を持ち始め、写真を撮ることも好きで、こちらでの知識を得て、ますます趣味の世界が広がる楽しみを感じました。 (60代)
- 山野・湿原に咲く植物をもっと詳しく解説してくれる講座とかあるとよいですね。 (60代)
- 時々寄ってみるが、いつも新しい発見がある。 (60代)
- この程度の量の展示だと疲れすぎず楽しめます。 (50代)

飯能市平和都市宣言記念

ヒロシマ・ナガサキ 原爆写真パネル展

期 間 令和元年7月14日(日)～8月25日(日)
開館日数 37日間
入館者数 5,214人
展示点数 33点

1 趣 旨

飯能市は平成31年3月16日に「飯能市平和都市宣言」を制定した。これは、飯能市の平和の象徴である、豊かな自然や文化、人々の優しさや思いやりの心を次世代に引き継いでいくとともに、人類共通の願いである世界の恒久平和に貢献していこうとするものである。

そこで宣言にもあるように、戦争の悲惨さと核兵器の恐ろしさを決して忘れないようにするとともに、本市が世界の恒久平和に貢献していくことを広くアピールするため、ヒロシマ・ナガサキの原爆被害の実相を伝えるパネルを広島平和記念資料館より借用し展示した。

2 展示の構成

展示の中心は広島平和記念資料館から借用した33枚のA1判パネルである。ただし、趣旨は本市の平和都市宣言を広く市民に知ってもらうことにあったので、市長の署名が入った平和都市宣言と平和都市宣言の趣旨を説明したパネルを特別展示室の中央、入口から正面のところにFkeパネル2枚を設置して展示した。そしてそれを取り囲むようにヒロシマ・ナガサキの原爆に関わる写真パネルを壁面に配置した。さらに展示ホールにはFkeパネルを設置し、そこに平和のメッセージを記すことのできる「平和の木」と来年度のヒロシマ・ナガサキ原爆展のPRパネルを展示した。

3 印刷物

ポスター(B2判・A3版カラー) 59枚
チラシ(A4版モノクロ) 6,000枚

4 反省と評価

本展示会は平和都市宣言の制定を受けての事業であることから、その目的はその趣旨を多く

の人たちに知ってもらうことにあった。アンケートの結果では、来館した人の6割が平和都市宣言を制定したことを知らなかったのが、単純に計算すれば3,000人ほどの人にその存在を知ってもらったことになる。また来館者の84%にあたる人が、平和都市宣言の趣旨を理解したと回答しており、当初の目的をほぼ達成することができたといえるであろう。

また注目すべきは、小学生や中学生を含む家族での来館が多かった点にある。実際にアンケート結果からも小・中学生が20%、20～40歳代が25%を超え、50歳未満が入館者のほぼ半数を占めていた。通常の展示会ではこの層は多くても3割程度であることから、若い年齢層が多く来館し、平和は若年層を含む広い層に関心のあるテーマであることが確認できた。

当館のミッションに「歴史や文化を現在、そして未来へと活かしていく博物館をめざします」という項がある。平和に関わる事業は、災害教訓を伝承することとならんで、このミッションを具現化するものと位置付けられる。今後も継続して取り組んでいく必要がある。

来館者の声

- このような出来事を二度と繰り返さないためにも、1人1人が核廃止について考えることが大事だと思いました。(10代)
- 私がヒロシマ・ナガサキの原爆について知っていたことは、とても小さいと思いました。…原爆はなくなってほしいと思いました。(小学生)
- 夏休みなので母と私と子どもで来ました、…改めて戦争や原爆の恐ろしさを感じる機会になりました。(30代)
- 飯能市平和都市宣言についても知ろうと思いました。(30代)
- なかなか現場に行けないから、今回の機会はとても貴重なものでした。(20代)
- 原爆の被害の悲惨さは後世に語り継ぎ、平和の尊さ、大切さを持ち続けられるようにしていくべき。(20代)
- 原爆の本が(展示室に)2冊あって、それを読んでもますます心うたれた。(70代)
- 地元の博物館でこのような展示が行われ、うれしく思います。(60代)
- 日本人は戦争加害者である意識が薄すぎる。…日本が加害した側の展示もして欲しい。(40代)

〔その他の展示〕

(日 時) 2月9日(日)
午前10時～正午・午後1時～3時
(参加者) アイロン 63人/石臼 96人

○駿河台大学野村ゼミナール企画展示「和文化

再発見 着物・きもの・kimono
期 間 6月9日(日)～6月23日(日)
開館日数 13日間
入館者数 1,227人(1日平均94.4人)
展示点数 39点

○ミニ展示「ひなまつり」

期 間 2月23日(日)～3月8日(日)
開館日数 14日間
入館者数 1,766人(1日平均126.1人)
展示点数 28点

◇関連事業

「折り紙でおるおひな様」

→2/29(土)に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

○西武池袋線吾野延伸90年・秩父線開通50年記

念ミニ展示「武蔵野鉄道・西武鉄道」
期 間 8月3日(土)～9月8日(日)
開館日数 32日間
入館者数 4,103人(1日平均128.2人)
展示点数 30点

○小学3年生見学対応展示「むかしの暮らし～民家の台所再現～」

期 間 1月5日(日)～2月11日(火)
開館日数 31日間
入館者数 4,300人(1日平均138.7人)
展示点数 47点

◇関連事業

「火のし・炭火アイロン/石臼体験」



西武池袋線吾野延伸90年・秩父線開通50年記念ミニ展

◎今月の一品

エントランス入口右側、展示台上の縦・横・高さともに60cmのケース内に、月替わりで収蔵資料を展示しているもので、収蔵資料の活用場というだけでなく、最近の資料整理や調査研究活動など日ごろの地道な資料研究の成果を発表する場にもなっている。当年度に展示した資料は下記のとおりである。

◆令和元年度展示資料一覧

月	タイトル	資料番号等	担当者
4月	改元の伝わり方(江戸時代編)	浅見讓二家 No.30・35・中村正夫家 No.1986	尾崎
5月	梅花が描かれた徳利	民具 No.1801-2(木崎良弘氏寄贈)・1908・1909・1911(大沢芳氏寄贈)・4304(浅見政一氏寄贈)	引間
6月	地域に残る武州世直し一揆の記録	中村正夫家 No.380	金澤
7月	昭和20年8月6日の飯能	飯能第二小学校 No.48-1	尾崎
8月	防空訓練の腕章	民具 No.2258・2259(中村源一氏寄贈)	引間
9月	秋季大運動会順序	中村好男家 No.21・22	金澤
10月	昭和御大礼記念絵葉書	中山忠三九家 No.29	尾崎
11月	メンパ	民具 No.2363(大河原長吉氏寄贈)	引間
12月	山川文庫蔵書目録	山川義太郎家 No.160	金澤
1月	子年の引札	広告資料 No.28	尾崎
2月	浮世人形「花咲翁」	民具 No.5875(中村治夫氏寄贈)	引間
3月	高等師範学校附属音楽学校卒業式関係資料	山川義太郎家 No.227～229	金澤

夏休み子ども歴史教室 古文書に挑戦！

～くずし字を読んで・遊んで・書いてみよう～

日 時 令和元年8月7日(水)
午前9時30分～午後3時30分
対 象 小学生
参加者数 15名
会 場 市民会館会議室202、当館歴史展示室、
身近な自然コーナー
指 導 者 金澤花陽乃・博物館実習生(5人)

1 趣旨

本事業は、博物館が取り扱う資料の中でも「難しいもの」として敬遠されがちな古文書(くずし字)について、遊びを通じて「楽しいもの」だと感じてもらうと同時に、歴史や博物館に少しでも親しんでもらうことを目的として開催したものである。

くずし字をテーマとした夏休み子ども歴史教室は平成29年に一度行っており、子どもたちのくずし字への興味・理解力はこちらの予想を上回るものであるという感触を得ていた。しかしながら、そこから歴史への興味へと繋がったかという点については課題が残った。そこで今回は、前回子どもたちから評判が良かったゲームや工作といった要素は活かしつつも内容は一新し、更に歴史展示室を使ったプログラムを加えることで、まずは博物館を身近に感じてもらい、その展示から歴史的な物へと興味を持ってもらうことを目指した。

2 内容

当初の予定では当館の学習研修室をメインの会場とする予定であったが、7月末に同室の空調設備が故障したため、午前は市民会館、午後は当館展示室と会場を移動して実施した。進行は以下の通りである。

①導入

くずし字や変体仮名についての基本的な説明を行った。これらの文字は昔の人が使っていたものではあるものの、現在でもあちこちで見られることを伝え、数点の古文書を見せた。

②変体仮名魚釣りゲーム



高い点を狙って、変体仮名魚釣りゲーム

本ゲームは、スクリーンに変体仮名で表示された海の生き物の名前を、暗号解読表(変体仮名50音表)を使って解読し、生き物の絵が描かれたカードがちりばめられた釣り堀の中から該当する獲物を釣り上げるものである。

子どもたちは博物館実習生をリーダーとした5つのチームに分かれ、前半はチームごとの釣り場で釣りをを行い、問題を解読して釣り上げる早さを競った。その後、釣り場を一つにまとめ、カードの中央にくずし字の漢数字を貼り付けた。後半も基本的には同じ方式で行ったが、今度は問題に加えてカードに貼られた数字も解読した上で、大きな一つの釣り場からなるべく点数の高い獲物を釣ってもらいその合計点を競った。

前半と後半で計4回ゲームを行い、合計点数の高いチームから、午後の作業で使うしおりの台紙を選んでもらった。

③休憩

魚釣りゲーム終了後、子どもたちには昼休憩に入ってもらい、休憩終了後に実習生による引率のもと、全員で博物館へ移動した。この間に職員は市民会館の片付けと博物館内での設営を行った。

④しおり、宝物カード作り

しおりは、午前の最後に選んだ台紙に変体仮名で名前を書き、好きな色で塗ってもらった。

宝物カードは、1人につき3枚作成した。1枚は見本として用意した軍荼利明王立像、残りの2枚は様式だけ印刷したオリジナル用のものである。子どもたちにはまず歴史展示室へ行ってもらい、各自が選んだ展示資料の名称と自分の名前をカードに変体仮名で記入し、スケッチをした後にその



宝物カードを作成する

資料の見どころや気がついた点、気に入った点などを書き込んでもらった。

しおり、カードとも書き終わったらパウチし、角を落としたり切り抜いたりして完成させた。

⑤クロスワードタイム

工作物は終了時間に個人差があることが前回の経験からわかっていたため、早く終わった子には変体仮名クロスワードを解いてもらった。前は2種を用意したが足りなかったため、今回は7種に増やした。

⑥閉会

最後に自分の作った宝物カードを各自発表してもらい、記念撮影をして閉会とした。

3 反省・評価

まず、応募状況については、定員に達するのが想定よりも早かった。したがって予定していたチラシの配布は中止した。

当日の運営に関しては、直前の会場変更があったものの概ね順調に進行することができた。魚釣りゲームでは、初対面の人同士でチームを組むことに戸惑いを見せた子もいたが、次第に打ち解け、最終的には皆夢中になってゲームに興じていた。しおり・宝物カード作りでは途中で飽きてしまったように見受けられる子もいたものの、ほとんどの参加者が熱心に作品を作っていた。また、アンケートの結果を見ると「普通」と答えた1人以外は「とても楽しかった」「楽しかった」と回答しており、参加者の満足度は概ね高かったといえるだろう。

課題や反省点については、主に以下の2点があげられる。1つ目は、自らの興味・意思で参加していない子へのアプローチについてである。当日何人かの参加者に当事業への参加の動機について聞いたところ、広報を見た家族に勧められたり、友だちに誘われたりして参加した、という回答が

多かった。このような形で参加した子は当然ながら事業の内容に対してはもと興味を持っておらず、それが先述した「飽き」に繋がってしまったのではないかと考えられる。また、アンケートで「夏休み子ども歴史教室にまた参加したいと思いますか?」と問いかけたところ、「ぜひ参加したい」が4人しかいなかった要因もこのあたりにあるのかもしれない。自主的に参加をしていない子をいかに引き込むかが課題である。

2つ目は、歴史に対する興味への繋げ方、という点である。今回掲げた目標のうち、事業を通じてくずし字を楽しんでもらうことに関しては達成できたといえよう。しかし、その楽しさを博物館・歴史への興味・関心に繋げられたかといえば、手応えはあまり無く、成功したとは言えないのが実状である。この課題は前回から持ち越されたものであったが、今回も克服することができなかった。未だ理論・手法ともに模索中であり、これからも試行錯誤しながら少しずつ色々な方法を試していきたい。

実習生の評価

- 変体仮名が現在も使われている場所があることを紹介したのが良かったと思う。
- (魚釣りゲームについて)自分で解読せず、ほかのチームが話しているのを聞いて、獲物を釣ろうとした子がいた。話が聞こえないような工夫が必要だったかもしれない。
- 海の生き物のしおりは、みんなとても喜んでいて。友達同士でお揃いにしたり、自分の好きな形を選んだりできるのが嬉しかったようだ。
- 自分の興味のもとに参加していない子を、1日楽しませるのは難しい。

参加者の声

- とても楽しかったです。またさんかしたいです。(3年)
- 最初はくずし字が何かも知らなかったのに、最後には表を見なくてもだいたい読めるようになって良かったです。(4年)
- さかなつりが楽しかったです。(4年)
- 魚つりとかしおりづくりなど、とても楽しかったです。(6年)
- とても楽しかったし、しっかり知れました。(6年)
- とても楽しかったです。くずし字が読めて良かったです。(6年)
- みんなでわいわい楽しめてよかったです。(6年)

はじめての古文書講座

日 時 令和元年11月13日(水)・20日(水)・
27日(水)・12月4日(水)
午後2時～3時30分

対 象 一般

参加者数 29名

会 場 当館学習研修室

講 師 金澤花陽乃(当館学芸員)・
尾崎泰弘(当館館長)

1 趣旨

当館における資料利用で最も多くの点数を占めているのが、古文書である。しかし、これは一件あたりの閲覧点数が多いためであり、件数にするとその数は途端に少なくなる。また、古文書利用者の年齢層は他の資料の利用者と比して高い傾向にあり、今後利用件数がさらに減っていくことが懸念される。そこで、古文書初学者を対象に、古文書に親しんで(学習の機会を提供することで心のハードルを下げて)もらい、当館収蔵資料の将来的な利用者を増やすことを目的として本講座を開講した。

2 内容

講座は全4回とした。各回の使用史料と内容は以下の通り。

第1回 「相続人送一札之事」(岡部家文書 No.899)

第2回 「武蔵国高麗郡矢嵐村差出明細帳」(中村家文書 No.395)

第3回 「乍恐書付を以御訴奉申上候」(中村家文書 No.1564)

第4回 「焼失御届書」(智観寺文書)

第1回から第3回までは、近世の地方文書のなかでもスタンダードな形式の文書を使用し、文書の構成や歴史用語など古文書を読み解くうえで必要な基礎知識の習得を目指した。これは、ただ文字の解読に取り組むよりも、文書や近世の基本的な知識を身に着けておいた方が結果として早く解読できるようになる、という考えによるものである。テキストは文書の写真と解説編の2種類を用意し、1行ずつ読み下しと解説を行う形式で進めた。

第4回はそれまでとは講義の進め方を変え、まず受講者に資料写真のみを渡して解読に挑戦して



熱心に講師の話に聞き入る受講者

もらった。その後、翻刻文と読み下し文を渡して答え合わせと解説を行った。

3 反省・評価

本講座では、受講者に古文書初学者が多いことから、できるだけ配布資料を少なく簡潔にした方が良くと考え、第1回から3回は読み下し文を配らずに読み上げる形とした。しかし、これが裏目に出てしまい、受講者アンケートでは「解説の途中で該当箇所がわからなくなってしまった」「訓点だけでは読みがわからない」といった意見が寄せられた。上記意見については受講者が史料全体に目を通す時間を最初に取りなかつたことも要因の一つと考えられるため、今後は毎回読み下し文を配るとともに、最初に受講者が史料全体を確認できる時間を取りたい。

また、くずし字解読のヒントを伝える際に、第1回～3回は形状、第4回は筆の運びからアプローチした。どちらのアプローチの方が伝わりやすいかは受け手により変わるが、今回の場合は受講者の年齢層が比較的高いこともあり、筆の運びからのアプローチの方が伝わりやすかつたようであった。第1回～3回についても受講者の年齢や嗜好を探りながら、柔軟にアプローチの仕方を変えていくべきであった。

以上のような課題は残るものの、講座終了後のアンケートでは各回とも9割以上の受講者が「楽しかつた」「やや楽しかつた」と回答した。また、継続的な学習を目的として本講座終了後に発足した古文書学習サークル(古文書を読む会)へは7割の受講者が参加を希望していることから、開講の目的は概ね達成できたと考えられ、事業としては成功であつたと言えるだろう。

自然講座 飯能の地形・地質

天覧山の ひみつをさぐれ!

日 時 令和2年2月15日(土)
午前9時30分～午後0時30分
対 象 小学3年生以上(小学生は保護者同伴)
参加者数 30名
会 場 天覧山周辺及び当館学習研修室
講 師 久津間文隆氏(大東文化大学講師)
協 力 者 篠田祐人氏・長嶋一樹氏(大東文化大学
学生)



熱心に顕微鏡で放散虫を観察する参加者

1 趣旨

平成30年度の夏休み期間、小学生の地域調べの宿題で、もっとも当館に多く寄せられた質問は「チャート」についてだった。チャートとは天覧山山頂付近でよく見られる岩石のことだが、岩石そのものについて教えることが多く、地域学習のためには、なぜそこに多いのかといった天覧山に結び付けた理解をすることが必要だと考えた。

そこで本講座は初心者向けの地学講座とし、子どもから大人までを対象に、天覧山の構造と成り立ちを中心に、飯能市域の地形や地質を学ぶ内容にした。本講座をきっかけとして、地域の自然の魅力を知り、郷土の自然に親しんでもらうことを目的とした。

2 内容

全体の流れとしては、最初に天覧山を歩き地質や地形などを観察した後に講義でまとめを行った。天覧山へは諏訪沢入りから登り、十六羅漢像、鏡岩を経由して天覧山山頂までの道のりでチャートの岩石を観察した。山頂では、眺望から分かる市全体の地形の話があり、下山時に山裾で砂岩を観察した。

参加者は博物館に戻ってから、山頂と山裾の地質の違いを実験でも確認し、天覧山の成り立ちを学んだ。そして市内で見られる岩石をはじめとしてチャートの性質を、実験も交えつつ確かめた。最後に、チャートをつくる放散虫を実体顕微鏡で観察して終了したが、講座が終わった後も、参加

者からは講師への積極的な質問が相次いだ。

3 反省・評価

今回は、現地観察をしてから室内でまとめという流れをとったことで、参加者から「理解しやすかった」「まわりとのつながりがわかった」との声がきかれた。アンケートの感想でも、観察と講義、実験等の様々な方法で解説したまとめが、分かりやすく楽しかったという意見が多かった。本事業から、講義に観察を織り交ぜることが学習には効果的だということを実感した。一方で子どもに対する説明では課題が残った。

講師には子どもでもわかりやすいように講義をしていただいたが、子どもが理解していなかったり、大切なキーワードが伝わっていなかったりした。今後の企画では、子どもが集中できる作業を盛り込むなどの工夫が必要である。アンケートを見ると、満足度は子どもが75%、大人が95.4%であり、今後の参加希望は大人の方が高いなど、子どもたちよりも一般参加者や保護者の方が講座内容に興味関心があったようだ。

今回の自然講座は定員数を超えた申し込みがあった。参加者に本観察会に興味を持った理由をうかがったところ、「半日で気軽に参加できそうだったから」「面白そうだったから」「子どもが調べ学習のテーマをチャートにしたことがあったから」などの回答が寄せられた。今回、開催時間を1日ではなく午前中としたことで、様々な方により気軽に参加していただけたように思う。

春の自然講座

飯能河原のいきものたち

日 時 平成31年4月13日(土)
午後2時～4時
対 象 一般
会 場 当館学習研修室
参加者数 20人
講 師 藤田宏之氏(埼玉県立川の博物館学芸員)



恐る恐るホンドマムシの標本を見る参加者

1 趣 旨

飯能河原を中心に、両生類や水生生物など入間川の生きものやその生態を学ぶことで、地域の自然の魅力を知り、親しんでいただくことを目的とした。

2 内 容

飯能河原に生息する生きものやその生態について、スライドや実物資料を見ながら説明をしてもらった。

自然観察会

いつもよりもっと知る！

天覧山の夏の植物

日 時 令和元年6月22日(土)
午前9時30分～午後0時30分
対 象 一般
参加者数 12名
行 程 博物館→諏訪沢入り→東谷津トラスト地→諏訪沢入り→天覧山中段広場→博物館
※雨天のため途中で中止
講 師 山下裕氏(日本薬科大学特命講師)



ユーモアあふれる講師の説明に聞き入る参加者

1 趣 旨

平成31年3月に飯能市教育委員会より『天覧山・多峯主山の植物 夏編』が刊行された。本観察会はこのハンドブックの使い方を理解していただくとともに、参加者が地域の植物を知り、自ら観察

2 内 容

当初は6月15日(土)に実施予定であったが、雨天のため、6月22日(土)に延期した。しかし、その日も途中から雨が降ってきたため、やむなく途中で中止とした。

◆令和元年度自然分野共催事業

学習会名	主 催	日 時	時 間	対 象	参加者数
天覧山 秋の自然観察	埼玉県立自然の博物館	9月28日(土)	午前10時～午後3時	一般	25

自然観察会

飯能河原の いきもの調査隊

- 日時 令和元年7月27日(土)
午前9時30分～午後0時30分
- 対象 一般
- 参加者数 8人
- 講師 金澤光氏(埼玉県魚類研究会)
- 共催 飯能市役所産業環境部環境緑水課
- 指導者 長谷川裕子(当館学芸員)
本橋綾香(当館非常勤職員)
荒井岳(環境緑水課職員)
- 協力者 加藤光敏氏(東吾野中組自治会長)・
大野美智子氏・中村幸子氏・福嶋信子氏・
内沼利康氏(奥武蔵小学校放課後子ども
教室スタッフ)

1 趣旨

飯能河原に生息している水生動物の観察を行うことで、子どもたちが身近な自然に感動し、地域の自然への愛着をもつことを目的とした。また夏休みの自由研究のヒントとなることも目指した。

2 内容

最初に飯能河原で川の観察と生物採集を行った。それから博物館に戻り、学習研修室でCOD(水の汚れの指標)をパックテストで測定した。その後、講師がスライドで説明しながら、生物観察を行った。川の観察は、調査記録表に水の色、水のおいなどを記入し、透視度を透視度計で測定した。また生物観察は、記録用紙に生物をスケッチし、種名や特徴などを記入した。なお、前日の大雨の影響で増水していたため、調査地点を飯能河原のウッドデッキ付近の1地点に絞って実施した。

自然観察会

秋の訪れと タカの渡りを見に行こう

- 日時 令和元年9月21日(土)
午前9時30分～午後3時
- 対象 一般
- 参加者数 6名
- 行程 博物館→天覧山頂上→天覧入り谷津田
→博物館
- 講師 市川和男氏
(天覧山タカの渡り観察グループ代表)
- 協力 天覧山タカの渡り観察グループ

1 趣旨

平成30年12月に「身近な自然」コーナーで来館者に行ったアンケートの結果によると、希望する観察会テーマは、鳥や昆虫などが多かった。天覧山山頂はタカの渡りの中継地点になっており、秋に暖かい東南アジア方面へと渡っていく様子が見られる。そこで渡りをするタカ類をはじめとして、天覧山周辺の自然観察も行い、地域の自然への理解の促進と魅力発見の機会とした。



タカの渡りはまだかな…

2 内容

タカは午前中に飛ぶことが多いため、開始後はすぐに山頂に向かった。山頂では、まず講師から渡りの方法や渡りのルートに好条件な地形や気象条件について解説をしてもらった。

当日の天気は曇りで観察にはあまりよい条件とはいえなかったため、昼休憩を早めに開始し、観察時間に余裕を持たせた。徐々に晴れ間も見え始め、ときどきノスリやサシバなどのタカの姿も見つかるとなり、運よく渡りをする様子や小さなタカ柱も観察できた。



Ⅱ 「学び」の入口となる博物館

Ⅳ 学校教育と連携し、質の高い学びを提供する博物館

市民学芸員

令和元年度は全体で66回、のべ533人が参加！

1 これまでの経緯

当館における市民学芸員とは「市民に向けた学習機会を提供するシステム」であり、「本務学芸員を補完する立場」で「博物館側の情報発信機能と受け手の市民の間をつなぐ伝達媒体としてのサポーター」であると位置づけられている(当館『研究紀要』第1号)。当館の場合、教育活動や資料整理など事業別にその都度養成を行い、市民学芸員の認定をしている点に特徴がある。

令和元年度末現在で活動しているのは、博学連携、古文書整理、麦作文化探求の3分野合わせて47名で、前年度と変わりはない。2分野以上にまたがって活動をしている方もいるので、各分野の内訳は、博学連携が35名、古文書整理が12名、麦作文化探求が15名である。

2 活動の概要

◎全体の活動

当館の市民学芸員の活動は、基本的に博学連携、古文書整理、麦作文化探求といった活動分野ごとに行われるが、地域の歴史や文化、あるいは博物館学に関わる研修や、他の博物館を見学する館外研修会などは、異分野どうしの交流をはかるため全体で行っている。令和元年度も3月に研修会と各分野の活動報告会を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施しなかった。

このほか、当館のイメージアップなど養成分野に関係なく気軽に行えるサークル活動も設定されている。当該年度の活動は以下のとおりである。

(1) 花サークル

花サークルは、当館駐車場から入口へ向かう途中にある花壇に花を植えて、来館者を歓迎する雰囲気



全体研修会・青梅市郷土博物館の見学(6/7)

を表そうとするもので、次の生花サークルとともに当館のイメージアップに貢献していただいている。

当該年度は、6月26日午後日々草、サルビア、ジニアプロフェュージョンの株に植え替え、8月22日にジニアプロフェュージョンの間引きなど花壇の手入れを行った。

(2) 生花サークル

このサークルの活動は、当館入口風除室に生花を展示することである。生花が傷みやすい7月から9月までを除き、展示は1週間(火曜日の朝から日曜日まで)単位で行い、前年度同様市民学芸員4人が交代で担当した。当該年度活動した日数は80日でのべ82人の参加があった。

◎博学連携事業参加型の活動

「博学連携事業参加型」の活動の中心は、毎年1月～2月に実施している小学3年生の社会科見学対応(以下「小3対応」)である。平成29年度に告示された新たな学習指導要領は、小学校では令和2年度より全面実施されることになっており、それに合わせ副読本の内容も一新されたことから、上

◆令和元年度市民学芸員(全体)活動一覧表

回	活動日	曜日	時刻	テーマ	講師・担当	内容	参加人数
1	6/7	金	9:40～11:25	館外研修会	青梅市郷土博物館学芸員 鈴木章久氏	企画展「甲冑武具展」・国指定重要文化財「宮崎家住宅」見学、同館文化財ボランティアとの交流	20

20人

半期はそれに対応したプログラムの検討を行った。また下半期には第Ⅸ期市民学芸員養成講座参加者へのデモンストレーションなどを行った。

まず取り組んだのは、既存プログラム「昔の道



博学連携型・大通り巡見 (9/20)



博学連携型・小学3年生見学対応プログラム検討 (8/27)

具さがしクイズ」の修正である。時代による道具の変化を伝えること、そして児童の主体的な学びを促すことという新学習指導要領に沿った内容を取り入れるために、市民学芸員同士で意見を出し合い、説明の内容や方法を練り直した。

次に行ったのが、歴史展示室にある大通りの模型を利用した新規プログラム「町の移り変わり」の開発である。社会科副読本編集員の先生方などの意見も取り入れながら、プログラムに入れるべき説明の内容や使用する資料、子どもたちに伝えるときの工夫などを話し合った。9月には実際に大通りを歩き、今と昔の建物の違いや現代に残る歴史的な建造物などについて再確認し、市民学芸員内での共通の理解を深めた。プログラム開発にあたっては学習指導要領に沿うよう、時の流れによる町の変化や昔と今の違いについて子どもたちが自分で見つけられるような内容にすることを心がけ、学習ノートも自由記述欄を大きく取ることとした。なお、本プログラムは当該年度実施した結果をもとに、次年度以降も大幅な変更を含めて修正をかけていくこととなる。

その他小3対応以外の活動として、毎年ミニ展示「ひな祭り」で配布しているおひな様カードの作成を当該年度も行ったが、同展の期間中に開催予定であった「折り紙でおるおひな様」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

◆令和元年度市民学芸員(博学連携)活動一覧

回	活動日	曜日	時間	テーマ	講師・担当	内容	会場	参加人数
1	4/26	金	10:00~11:30	4月定例会	金澤・尾崎	平成31年度活動計画・小学3年生見学対応について(協議)、当館が描く市民学芸員像について(館長)	学習研修室	14
2	5/28	火	10:00~12:00	5月定例会	金澤・尾崎	小学3年生見学対応について(指導計画書の確認、民具クイズマニュアル改訂など)	学習研修室	9
3	6/21	金	13:30~15:30	6月定例会	金澤・尾崎	小学3年生見学対応について(民具クイズのマニュアル改訂、新規プログラム「町の移り変わり」検討)	学習研修室	8
4	7/24	水	10:00~12:00	7月定例会	金澤・尾崎	小学3年生見学対応(「町の移り変わり」)・今後の市民学芸員活動について、館報第15号・研究紀要第1号概要説明	学習研修室	10
5	8/27	火	10:00~11:30	8月定例会	金澤・尾崎	小学3年生見学対応(「町の移り変わり」)について	学習研修室	12
6	9/20	水	14:00~16:00	大通り巡見	金澤・尾崎	小学3年生見学対応プログラム(「町の移り変わり」)作成のための現地見学	現地	11
7	9/25	水	14:00~16:00	9月定例会	金澤・尾崎	小学3年生見学対応(「町の移り変わり」)について	歴史展示室	10
8	10/30	水	10:00~12:00	10月定例会	金澤・尾崎	特別展「飯能の名宝」監視ボランティア・小学3年生見学対応(「町の移り変わり」)について、特別展「飯能の名宝」展示解説	学習研修室	10
9	11/20	水	10:00~12:00	11月定例会	金澤・尾崎	小学3年生見学対応(「町の移り変わり」)・「折り紙でおるおひな様」について	学習研修室	14
10	12/17	火	10:30~11:30	折り紙でおるおひなさま準備	尾崎	「折り紙でおるおひな様」事前準備	図書室	1
11	12/17	火	14:00~16:15	12月定例会	金澤・尾崎	小学3年生見学対応準備(市民学芸員養成講座受講生への小学3年生見学プログラムデモンストレーション)	学習研修室 歴史展示室	14
12	12/18	水	9:30~11:00	民家の台所設営	尾崎・引間・金澤・長谷川	民家の台所設営	特別展示室	6
13	1/26	日	9:00~11:30	折り紙でおるおひなさま準備	金澤	ミニ展示「ひなまつり」で配布するカードの作成	図書室	7
14	2/9	日	10:00~15:00	石臼・昔のアイロン体験会	金澤・尾崎・引間	石臼及び昔のアイロンの体験会	展示ホール	7
15	2/26	水	10:00~12:10	2月定例会	金澤・尾崎・長谷川	小学3年生社会科見学対応反省会・全体研修会について	学習研修室 歴史展示室	13
16	3/25	水	10:00~11:00	3月定例会	金澤・尾崎・長谷川	小学3年生見学対応反省会・令和2年度の活動方針について	学習研修室 歴史展示室	11
1/16~2/7(13日間)				小学3年生見学対応(12校)	※詳細は「博学連携」の小学3年生見学対応(41P)を参照		歴史展示室ほか	165

合計 のべ 322人

◎古文書整理型の活動

「古文書整理(参加)型」の活動は、平成28年度から学習成果を当館の事業に関わる形で還元することに活動の中心がシフトしてきている。

前年度(平成30年度)に、常設展示改装の中で展示製作を担当した「飯能今昔」ゾーンの「旧中山村の地域遺産」の内容を多くの人に知っていただくため、中山地区を案内する事業を実施したのもその1つである。また、当該年度は「はじめての古文書講座」が開講され(28P参照)、その受講者によって立ち上がった学習サークル「古文書を読む会」の指導役を担うこととなった。当座の運営は、それぞれ3人からなるグループ2つがテキストごとに交代して行い、グループ内の3人は役割を分担して指導にあたることとした。

また、8月からは歴史展示室の「飯能今昔」ゾーンの地域遺産のコーナーの展示替えの準備に入った。これまで巡見を行ってきた中から対象地域を検討し、東吾野地区の旧井上村を取り上げること



古文書整理型・館外研修会(物流博物館見学・9/26)

となった。

このほか、市民学芸員が自ら住んでいる地区の歴史を調べ案内する地域めぐりや館外研修会(物流博物館の見学)などを実施した。

◎麦作文化探求型の活動

「麦作文化探求型」市民学芸員の活動目標は、次

◆令和元年度市民学芸員(古文書整理)活動一覧

回	活動日	曜日	時間	内 容	会場	参加人数
1	4/11	木	10:00~11:30	4月例会①(「戦国の中山と天神様のお祭りを訪ねて」について、今年度の活動協議)	学習研修室	9
2	4/25	木	9:30~11:30	4月例会②(今年度の活動協議)	学習研修室	10
3	5/9	木	10:00~11:40	5月例会①(今年度の活動について、地域めぐり⑨について)	学習研修室	10
4	5/16	木	9:00~11:37	地域めぐり⑨ 前ヶ貫地区巡見	(現地)	8
5	5/23	木	10:00~11:35	5月例会②(赤沢村浅見譲二家文書「御用留」件名目録作成⑩、個別テーマに基づく翻刻、整理など)	学習研修室	7
6	6/13	木	10:00~11:32	6月例会①(赤沢村浅見譲二家文書「御用留」件名目録作成⑪、個別テーマに基づく翻刻、整理など)	学習研修室	7
7	6/20	木	10:00~11:40	6月例会②(赤沢村浅見譲二家文書「御用留」件名目録作成⑫、個別テーマに基づく翻刻、整理など)	学習研修室	9
8	7/11	木	10:00~11:45	7月例会①(赤沢村浅見譲二家文書「御用留」件名目録作成⑬、個別テーマに基づく翻刻、整理など)	学習研修室	8
9	7/25	木	10:00~11:40	7月例会②(赤沢村浅見譲二家文書「御用留」件名目録作成⑭、個別テーマに基づく翻刻、整理など)	学習研修室	7
10	8/29	木	10:00~11:20	8月例会(歴史展示室・飯能今昔ゾーン「地域の遺産」展示検討、館外研修会について)	市立図書館	9
11	9/12	木	10:00~11:30	9月例会(歴史展示室・飯能今昔ゾーン「地域の遺産」展示検討、館外研修会、旧中山村の魅力案内解説マニュアルの作成について)	市立図書館	11
12	9/26	木	10:00~11:55	館外研修会(物流博物館見学)	物流博物館	7
13	10/10	木	10:00~11:32	10月例会①(旧中山村の魅力案内解説マニュアルの作成について)	学習研修室	11
14	10/24	木	10:00~11:30	10月例会②(特別展「飯能の名宝」展示解説・旧中山村の魅力案内解説マニュアルの作成、「はじめての古文書講座」修了者の指導について)	学習研修室	7
15	11/14	木	10:00~11:32	11月例会(赤沢村浅見譲二家文書「御用留」件名目録作成⑯、旧中山村の魅力案内解説マニュアルの作成、「はじめての古文書講座」の状況について)	学習研修室	9
16	11/28	木	9:30~11:25	地域めぐり⑩ 大通り巡見	(現地)	10
17	12/12	木	10:00~11:28	12月例会(旧中山村の魅力案内解説マニュアルの作成、古文書を読む会の指導について)	学習研修室	10
18	1/9	木	10:00~11:30	1月例会①(井上村研究①、旧中山村の魅力案内解説マニュアルの作成、古文書を読む会の指導について)	学習研修室	10
19	1/23	木	14:00~15:30	1月例会②(井上村研究②、古文書を読む会の指導について)	中央地区行政センター	7
20	2/13	木	10:00~11:30	2月例会①(井上村研究③、古文書を読む会の指導、旧中山村の魅力案内事業について)	学習研修室	11
21	2/27	木	10:00~11:30	2月例会②(井上村研究④、古文書を読む会の指導、旧中山村の魅力案内事業について)	学習研修室	10
22	3/12	木	10:00~11:30	3月例会①(井上村研究⑤、来年度の活動について)	学習研修室	10
23	3/26	木	10:00~11:05	3月例会②(来年度の活動について)	学習研修室	10

合計のべ 207人



麦作文化探求型・書誌紹介 (3/4)

の3点である。

- ①伝統的な麦作及び加工等に係る技術を身に付け、伝承する。
- ②麦に関する知識を深め、地域の麦作文化を探求する。
- ③活動や調査の成果を、館の教育事業の中で積極的に活用する。

令和元年度の活動では、前年度(平成30年度)に

作付けした小麦と大麦を収穫した後、連作障害を避けるため麦作を休止することとし、その分を麦作についての学習の時間に充てた。なお、ノラボウやサツマイモなど他の作物は栽培した。また、廃材を使って堆肥箱2基を新たに製作した。

学習活動としては、平成30年度にリスト化した市立図書館所蔵の関連図書を中心に、書誌紹介を開始した。書誌紹介は4回行い、疑問点などを意見交換した。

そのほか中学生社会体験チャレンジ事業の一環として、市内中学生と共に作業を行った。12月4日は、飯能西中学校2名と美杉台中学校3名とともに、石臼でサツマイモを製粉した。また12月18日は、飯能第一中学校3名とともに、飯能中央地区行政センターにてサツマイモとたらしもちを調理した。これらの活動は、活動目標①と③に関わり、若い世代に麦作文化の一端を経験してもらうことができ大変良かった。今後も機会があれば継続していきたい。

◆令和元年度市民学芸員(麦作文化探求)活動一覧

回	活動日	曜日	時間	内容	会場	参加人数
	4/10	水		降雪のため中止		
1	4/17	水	13:30~15:30	畑の手入れ、ノラボウの収穫	西側畑	3
2	4/24	水	13:30~16:00	畑の手入れ、今後の活動についての打合せ	西側畑・学習研修室	7
3	5/8	水	13:30~16:00	ノラボウの抜き取り、大豆播種の準備、畑の耕耘、サツマイモ苗の植え付け	西側畑	6
4	5/22	水	13:30~16:00	大豆の播種、草取り、ひまわり苗の移植、今後の活動についての打合せ	西側畑・学習研修室	7
5	5/29	水	9:00~12:10	ハザの組み立て、畑の手入れ、麦作文化の調査研究についての打合せ	1階スロープ・西側畑 学習研修室	5
6	6/5	水	9:30~11:30	大麦の刈り取り、畑の手入れ	西側畑	6
7	6/12	水	9:30~11:00	小麦の刈り取り、畑の手入れ	西側畑・1階スロープ	5
8	6/19	水	9:30~12:30	大麦の脱穀、堆肥箱用の資材移動、畑の手入れ	西側畑・1階スロープ	4
9	7/10	水	9:30~11:00	小麦の脱穀、畑の手入れ	西側畑・1階スロープ	6
10	7/31	水	9:30~11:30	畑の手入れ、小麦の脱穀、今後の活動についての打合せ	西側畑・1階スロープ 「飯能と西川村」コーナー	5
11	8/7	水	9:30~11:30	大麦・小麦の脱穀及び収量測定	1階スロープ	4
12	8/21	水	9:30~11:30	除草、サツマイモのツル返し、今後の活動についての打合せ	1階スロープ	5
13	9/11	水	9:30~11:30	大麦こがし、雑穀の確認	1階スロープ	6
14	9/18	水	9:30~11:50	小麦の製粉	1階スロープ	4
15	9/25	水	9:30~11:30	小麦の製粉	1階スロープ	6
16	10/9	水	13:30~16:15	サツマイモの収穫、ノラボウの播種、堆肥箱製作、今後の活動についての打合せ	西側畑・1階スロープ	6
17	10/30	水	13:30~16:00	サツマイモの水洗、ノラボウの間引き、枝豆の収穫、堆肥箱の製作	1階スロープ・西側畑	7
18	11/6	水	13:30~16:00	堆肥箱の製作、ノラボウの間引き、アサガオの片付け	西側畑	5
19	11/27	水	13:30~15:00	サツマイモのスライス、ノラボウの苗植え、畑の手入れ	西側畑	6
20	12/4	水	13:30~15:00	サツマイモの製粉、今後の活動についての打合せ	1階スロープ	6
21	12/18	水	13:30~15:40	サツマイモ、たらしもち作り	中央地区行政センター	7
22	1/8	水	13:30~15:40	次年度活動計画についての打ち合わせ	学習研修室	7
23	1/29	水	13:30~16:00	書誌紹介	市立図書館	7
24	2/19	水	13:30~16:30	サツマイモの苗床づくり	西側畑	6
25	3/4	水	13:30~16:20	書誌紹介、サツマイモの苗床づくり	学習研修室・西側畑	6
26	3/18	水	13:30~15:30	大豆播種準備、畑の手入れ、次年度の活動方針についての打合せ	西側畑・図書室	7

合計 のべ 149人

市民学芸員養成講座 第Ⅸ期 (博学連携参加型5期)

1 趣 旨

当館の市民学芸員は、博学連携事業参加型(以下「博学連携型」とする)、古文書整理型及び麦作文化探求型(以下「麦作文化型」とする)の三つが活動している。

博学連携型市民学芸員は、主に毎年1・2月に社会科学習のために来館する小学3年生の学習指導、支援を担当し、当館における博学連携事業の中で重要な役割を担っている。また、古文書整理型は自らが古文書について学習するとともに、当館収蔵文書などを翻刻したり整理したりして、その成果を当館の活動に活かすことを目的としている。さらに、麦作文化型の市民学芸員は、伝統的な麦作及び加工等に係る技術を身に付け、地域の麦作文化を探求し、その成果を館の教育事業に活かすことを目標に活動している。

ただ、博学連携型の市民学芸員については、毎年約1ヶ月の限定された期間とはいえ、平日はほぼ毎日活動を行うこととなるために、多くの方に関わってもらふ必要がある。また三分野で最も早くから養成を行っているため、高齢化や体調不良、



第2回「博物館と資料」(6/2)



第7回「博学連携事業のあり方」グループワーク風景 (8/25)

○市民学芸員第Ⅸ期 (博学連携参加型5期) 養成講座カリキュラム

回	日付	曜日	開始時刻	分野	内容	講師・担当	参加人数
1	5/19	日	14:00	博物館学	日本の博物館の現状と役割	駿河台大学教授 野村正弘 氏	14
2	6/2	日	14:00	博物館学	博物館と資料	館長 尾崎泰弘	17
3	6/16	日	14:00	博物館学	博物館と情報	桜美林大学准教授 金子 淳 氏	13
4	6/30	日	14:00	博物館学	博物館と教育	駿河台大学教授 野村正弘 氏	15
5	7/21	日	14:00	博物館学	地域博物館とまちづくり	法政大学名誉教授 馬場憲一 氏	13
6	7/28	日	14:00	博物館学	飯能市立博物館の運営方針と市民学芸員の役割	館長 尾崎泰弘	15
7	8/25	日	14:00	養成テーマ	博学連携事業のあり方	川越市立博物館指導主事 伊藤直仁 氏	16
8	9/19	木	9:00	養成テーマ	館外研修 博学連携事業の実際(見学)	川越市立博物館	15
9	9/29	日	14:00	養成テーマ	小学3年生の発達段階	飯能市立飯能第一小学校教頭 菱 吉信 氏	14
10	10/6	日	14:00	養成テーマ	小学3年生「市の様子の移り変わり」の単元について	学校教育課指導担当リーダー 西條 誠 氏	15
11	10/27	日	14:00	実習	実務実習ガイダンス	当館学芸員	16
12	11/20	水	10:00	実習	小学3年生見学対応実務実習	市民学芸員	15
13	12/17	火	14:00	実習	小学3年生見学対応実務実習	当館学芸員	15

合計のべ人数 193 人

あるいは活動意欲の低下などの理由で、活動している方が少しずつ減ってくるという事情もあって、定期的な養成が必要とされる。

そこで、博学連携型としては、平成26年度以来通算で5度目となる養成講座を実施した。

2 カリキュラム

養成講座の内容は、毎回博物館学分野と養成の目的に関係する養成分野とで構成される。今回博物館学の内容は、学芸員養成課程の科目として博物館法施行規則に定められているもののうち、博物館概論、博物館資料論、博物館情報・メディア論、博物館教育論、博物館経営論に対応する内容で5回分とし、それに当館の運営方針と市民学芸員の役割についての講義を1回加えることとした。

また養成分野は、小学3年生見学対応にすぐに役立つような、9～10歳頃の子どもの発達段階や3年生の社会科の単元、あるいは開館当初から博学連携事業を盛んに行い、埼玉県西部地域をリードしてきた川越市立博物館の取り組みなどの事例を学ぶプログラムで構成した。

11回目からは実務実習に入り、当館で行われている小学3年生の見学プログラムについて、マニュアルに基づきながら、実際に小学生に対するのと同じようにレクチャーを受けた。

なお今回も、既に他分野で市民学芸員として活動されている方が参加した場合は、博物館学分野の講義は共通するため、その受講を免除することとした。

3 成果と課題

募集人員は20人とし17人の応募があった。認定の基準は講座の7割以上の出席とし、16人が市民学芸員として認定され、3月6日に認定証を交付した。このうち既に第Ⅷ期までの養成講座に参加し認定を受けている方は3人である。

通算で5回目となる今回の博学連携型市民学芸員の養成であるが、応募の状況からすると、博学



第8回川越市立博物館での研修（9/19）



第12回実務実習（石臼体験の説明・11/20）

連携にとっては2回目となる第Ⅳ期(平成19年度実施)から既に参加申込みが定員に達していない状況であった。その後のⅤ期(通算3回目)、Ⅶ期(通算4回目)にいたっては募集の約半分(11人)の申込みにすぎず、それと比較すれば今回は持ち直したともいえる。しかし、一方でその後継続して活動していただいている人の割合は、感覚的には減っているという感じである。

新たに活動に参加する方々のアイデアを活かす場を作りながら、活動のメインである小学3年生の学習をサポートする喜び、楽しみを常に感じられるようにしていくことが今さらながら求められているといえる。

第Ⅸ期市民学芸員養成講座修了者座談会

4月から新たに市民学芸員として活動されている三人の方から、博物館との関わり、市民学芸員養成講座の応募の理由、小学3年生の見学対応の感想などについてきいてみました！

《出席者》朝倉正浩さん・上田明司さん・渋谷勝男さん 《日時》令和2年9月15日(火)午後

○まず、みなさんと博物館との関わりについてお訊ねします。これまでの博物館体験をお聞かせください。

(朝倉)

私は26年前に東京都から飯能に引っ越してきました。



朝倉正浩さん

都内には国立科学博物館など大きな博物館があるので、子どもが好きだった科学博物館や、まだ神田にあった鉄道博物館には月1回くらいは行っていました。

全国いろいろな旅行するところと地域にも郷土資料館といった名前の無料の博物館があったりしますが、土器や古い農機具が並んでいるだけでどこも変わり映えしないようなイメージはもっています。飯能に来てからも、郷土館だから貧弱なものというイメージをもっていたし、10年の間に1~2回来るか来ないかくらいだったと思います。

(渋谷)

私は趣味が山登りと俳句だったので、百名山に登った帰りについでに地域の博物館を回ったり、俳句に関係する資料館を見に行ったりして、少しずつ博物館に興味を持つようになりました。

(上田)

私は高校時代考古学研究会に入っていて、その顧問の先生(後の日本考古学協会会長・大阪大学名誉教授都出比呂志氏)から拓本の取り方や発掘調査の方法などを教えてもらいました。また部活で博物館に行くことも多く、旅行に行った時も美術館や博物館はよく訪ねていたの、私にとっては博物館は身近な存在でした。

○次に今回の第Ⅸ期市民学芸員養成講座に応募していただいた理由、きっかけについて教えてください。

(朝倉)

私は飯能というと寝に帰るところ、というくらい

で、地元との関わりがとても薄かったんです。博物館は展示するところというイメージしかなかったのですが、博物館が展示以外に子どもたちに昔の暮らしについて伝えたり、館外での活動もあるということを知って応募しました。

(上田)

定年退職して生協のブロック委員を6年ほどしていました。そこでは組合員と一般の方と一緒に様々なテーマで学習するので学ぶことには慣れていました。その活動もその前年度に卒業しまして、元々考古学が好きだったので、何かできることがあるのかな、と思いました。ただ市民学芸員はボランティアというよりは研修会があってしっかり身につけないと活動ができないので、養成講座はとても勉強になりました。

(渋谷)

私は地域で子どもの見守りをしているんですが、3年生くらいが一番成長が見える時期なんです。児童俳句といって子どもたち1000人くらいに俳句を作ってもらって本にするのですが、3年生くらいが一番よい俳句を作るんです。そういう経験があるもんですから、小学3年生の見学にあたるということで応募しました。

○市民学芸員養成講座はどうでしたか？

内容とか回数とか？

(朝倉)

市民学芸員というと軽いイメージもありますが、大学の先生が博物館の役割だとか目的といったことをきちっと体系づけて説明してくれて、ほとんど知らないことだったので、博物館の本来の目的がよく理解できました。我々も月1回の研修で



渋谷勝男さん

「市民」という冠がつくとはいえ、「学芸員」なんて名前を簡単にもらっていいのかなあ、などとは思いま

した。月1回程度でしたが、養成講座はとても良かったと思っています。

(渋谷)

私は講義が多すぎるように感じました。先生も違うので「学芸員とは」というような内容も3～4回あったように思います。それを減らしてもっと実際に、子どもに説明する時の実際に則した講習を増やした方が良かったような気はしています。

(司会)

小学3年生に説明するための実践的なプログラムってどんなのがいいですかね？

(渋谷)

例えば昔の道具探しクイズや紙芝居など実際に1回通してやってみる機会が事前にあると良かったのですが、流れが頭に入っているとできると思うんですが、それもなくていきなり本番だったのでとまどいましたよ。(笑)

(上田)

説明は自分の言葉で伝えることが大事なのと、人によって説明の内容が違うというのはまずいので、整合性が保つような訓練というか機会がほしかったなあと思いました。

(朝倉)

予行練習してもそんなに変わらないかもしれませんよ。習うより慣れる、ということかもしれないし。悩ましいところですよ。慣れている先輩方にはかなわないので、素人は素人なりに、養成講座受講生の立場でやっていくしかないのかなと。逆に講義の回数が少ないと不安な部分もありますよね。いきなり小学3年生に対応しなさい、というのは不安なところもあるので、教育委員会の方から小学3年生が多感な時期にあるということを事前にレクチャーしてもらえたのはとても有意義でした。私はちょうどよいと思います。

(渋谷)

私も全体の回数を少なくするというよりは実技を増やしてもらいたいです。

(上田)

「市民学芸員」という名前を頂戴するので、それなりの研修は積まないといけないと思います。ただ実技とかイメージトレーニング、例えば、児童は来ていないだけでその場で実際にやってみるとか。ただ相手が小学3年生で一番脱皮する時期だと聞いていたので、その怖さもありました。

○小学3年生の見学対応について、実際やってみてどうでした？子どもたちを相手にするというのは難しかったですでしょうか？

(上田)

道具を観察した後で、この子はもっと訊きたいんだろうなあというのがわかるのに、時間が来たら次のプログラムへと流してしまうのはちょっと残念ですね。滞在時間に限りがあるので仕方ないですが。

(渋谷)

道具探しクイズだと20個あっても最後の方は少しだけ説明して終わり、というようになってしまう。本当は時間をかけて1つ1つ丁寧に説明できるといいんだけど。

(上田)

そういうのも人数によりますよね。

(朝倉)

私は大勢の子どもたちと接するのは新鮮な感じがしました。会社勤めだと大人だけが相手なので。

(上田)

子どもの瞳はいいです。

(朝倉)

子どもは大人、子どもと区別しないで話しかけてくるから。子どもは垣根がないというか。

(上田)

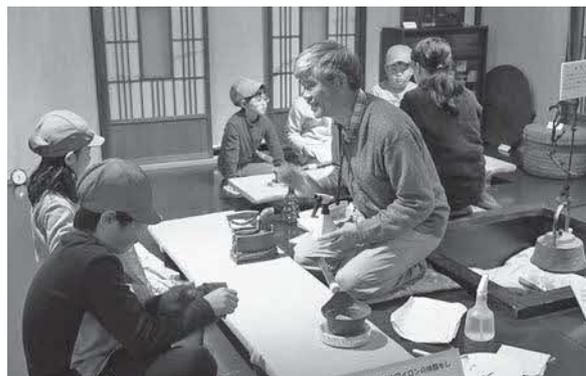
まだ純粋なんですよ。パワーをもらえますね。毎日年寄りの顔を見ているから…。そんなこと言っているとかみさんに怒られるけど。(笑)

(司会)

逆に疲れたりしないですか。あの子どものエネルギーを2時間受け止めて。



上田明司さん



昔のアイロン体験を指導する渋谷さん



歴史展示室で子どもたちの観察を見守る上田さん

(上田)

疲れるというよりは楽しいですね。疲れるというのは自分が楽しんでいないからだと思います。

(朝倉)

毎日やっている学校の先生はまた違うんですけど。たまにあるのがいいのかもしれない。

(司会)

ところで9月から市内の小・中学生全員にタブレットが貸与されるんですが、そうなると写真などの資料も簡単に直接送れてしまいますので、博物館に来なくてもよいと思われないうにしないと、という危惧もあります。

(渋谷)

やはり見るだけじゃなくて、触ることができる、というのが博物館のメリットなんで。見るだけじゃわからないよね。

(朝倉)

石臼とアイロンは人気ありましたよね。

(渋谷)

ITが発達してもやっぱり立体感は伝わらないと思う。触ることも大事だし。

(上田)

パソコンでも立体的に見せることはできるだろうけど、実際手をもって石臼の重さを体験してみると全然違いますよね。

(朝倉)

単純な仕組みで、なんでこれが粉になるのかとかは実際体験してみないとわからない。アイロンも熱くて、少し水をふきかけてやれば伸びていくというのも体験によって初めてわかることだと思います。

(上田)

ネットといっても、人が集まって学ぶ一体感というか、顔なじみになったりする、情報源が増

えるという良さにはかないません。実際、顔をつきあわせて話してみるとインターネットで発信していることとは違うのではないかと、思うこともありました。

○ところで、市民学芸員として当館に関わる前も含めて、当館について何かご意見はありますか？活動とか、内容とか。

(上田)

やはりイベントでしょうね。インパクトのあるイベントですね。私がすごくインパクトを感じたのは昨年7月の原爆を取り上げた展示です。あれはすごいな、と思いました。あとはPRの仕方ですよね。

(朝倉)

でもあちこちに博物館のポスターが貼ってありますよね。公民館だとか。

(上田)

貼ってあっても意外と見ていないんですよ。

(朝倉)

ぼくも気にするようになったからかな。

(上田)

当事者の人は見るんです。私たちが活動をしている時はポスターはいくらでも貼りましたが、人はすーっと前を通り過ぎていきます。今見ているのはSNSですよ。

(朝倉)

例えば中央公園でやるイベントの時には幟でも立てるとか。

(上田)

その時に市民学芸員がその場で何かやるとか。市が主催のイベントならOKでしょう。

(司会)

本日は長い時間ありがとうございました。



歴史展示で子どもたちに説明する朝倉さん



Ⅱ 「学び」の入口となる博物館

Ⅳ 学校教育と連携し、質の高い学びを提供する博物館

小学3年生見学対応

新たな学習指導要領に対応したプログラム「町の移り変わり」を市民学芸員とともに開発！

平成29年に告示された新たな学習指導要領では、小学校3年生社会科の学習内容のうち当館に関連する部分では以下のように定められている。

- (4) 市の様子の変り変わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わって来たことを理解すること。
- (イ) 聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。

この新たな学習指導要領は令和2(2020)年度より全面実施されることになっているが、本市では既に令和元(2019)年度版の社会科副読本から、これに対応した内容に全面改訂されている。したがって、当館における小学3年生の社会科見学プログラムについても、新たな副読本の内容に準拠しつつ、教育センターの指導主事や社会科副読本編集委員の先生方のアドバイスを受けながら、以下のとおりとした。

すなわち、3つあるプログラムのうち、石臼、昔のアイロン体験及び「昔の道具さがし」クイズはそのままとし、歴史展示室の見学は、新学習指導要領の内容に対応して、大通りの模型を活かした新たなプログラム「町の移り変わり」を開発し、これと紙芝居のみとした。つまりそれ以前に行っていた「飯能の宝物」(文化財)と西川材の解説はプログラムから外すこととなった。

時間は従来どおり1つのプログラムを40分で行い、決められた時間枠の中ですべてのプログラムが体験できるように予定を組んだ。

◆ 令和元年度小学3年生見学対応一覧

No.	実施日	小学校名	学級数	児童数	交通手段	到着時刻	出発時刻	滞在時間(分)	対応市民学芸員数	備考
1	1/16(木)	富士見小A	2	73	借上バス・公用車(2台)	9:15	12:00	165	16	
2	1/17(金)	加治東小	1	39	借上バス	9:10	11:45	155	12	
3	1/21(火)	加治小A	2	63	借上バス	9:00	12:00	180	17	
4	1/22(水)	加治小B	1	31	市バス	9:02	11:50	168	10	
5	1/23(木)	富士見小B	1	36	借上バス	9:10	11:45	155	10	
6	1/24(金)	精明小	1	18	市バス	9:07	11:55	168	9	
		飯能二小	1	6	公用車	9:00	11:55	175		
		1/28(火)	奥武蔵小	1						
7	1/29(水)	原市場小	1	28	市バス	9:00	11:45	165	10	
8	1/30(木)	双柳小	2	75	借上バス・市バス	9:02	11:55	173	14	
9	1/31(金)	飯能一小A	2	65	徒歩	9:11	12:05	174	17	
10	2/4(火)	南高麗小	1	7	市バス	9:10	11:55	165	9	1/28の振替
		名栗小	1	5						
		奥武蔵小	1	9						
11	2/5(水)	美杉台小A	2	66	借上バス・公用車	9:05	11:55	170	14	
12	2/6(木)	美杉台小B	2	67	借上バス・公用車	9:10	12:05	175	14	
13	2/7(金)	飯能一小B	1	32	徒歩	9:08	11:45	158	13	

合計12校 合計児童数 620人

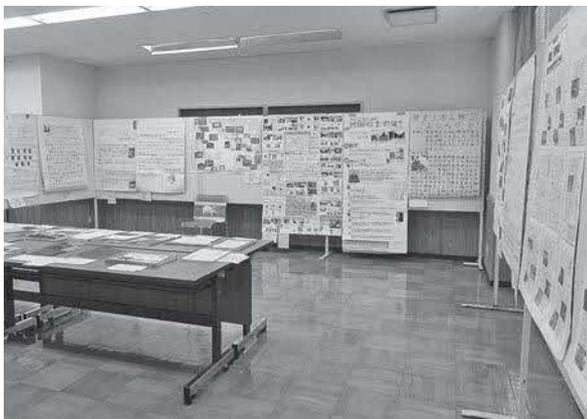
市民学芸員延べ人数 165人

小・中学校社会科研究展

1 概要

小・中学校では、夏期休業中にいろいろな教科で自由研究の課題が出される。このうち、理科や技術家庭、美術科ではその作品が県展、全国展へ出品される機会が設けられているのに対し、社会科には学校の外でその成果を発表する場がない。しかし児童生徒の地域研究の意欲は強く、その中には研究の質として高いものも見受けられ、このような作品を地域の博物館で公開し、多くの人に見てもらうことは大きな教育的効果が期待できるため、平成10年度より飯能市教育研究会社会科部会と共催で行っているのが本事業である。出展された作品のうち優秀な研究に対し、右に掲げた基準に基づき教育長賞、館長賞及び学芸員賞を選んでいる。ただし、当該年度は、教育長賞及び中学生の部の博物館長賞にふさわしい作品はなかった。

なお、保護者が仕事帰りに見に来るできるようにするため、会期中の金曜日(2日間)は開館時間を午後7時まで延長した。



社会科研究展・中学校の部(学習研究室)

○博物館長賞

No.	題名	児童名	学校名	学年
3	こまよこちょうのふしぎをときあかせ!!	歌代 惣介	飯能第一小学校	2

○学芸員賞

No.	題名	児童名	学校名	学年
108	はんのうとミュンヘンくらべっこ	播本 陽太	美杉台小学校	2
127	新聞調べ	安孫子瑞希	美杉台小学校	6
18	飯能市の遺跡と縄文時代の住居	北浦 功真	飯能第一中学校	1
27	《飯能市の公衆トイレ》	伊藤 光政	加治中学校	3



親子で協力して研究発表!

2 展示概要

期 間 令和元年9月14日(土)～9月29日(日)
 開館日数 14日間
 入館者数 2,032人(1日平均145.1人)
 展示点数 小学生135点(141人)
 中学生74点(74人)
 会 場 当館特別展示室・学習研修室

3 関連事業「研究発表会」

日 時 令和元年9月28日(土) 午後2時～3時
 発表数 4点(4人)
 会 場 市民会館会議室202
 参加者数 26人

■特別賞の基準は以下のとおり

- 教育長賞
例年の館長賞の候補より特に優れ、数年に一度しか見られないようなもの。
 - 館長賞
学芸員賞候補作品のうち最も優れたもので、小・中学校1研究ずつ。
 - 学芸員賞
 - ・地域を対象としている
 - ・聞き取り調査やフィールドワークなどによって自らが足を使って得た情報が含まれている。
 - ・児童・生徒ならではのユニークな視点や工夫が見られる。
 - ・調査結果がわかりやすくまとめられている。
- 以上に該当する作品で小・中学校合わせて4点まで。なお、作品が展示された全ての児童生徒には、毎年賞状と参加賞が贈られている。

— 博物館長賞 —

「こまよこちょうのふしぎをときあかせ!!」
歌代惣介さん 飯能第一小学校2年生



【講評】

おばあさんの家がある高麗横丁について調べた力作で、小学校低学年ながら地域研究の王道をいくような内容になっています。

最初にお父さんと博物館に調べに来たときの江戸時代の絵図の説明があまりうまく伝わっていなかったようなので、次にどのように調査を展開していくか少し心配になったんですね。それでひいおじいさん、おばあさん、おとうさんと三世代の方から話を聞いて図にし、自分で歩いて調べた現在の建物の様子とあわせその移り変わりをうまくまとめてくれました。小学2年生ながらその手堅い方法、そして調査成果をまとめた根気は、館長賞にふさわしい作品です。

— 学芸員賞 —

「はんのうとミュンヘンくらべっこ」
播本陽太さん 美杉台小学校2年生



【講評】

みんなに飯能とミュンヘンの違いを知ってもらいたいという気持ちがよく伝わってくる作品です。すきな夜ごはんや、かみの毛を洗ったあとの感触など、生活の体験をふまえ、自分の視点で比んでいることがとても素晴らしいと感じました。生活をとりあげることで、友だちも自分の経験を思い起こしながら考えることができるでしょう。そして調査結果は、友だちなどの相手に伝えることを意識してまとめられて、読みやすく、よく理解できました。とても暖かくて優しい研究だと思いました。今後も、発見や感動があったら、ぜひ教えてください。



社会科研究発表会の発表者

—— 学芸員賞 ——

「新聞調べ」

安孫子瑞希さん 美杉台小学校 6年生



【講評】

新聞について、様々な視点から丹念に調べた力作です。特に、東京と京都の新聞の地域差について、台風との距離によって記事の扱いが違ふことや、テレビ欄の並び順が違ふことなどに気が付いたのはすごいです。また、「戦争」という1つのテーマを定め、各紙の掲載面積や全記事に対する割合、そして記事の内容などを比較したのもとても面白いです。着眼点や手法は素晴らしいので、地域や新聞社による記事の違いに対してもっと踏み込んだ考察があれば、より上の賞にも十分手が届くと思います。

—— 学芸員賞 ——

「《飯能市の公衆トイレ》」

伊藤光政さん 加治中学校 3年生



【講評】

飯能市の公衆トイレについて、市街地のトイレへ実際に行ってみて、その状態を調査した作品です。各トイレの欄に共通の評価項目が設けられているので、それぞれの状態を一目で知る事ができ、とてもわかりやすいです。またトイレの性格ごとに色分けされているのも見やすいです。オストメイトなどの解説も記載されているので、バリアフリーの観点からも公衆トイレを知る事ができる内容になっていると思います。調査の感想を述べるだけでなく、考察をもう少し深められていれば、より上の賞にも十分に手が届いたでしょう。

—— 学芸員賞 ——

「飯能市の遺跡と縄文時代の住居」

北浦功真さん 飯能第一中学校 1年生



【講評】

縄文時代の人たちの、暮らしの中でしていたいろいろな工夫への興味からテーマを設定し、実際に発掘調査を行っていた加能里遺跡を訪れています。そこで調査担当者から受けた竪穴住居跡についての説明を、写真とともに丁寧に紹介し、そしてそれを基に、竪穴住居を上からと横からの両方から見たイラストを載せていることが、この研究成果のインパクトになっています。最後に縄文時代の住居が、自然のものをたくさん使っていて「工夫」や「ひらめき」がすごかったとまとめていますが、そのどこに感心したのかまで踏み込んで説明していれば館長賞になっていたかもしれません。

その他の博学連携事業

○出張授業

当館では、毎年、年度当初の校長会に出席させていただき、小・中学校社会科研究展などの協力依頼とともに出張授業を行っていることをPRしている。

しかし、ここ5～6年の出張授業の件数を見ると、平成29年度は9件と多かったものの、概ね4、5件で推移しており、その内訳は小学校4年生の

社会科(武蔵野鉄道)と小学3年生及び5年生の総合学習である。

社会科については依頼のある学校は必ずしも限定されていないが、総合学習の場合は、3年生は加治小、5年生は飯能第一小学校でほぼ固定される。

中学校からの依頼は数年に一度程度で、ほとんどないのが実情である。

◆令和元年度出張授業一覧

No.	実施日	学校名	学年	科目	テーマ	内容	担当	人数
1	7/4(木)	飯能第一小学校	5年	総合学習	「伝えよう、飯能の昔発見」	総合学習「なんじゃもんじゃタイム」のガイドランスとして、飯能のまちなかに関わる歴史や文化について説明した。	金澤	100
2	10/25(金)	加治小学校	4年	社会	「武蔵野鉄道」	鉄道開通に対する飯能の人々の思いと、武蔵野鉄道の開通後のまちの変化について説明した。	金澤	105
3	11/8(金)	双柳小学校	4年	社会	「武蔵野鉄道」	鉄道開通に対する飯能の人々の思いと、武蔵野鉄道の開通後のまちの変化について説明した。	尾崎	85
4	11/15(金)	飯能第一小学校	5年	総合学習	「伝えよう 飯能の昔発見」	7/4の内容を基に児童が選んだ課題に応えるため、飯能の歴史や文化など9つのテーマについて説明した。	引間 長谷川 金澤	85
5	12/3(火)	加治小学校	3年	総合学習	「加治の自まんを見つけよう」	総合学習「加治っ子タイム」として、加治地区を通る鉄道や川、橋や寺などについて紹介した。	金澤	95

合計 のべ470人

○社会体験チャレンジ

「社会体験チャレンジ」は、本市の中学1年生が勤労の尊さや働く意義を学び、正しい職業観を身につけるために、市内の事業所や公共機関等で3日間、職場体験をするものである。

◆令和元年度中学生社会体験チャレンジ受入一覧

No.	実施日	学校名	人数	内容
1	12/3(火)～5(木)	飯能西中学校 美杉台中学校	5	自然調査、館内外の清掃、収蔵庫の整理、サツマイモの製粉
2	12/10(火)～12(木)	加治中学校	4	特別展「飯能の名宝」片付け、特別展アンケート集計、モニタリング1000調査、館内外の清掃、小学3年生見学学習ノートの作成
5	12/17(火)～19(木)	飯能第一中学校	4	館内外の清掃、小学3年生見学学習ノートの作成・仕分け、小学3年生見学対応展示「民家の台所」設営、さつま団子・たらしもち作り

合計 13人



社会体験チャレンジの経験をまとめた新聞(美杉台中学校)



社会体験チャレンジ風景(美杉台中学校)

資料・施設の利用



Ⅱ 「学び」の入口となる博物館

Ⅲ 常に広い視野を持って活動し、資料の価値を高めていく博物館

収蔵資料の利用（閲覧・貸し出し）

令和元年度は平年なみの117件で、堅調な利用が続いている。

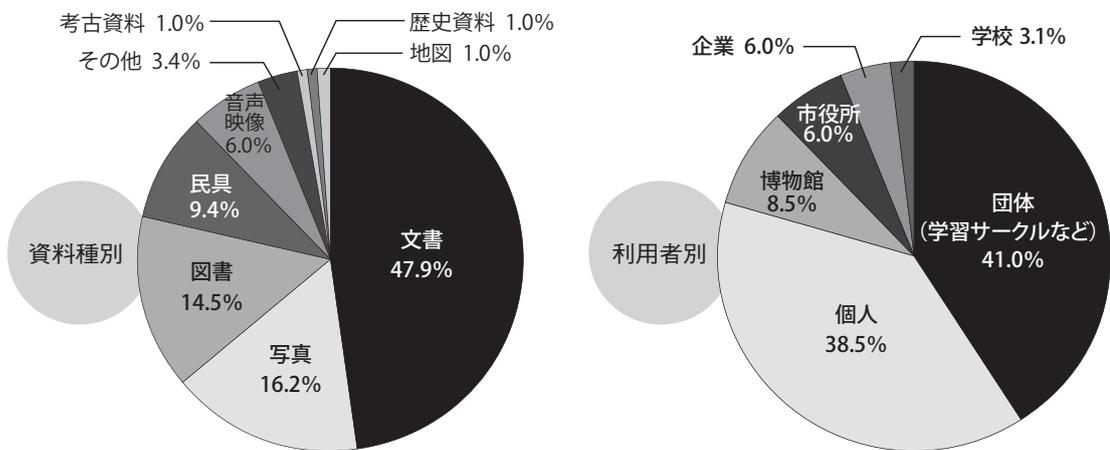
当館で最も利用されているのは、文書や写真といった記録史料である。この点は一般的な博物館とは異なるが、これは当館がアーカイブズ(文書館)的な機能を有し、その利用を積極的に推進しているためである。文書を含めすべての資料について利用を希望する方には、資料利用許可申請書を提出していただき、資料の状態を判断し閲覧(熟覧)場所を確保した上でを行っている。

令和元年度は117件の利用があり、データのある平成17年度から見た場合、1年あたり平均119

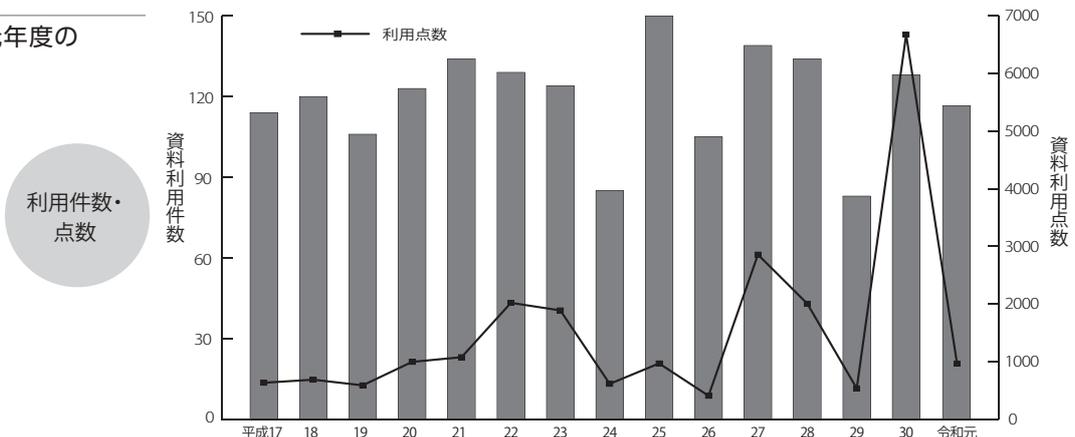
件なので、ほぼ平年並みといえる。資料利用点数は利用者によって大きく違うため、年によってばらつきがあり、利用の指標としてはあまり適当とはいえない。

また資料の種別ごとの利用の割合、利用者別の割合も例年と比べて大きな違いはない。収蔵資料は着実に利用されていると評価してよいであろう。今後も長期的な視野に立って地域研究の担い手を育て、多くの収蔵資料が活用されるよう努めていく必要がある。

令和元年度の資料利用の内訳



平成17～令和元年度の資料利用推移



※平成29年度は常設展示改装のため、2ヶ月間のみ開館。

施設の利用

学習研修室の利用率は、8月末の空調設備故障の影響で10%減。
学習サークルの利用件数は、漸減の傾向に歯止めがかからず。

飯能市立博物館条例施行規則第4条では、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体が、特別展示室、学習研修室及び図書室を博物館の目的にそった研究会、展示会等に利用できるとしている。

令和元年度は、特別展示室・図書室の利用申請はなかった。

学習研修室の利用状況を把握するため、目的により以下の4つに分類した。

- ①地域の歴史や地域文化に関わる学習活動を行っている団体、サークルなどへの貸出（「恒常的活動」）
- ②市内の小学生や市外からの団体の見学、視察の対応や資料の閲覧（「見学・閲覧」）
- ③市役所内各課の事業での使用（「他団体の主催事業等」）
- ④当館主催の講座・学習会、市民学芸員といった交流事業など（「当館の主催事業」）

これらの件数と人数を集計したのが下の表である。

また、学習サークルによる学習研修室の利用状況の推移はグラフのとおりである。利用件数は漸減傾向にあるものの、利用人数はほぼ横ばいである。ただし、いずれのサークルもその会員の高齢化は顕著であり、市民の学習活動の停滞に危機感を抱いている。ホームページやブログ、SNSなどで誰もが発信できる現代の、学習形態の変化とも考えられるが、それで片付けてよい問題なのだろうか。いま博物館と学習者との距離感が問われている。

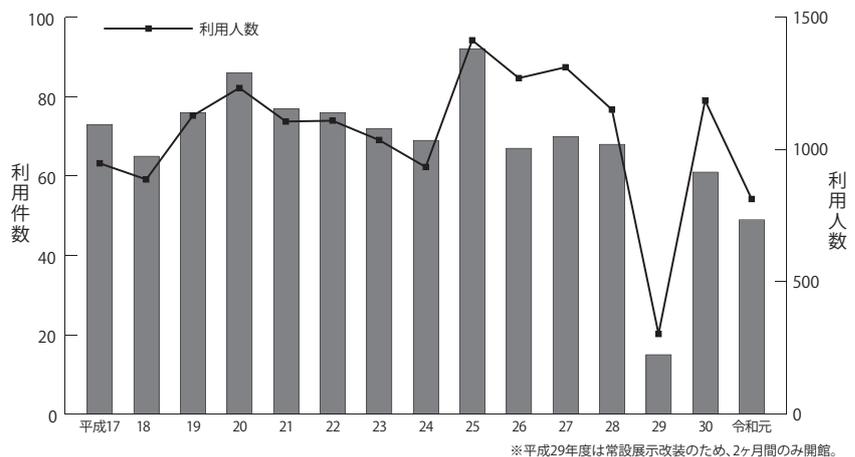
なお、当該年度の学習研修室の利用率（日単位）は57.0%であった。この値は、平成25年度からの直近5年間の利用率の平均と比べると9%ほど低い数字であるが、7月28日に同室の空調設備が故障し、以後10月上旬まで学習サークルへの貸し出しができなかったことが影響していると考えられる。

なお、当該年度の学習研修室の利用率（日単位）は57.0%であった。この値は、平成25年度からの直近5年間の利用率の平均と比べると9%ほど低い数字であるが、7月28日に同室の空調設備が故障し、以後10月上旬まで学習サークルへの貸し出しができなかったことが影響していると考えられる。

◆令和元年度学習研修室利用実績

利用種別	年度		平成29(2017)年度		平成30(2018)年度		令和元(2019)年度	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数		
①恒常的活動(学習サークル)	15	303	61	1,185	49	813		
②見学・閲覧	2	3	26	188	25	182		
③他団体の主催事業等	2	18	18	323	8	103		
小計	19	324	105	1,696	82	1,098		
④当館の主催事業	17	105	122	1,522	116	1,408		
合計	36	429	227	3,218	198	2,506		
年間利用日数	33日		195日		198日			

■平成17～令和元年度の学習サークルによる学習研修室利用推移



◆令和元年度末現在で活動している学習サークル

団体名	会員数	活動日	目的	代表者名	設立
古文書同好会	20	毎月第1・第3土曜日 第2金曜日	飯能市内の古文書の解説と時代背景の研究及び活字化	中里和夫	平成3(1991)年4月
多聞の会 (仏教美術学習会)	23	毎月第3木曜日	仏像・仏画・仏教建築など仏教及び仏教美術について広く学習する。	綾部光芳	平成6(1994)年11月
飯能郷土史研究会	63	年6回の例会	郷土の歴史を研究し、市民文化の進展に寄与する。	大野亮弘	昭和48(1973)年7月
飯能の“みんな”保存会	26	不定期	民謡をおとして心身の健康を高めるとともに、見聞を広め、郷土の文化を継承する。	石井英子	平成8(1996)年

レファレンスの対応



II 「学び」の入口となる博物館

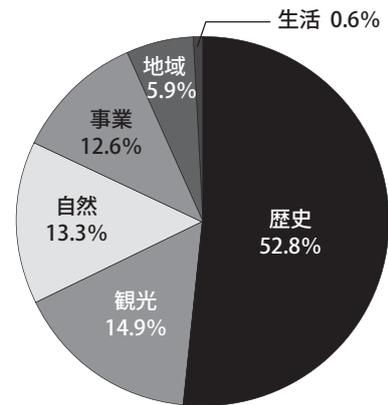
レファレンスの件数は、2年連続で300件を超える！
7割が来館しての問い合わせで、レファレンスこそ来館者との対話の必要性を顕在化

レファレンスとは、利用者からの様々な問合せのことである。レファレンスに対し学習を支援するような回答ができれば、利用者の満足度を高めることができる。地道な作業ではあるがこうしたことの積み重ねで博物館は地域社会から信頼を得ていくことができる。

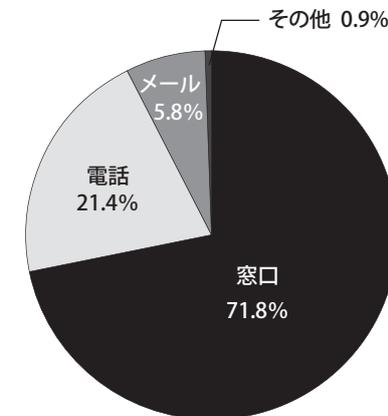
令和元年度のレファレンスサービスの件数は、窓口・電話・E-mail及び「レファレンス対応記録票」(回答にあたって様々な資料を調べるなど時間がかかった事案に対する、その調査過程の記録)の件数を合わせて309件と、昨年度に続き300件を超えた。リニューアルオープンによる入館者数の増加による影響と考えられる。また内容でみるとその半数は歴史に関するものであり、以下観光、自然と続きその比率も大きな変化はない。

今回、問い合わせの手段の比率を円グラフにしてみたが、窓口が7割を占めた。聞きたい内容を説明するのに、電話やE-mailでは用が足りないということもあろうが、博物館に行ってみれば自分にとって有益な資料や情報が得られるという期待感を表しているものと考えたい。逆にいえば、ホームページなどでも地域の歴史や文化、自然についての情報がアップされていたら、来館する必要はなくなるかもしれないが、学芸員との双方向のやりとりがあってこそ、本当の学習支援が成り立つはずである。

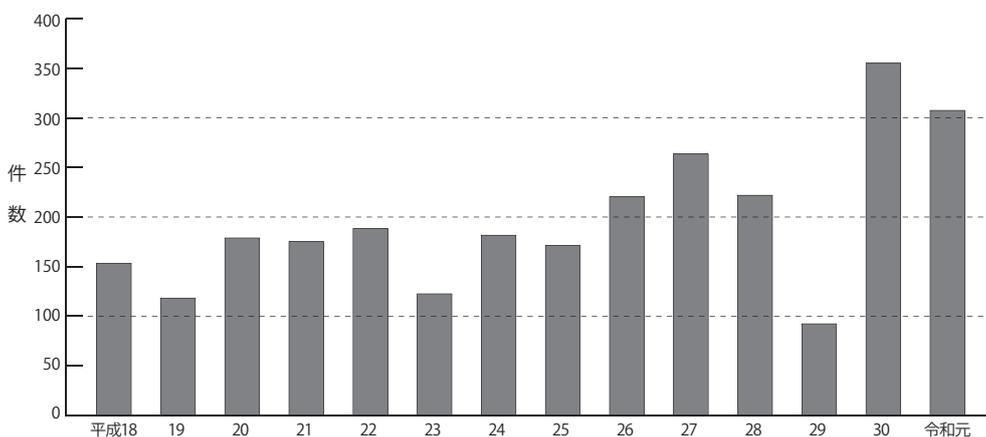
令和元年度レファレンス・内容別内訳



令和元年度レファレンス・手段別内訳



平成18～令和元年度レファレンス対応件数の推移



講師派遣

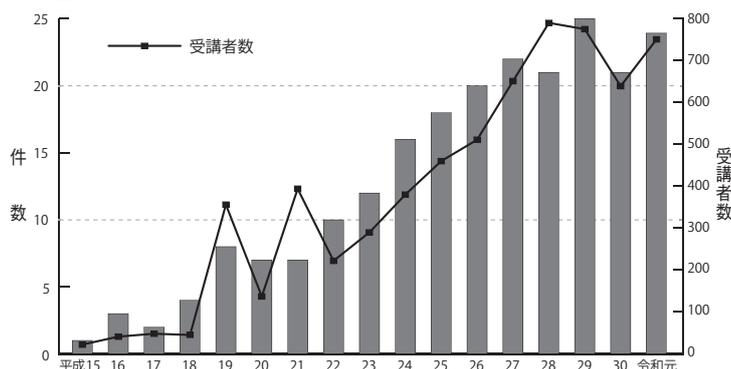


- II 「学び」の入口となる博物館
- V 歴史や文化を現在、そして未来へと活かしていく博物館
- VI 飯能河原・天覧山周辺地域の自然の情報発信拠点としての機能もあわせもつ博物館

2年ぶりに受講者が700人台を回復。件数、受講者数とも高止まり傾向に！

講師派遣は多くが生涯学習課の「出前講座」の枠組みを利用して依頼がある。さらに利用者を増やしていくためには、それとは別の広報手段を用意する必要がある。なお、講師派遣のうち学校からのものは「博学連携」の出張授業の項(45P)に掲載した。

平成15～令和元年の講師派遣件数・受講者数推移



◆令和元年度講師派遣一覧

No.	実施日	時間	依頼機関	内容	対象者	人数	会場	担当学芸員
1	4/4(木)	14:40～16:35	飯能市役所職員課	新規採用職員研修「職員として知っておくべき飯能の地理と歴史」	新規採用職員	33	飯能市役所本庁舎	尾崎
2	4/5(金)	13:20～15:30	㈱加藤建設工業	出前講座「飯能のまちの歴史」	新入社員ほか	6	(株)加藤建設工業本社	尾崎
3	4/20(土)	14:45～16:20	飯能郷土史研究会	総会講演会「吾野の歴史-近世吾野事件手帖」	会員	32	当館学習研修室	金澤
4	6/2(日)	10:25～11:20	下平戸自治会	出前講座「飯能の災害史」	避難訓練参加者	40	下平戸自治会館	尾崎
5	6/6(木)	14:35～15:40	弘済会埼玉友の会 人間西支部	講演会「飯能戦争とは」	会員	29	富士見地区行政センター	尾崎
6	6/10(月)	10:45～11:45	退職公務員連盟 飯能支部	出前講座「宮沢湖の開発」	会員	18	富士見地区行政センター	尾崎
7	6/20(木)	15:00～16:00	飯能市エコツーリズム 市民ガイドの会	出前講座「飯能の「山上の霊地」	会員	8	富士見地区行政センター	引間
8	6/30(日)	15:20～16:05	武州世直し一揆の会	武州世直し一揆の会6月例会講演会「飯能町の武州世直し一揆史料を読む」	会員	15	中央地区行政センター	尾崎
9	7/19(金)	13:40～14:40	埼玉県地域史料保存活用連絡協議会	地域史料実務研修会「埼玉県における地域史料の現状」	会員	14	白岡市生涯学習センター	金澤
10	7/20(土)	9:30～10:30	スポーツ課	飯能市・高萩市スポーツ少年団友好都市交流事業事前学習会「飯能市と高萩市のつながり」	高萩市スポーツ少年団団員	40	当館学習研修室	金澤
11	8/4(日)	10:00～11:00	原市場東自治会	出前講座「自然災害に備える」(危機管理室と合同)	会員	18	鶴鳴館	金澤
12	8/4(日)	13:00～14:00	原市場東自治会	出前講座「自然災害に備える」(危機管理室と合同)	会員	27	曲竹会館	金澤
13	8/27(火)	14:00～16:00	ちよとずつの会	出前講座「災害時の避難方法について」(危機管理室と合同)	会員	9	原市場福祉センター	金澤
14	9/1(日)	9:20～10:30	西赤沢自治会	出前講座「自然災害に備える」(危機管理室と合同)	会員	58	西赤沢自治会館	尾崎
15	9/8(日)	9:45～10:40	第二区公民館	「飯能の災害史」	会員	101	第二地区行政センター	尾崎
16	9/19(木)	15:00～16:00	飯能市エコツーリズム 市民ガイドの会	出前講座「入間川の筏流し」	会員	8	富士見地区行政センター	金澤
17	9/21(土)	10:00～11:35	自治連名栗支部	出前講座「自然災害に備える」(危機管理室と合同)	参加者	15	名栗地区行政センター	尾崎
18	10/15(火)	10:15～11:00	美杉台3丁目福祉の森 サロンやまびこ	天覧山・多峯主山の植物	参加者	24	美杉台ふれあい館	長谷川
19	10/17(木)	9:30～10:50	埼玉西部消防組合 飯能日高消防署	一般教養研修会「飯能の災害史」	参加者	56	飯能日高消防署	尾崎
20	11/9(土)	14:00～15:50	駿河台大学	市民の大学Ⅲ「古文書からわかる飯能の災害史」	参加者	64	駿河台大学	尾崎
21	11/9(土)	14:00～15:00	飯能市退職校長会	特別展「飯能の名宝」について	会員	21	当館学習研修室	引間
22	11/17(日)	9:00～11:21	飯能中央公民館	飯能を知らウォーク「300年前の原野を歩く」	参加者	11	現地	尾崎
23	12/1(日)	9:45～10:40	六親会	出前講座「飯能戦争について」	参加者	51	白髪白山神社社務所	尾崎
24	2/15(土)	14:00～15:30	加治公民館 川寺自主防災会	防災講話「自然災害に備える」(危機管理室と合同)	会員	33	加治地区行政センター	尾崎
25	2/16(日)	16:00～17:00	矢嵐自治会	出前講座「土砂災害について」(危機管理室と合同)	会員	28	矢嵐会館	金澤

合計のべ人数 759 人



Ⅲ 常に広い視野を持って活動し、資料の価値を高めていく博物館

寄 贈 資 料

令和元年度に寄贈を受けたのは下記の43件である。

また、本市域の歴史や文化に関わる資料のうち、特に貴重なものの劣化・散逸を防ぎ、後世に伝えていくため、所有権を所蔵者に残したまま当館でお預かりする寄託も行っている。当該年度に新たに受け入れた寄託資料はなく、このうち1件が寄贈されたので受託資料は62件となった。

◆令和元年度寄贈資料一覧

(敬称略)

番号	資料名	点数	寄贈者名
1	飯能焼(破草鞋窯)	118点	岸 やよい
2	「埼玉縣全圖」	1点	(個人)
3	古文書、台紙付写真、組盃など	(I式)	小嶋 宏幸
4	台紙付写真	4点	新 陽子
5	『東京市選定市民健康路』など	20点	牛込 努
6	写真データ「奥武蔵創造学園開校記念式典」(CD-R)	1点	萩原 昭平
7	名栗村ふるさとかるた	1点	島田 稔
8	図書『桐生自然観察の森フィールドガイド森のなかまたち』	1点	(個人)
9	写真「飯能市環境フェスタ」「第2回奥武蔵トレイルランチャンピオンシップ」(DVD-R)	2点	萩原 昭平
10	精神修養説経節「壮烈小山中尉戦死」	1点	平沼 靖八
11	爆弾の破片、図書『沖縄戦と住民』など	3点	斉藤 武司
12	「関東市町」番付	1点	牛米 努
13	アルバム	2冊	佐藤 久美子
14	学校日誌など	(I式)	飯能市立原市場小学校
15	飯能地区航空写真集成図	1点	大野 仁巳
16	古文書など	5箱	小能 啓佑
17	古文書	8箱	佐野 祥平
18	リーフレット「観光飯能」など	4点	佐藤 美知男
19	ふいご、通い徳利	2点	綿貫 幸進
20	図書『五街道触書留』	1点	権田 恒夫
21	古文書	(I式)	濱中 正代
22	風呂敷(市制施行及合併記念)	1点	井川 公雄
23	台紙付写真など	28点	靱島 康至
24	飯能市役所精明支所文書	32点	精明地区行政センター
25	コケン	2体	飯能市役所秘書室

番号	資料名	点数	寄贈者名
26	看板「空襲警報発令中」など	1 式	都築 喜一
27	平成31年3月31日執行中山吾妻天満宮本開帳記念祭映像記録(DVD)	1 点	中山吾妻天満宮本開帳準備委員会
28	ガラス乾板	9 枚	森口 彰徳
29	古写真(紙焼き)	3 点	関戸 悦子
30	「飯能名所絵葉書」など	2 点	牛込 努
31	滝沢邦行描団扇絵	2 点	森口 彰徳
32	「飯能市民憲章」(昭和53年11月3日)リーフレットなど	2 点	前島 宏之
33	飯能中山故信講提灯	1 点	小島 宏之
34	お札の版木など	11 点	五十嵐 君子
35	敷物	2 点	五十嵐 君子
36	古写真(紙焼き)など	1 式	土屋 守弘
37	写真データ「西川小学校昭和40年前後の写真」「奥武蔵小学校2020年写真」など(DVD-R)	1 点	荻原 昭平
38	「天保五年(川寺村)絵図」など	8 点	梶田 功
39	長襦袢	1 点	猪爪 久子
40	はしごなど	6 点	嶋田 豊一
41	日誌、典籍	23 点	須田 忠明
42	古文書	357 点	町田 昇
43	『飯能の獅子舞』など	3 点	畷島 康至

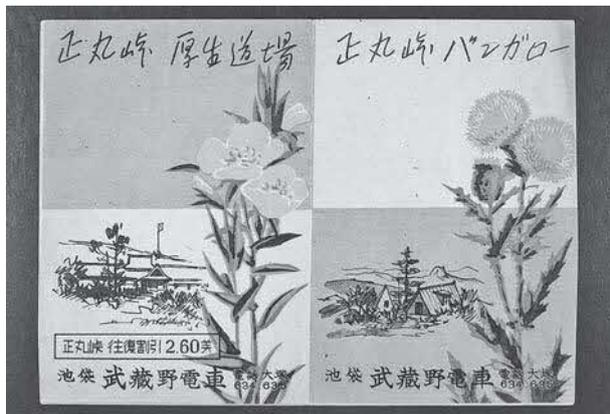
購入資料

令和元年度に下記の資料を購入した。

A (資料名) 明治末期飯能町等商店広告 8 点

B (資料名) 絵葉書「天覧山東雲亭畑屋」 7 点 1 組 (袋あり) たて9.1cm×よこ14.0cm

C (資料名) リーフレット「正丸峠厚生道場」 1 点 たて15.1cm×よこ21.2cm



リーフレット「正丸峠厚生道場」(購入資料C)

厚生道場は、現在の西武鉄道の前身である武蔵野鉄道が、昭和13(1938)年11月に正丸峠に開設した宿泊施設で、電気、水道、売店、食堂、浴室が完備していた。「厚生」は昭和13年1月に設置された厚生省にちなんで付けられたとされ、当時、厚生省は、鉄道省、東京市観光課とともにハイキング奨励をPRしていた。この年の前年には日中戦争が始まり、国民の「銃後保健」の自覚によりハイキング客は増加していて、それは「道場」という名称にも表れている。当時の社会情勢とそれと山間地域との関わりがわかる資料である。



Ⅲ 常に広い視野を持って活動し、資料の価値を高めていく博物館

整理（情報化）

民俗資料の再整理を371点、古文書と写真は合わせて441点の資料カードを作成！
少しずつではあるが着実に推進

資料整理とは、資料について価値ある情報を抽出し博物館資料として利用可能な状態にする作業で、この過程では様々な記録が作成される（ドキュメンテーション）。これを経ないと博物館資料として活用できず、長期的な視野でみると活動が停滞することとなるので、当館ではここ数年、毎年重点施策のひとつに収集資料の整理を挙げ、整理点数を達成指標として積極的に取り組んでいる（15P）「令和元年度の重点施策とその評価」参照。

当館では、紙媒体の資料カードを基本としてきたが、平成29年10月より早稲田システム開発株式会社が提供するクラウド型収蔵品管理システム「I.B.Museum Saas」を導入した。当該年度は絵画資料の9割にあたる391点について同システムへの入力を行った。なお、民具、古文書、写真資料といった中心的な資料については引き続き紙媒体の資料カード作成を継続している。

また、当館は飯能河原・天覧山周辺の自然に関するビジターセンターとしての機能もあわせもつ

◆令和元年度文書整理実績

史料群名	整理点数	新・再	受入年度
令和元年度購入A文書	8	購	令和元(2019)
中山忠三九家(稲荷町)	8	新	平成26(2014)
大野哲夫氏蒐集	1	新	平成26(2014)
園田正雄家(練馬区)	3	新	平成26(2014)
吉良憲一家(双柳)	7	新	平成25(2013)
牛米努氏蒐集	26	新	平成29(2017)～ 令和元(2019)
須田輝子家(小瀬戸)	1	新	平成29(2017)
浅見博助家(小床)	1	新	平成22(2010)
島村とき子家(双柳)	3	新	平成29(2017)
白井亮一家(飯能)	1	新	平成30(2018)
有川博英家(福生市)	1	新	平成27(2015)
佐藤美知男家(世田谷区)2019	5	新	平成31(2019)
平成30年度購入A文書	20	購	平成30(2018)
平成30年度購入B文書	1	購	平成30(2018)
市立図書館移管	1	新	平成27(2015)
大河原文子家(飯能・購入)	23	購	平成27(2015)
半田実家(中居)	11	新	平成4(1992)
平成26年度購入A文書	102	購	平成27(2015)
佐野国太郎家(上名栗・13区)	34	再	平成25(2013)
小林聡家(久下分)	1	再	
榎田むづみ家(上名栗・12区)	1	再	平成16(2004)
町田昇家(上名栗・14区)	2	再	令和元(2019)
東吾野小学校	4	再	平成30(2018)
梶田隆家	1	再	平成19(2007)
	266		

◆当館収蔵資料の概要と点数

種別	資料の概要	収蔵点数
民具 (民俗資料)	人々が生活の必要から製作、使用してきた一切の道具で、埼玉県指定有形民俗文化財「飯能の西川材関係用具」などがある。他の分類に属さない資料もここに含めている。	6,105
古文書	紙に文字、記号、図像などが記録されている資料、典籍含む。ただし護符は民具に分類されている。	52,658
古写真	台紙付写真、紙焼き写真。個人や機関所蔵写真の複写物も含む。	6,780
絵画	軸装、額、屏風などに仕立てられた日本画及び白木正一、早瀬龍江、富山芳男、内田晃、小島喜八郎など本市に在住もしくはゆかりのある画家の油彩、デッサンなど	447
工芸	飯能焼(飯能市指定文化財双木本家飯能焼コレクションなど)、刀剣、金工など	277
文学	詩人蔵原伸二郎、俳人石田波郷らの直筆短冊、軸装など	29
考古	飯能焼原窯表採資料、板碑など	1,764
映像	本市の機関が製作した映像作品のほか当館の調査や事業の記録映像など	284
音声	レコード及びテープ、CD	1,014
図書	他の博物館が発行した図録、報告書、要覧のほか自治体史、本市の行政刊行物など。図書室に開架している一般書も含む。	18,171
合計		87,529

*収蔵資料点数は、令和2年3月末現在のカード作成もしくは目録登録済の点数。「絵画」は、絵画と古美術、「音声」は、レコードとテープ、CDを合わせた点数である。

が、自然標本は原則収集しないことになっており、ビクターセンターとしての資料は写真が中心となる。これについても収藏品管理システムによる管理を行っていく予定である。

当該年度の成果であるが、民具は、新収蔵資料33点の整理を行った。また平成28年度より一般収蔵庫内の資料の確認と棚の清掃及びデジタルカメラでの資料撮影を開始しているが、今年度は200

点以上という目標値に対し、371点実施することができた。

古文書は、52Pの表にあるとおり近年受け入れたものを中心に24の史料群、266点を整理した。目標値は300点としていたもので、それには及ばなかった。

また古写真については、175点のカードを作成した。目標値は20点としていたので大きく上回った。

●資料の保全

①映像資料のメディア変換

前年度に続き、VHSやベータなど磁気テープに記録された映像記録10本のデジタル化(メディア変換)を、株式会社金聖堂情報システムに委託して行った。内訳は右表のとおりである。

利用と保存の両面に配慮し、閲覧用・保存用DVDを別々に作成し、保存用はバックアップ用としてハードディスクにも書き込んだ。

②文書解体修復

当該年度解体、修復したものは2件である。1つは昭和初期の17点の軍事郵便が貼り付けられている、たて260cm、よこ170cmの軸装1点で、もう1件は横長帳や横半帳を解体した反古紙からなる4点のふすまの下貼り文書である。

軸装は軽度の虫損はみられるものの、保存状態は良好である。ただし、このままでは活用が難しいため、本紙を分離させ、ウェットクリーニングを行った後に手繕いをして、1点ごとに分解した。

一方、ふすまの下貼り文書はいずれも茶変色しており、基本的には温水に本紙を浸し、糊が枯れて接着力を失っているものはヘラを用いて分離させた。

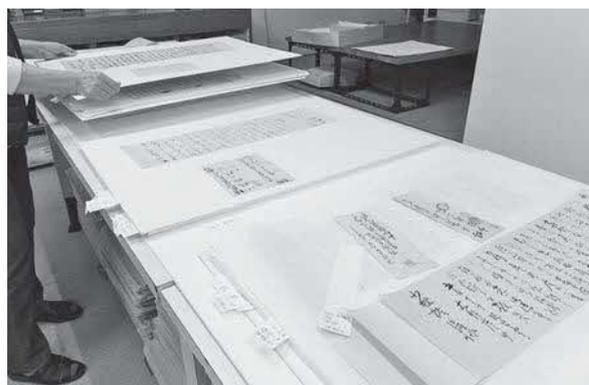
なお工芸品のうち、収蔵・寄託されている日本刀は、年に1回油をぬぐって錆やキズなどがないかを確認し、再び油をひく作業を行っている。当該年度は10月18日に実施した。

◆令和元年度メディア変換した映像資料一覧

No.	タイトル	ビデオ種類
1	テレビ埼玉TVSニュース“マイセン人形展”	VHS
2	プレシンポジウム飯能焼はやわかり「レンズを通して見た飯能焼」出土された破片の中に」	S-VHS
3	プレシンポジウム飯能焼はやわかり Part2「レンズを通して見た飯能焼」・座談会	VHS
4	NHK「五代目参り候 一八王子車人形・百六十年目の出発」	VHS
5	「古里の四季 奥武蔵」	VHS
6	飯能美杉台フォーラム 開設式典&祝賀会	VHS
7	飯能美杉台フォーラム「バースデー・フェスティバル」	VHS
8	テレビ飯能第233回ニュースファイル「飯能美杉台フォーラムオープン」	VHS
9	飯能大河原地区と飯能南台第二地区の現況	S-VHS
10	未来複合ニュータウン ビッグヒルズ	S-VHS



文書解体修復作業の様子(東京修復保存センター)



軸装から剥がされ別々にされた戦場からの手紙

史料集第1集『須田家日記(一)』の刊行

本書は、古文書史料を広く普及し、利用者層を広げることでその価値を高めることを目的として作成したものである。当館の史料集としては、平成23年度に刊行した『飯能戦争関係史料集』に次いで2冊目となる。

今回収録したのは、小瀬戸村(現飯能市小瀬戸)に伝来する「須田家日記」の最初の3年(天保14・15・弘化2年)分である。本史料は同村に居住した須田精道・勇太郎親子が天保14(1843)年から明治33(1900)年まで親子二代約60年間にわたって記した私日記で、近世から近代にかけての村の暮らしや社会情勢がわかる貴重なものであるとして飯能市の有形文化財に指定されている。

「須田家日記」はもともと当館利用団体である古文書同好会が長年解読を進めてきたものであり、本書も同会の成果に依拠している。

本書を刊行するにあたり最も意識したのは、日ごろ古文書に触れることのない市民の方々にもわかりやすく史料の内容を伝え、古文書に興味や親しみを持ってもらうにはどうしたら良いのか、という点である。

古文書の史料集というと、翻刻文と解題、それに用語解説がつく形で構成されているものが一般的である。しかし、たとえくずし字が現代の文字に直してあったとしても、それだけで文意まで理解するのは、日常的に古文書を読み慣れている人でないと難しい。特に、今回収録した「須田家日記」のような私日記は誰かに向けて書いているものではないため、同時代の公的な文書や書簡などと比べて文意が汲み取りにくい箇所が多いといえる。意味を伝えるのに一番手っ取り早いのは全文の現代語訳を掲載することであるが、そうすると現代語訳さえ読めば史料の全容がわかってしまい、翻刻文の部分が捨て置かれてしまう可能性がある。

そこで本書では、巻末に全日分の主な出来事を記載した表を掲載することとした。日記の本文は当然ながら日ごとに分量の軽重があるのだが、表では極力均等に、簡潔な記述を心掛けた。これは、日記全体の内容を通覧しやすくするためと、記事

を簡潔にすることで「もっと詳しい内容を知りたい」と史料にも興味を持ち、翻刻文の解読にも挑戦してもらいたい、という理由によるものである。

翻刻文を掲載した部分については、本文中に注番号を付して同一ページに脚注を記す形式にした。その方が解題や巻末に注をまとめるよりも読み進めやすいと考えたからである。また、近世(文書)の予備知識が無い方でも意味を汲みやすくするために、地名や固有名詞だけではなく「名主」「水帳」「五人組」というような、近世文書で一般的に使われる語句についても注を入れることとした。

これらの点が発行の目的へのアプローチとして効果的か否かについては、刊行して間もない現時点では不明である。令和2年度には本書を活用した講座を地元の公民館で実施する予定であるので、そこでの反応も併せて検討していきたい。

「須田家日記」に見る小瀬戸村の暮らし (1)

年	月	日	天気	内容
天保14	正月	朔日		野口組啓佐の箱小致羽織着用に関わりもめごとが起きる。
		2	快晴	昨日の一件について与市らが羽織返却の旨を申し出たので村役人へ引き渡す。
		3	快晴	飯能の小能伊兵衛などから年賀を受け取る。羽織一件について弥三郎へ詫びたい旨を申し出るが断られたのでそのまま帰る。
		4	快晴風少々	組熊次郎が羽織一件に関わる四人の詫びについて弥三郎の息子清五郎の所へ行って話したところ、弥三郎と同様の対応をされる。
		5	曇り	岩沢の才次郎など年始の挨拶。夜に少し雨雪が降る。
		6	曇りのち晴れ	岩瀬の吉兵衛、白子の常次郎ほか年始の挨拶。羽織一件について、四人で伊右衛門の所へ行ったが、乙次郎と清五郎へ話したうえで挨拶するべき旨を伝えられる。
		7	雨	羽織一件につき、当事者4人の親たちの話え書きをつけて伊右衛門へ手紙を送る。羽織は与市方にて預かることとなる。
		8	快晴風少々	羽織一件を与市へ引き渡す。書合の村役人らに羽織一件について見舞がくる。八ツ時に吾野へ行く。
		9	曇り	伊右衛門方にて書合。
		10	快晴	飯能の小能ならびに板屋へ行く。
11	曇りのち雨	記述無し		
12	雨のち快晴	記述無し		
13	曇り	記述無し		
14	快晴	上組の小前と百姓代が宗門人別帳への調印願いのためにやってきたため、この件について覆書を出し出す。		
15	快晴風あり	悪い人の半次郎と忠左衛門が帰村する。前日の覆書の件について、押書箱の御取締後へ預けたこと。		
16	快晴	又次郎年始の挨拶。		
17	快晴	「くね」を結び始める。		
18	曇りのち雨	野口の忠藏の依頼で飯能の堀屋まで掛合に行き、値段交渉を行う。彦七と藤藏によって「くね」ができる。夜に大雪が降る。		
19	雨	今朝まで大雪。野口の忠藏が千ヶ野から帰る。25日頃までに挨拶の予定。		
20	快晴	記述無し		
21	快晴	甲子祭りをす。		
22	快晴のち曇り	記述無し		
23	快晴	飯能の小川屋より年始の挨拶。		
24	曇りのち曇りのち快晴	飯能の金子の葉代の支払いをする。白子の嘉兵衛の所へ縁談の件で相談に行くため、織五郎を成木村へ遣わす。		
25	快晴風少々あり	吾野へ祈禱に行く。縁談話の取り決めのために成木より五左衛門が来る。		
26	快晴	野口の忠藏の判のために金を工面し、兵衛衛に渡す。		
27	快晴	昨日の判の件について、済ませた札の酒樽が届く。		
28	快晴	記述無し		
29	快晴	白子の嘉兵衛のところへ行き、縁談は2月に長念寺が帰次第取り結ぶこととする。富士山御師が輪化に来て、9月までに金2朱を記録し和合神の掛物をいただくこととなる。		
朔日	快晴	成木へ行く。		
2	朔日	2	快晴風あり	記述無し
		2	雨天	記述無し
		3	曇り	白子の山城守へ年始の挨拶に行く。嘉兵衛の縁談について、平戸村の名主留五郎の所へ行き、支度金については3両を貸すこととなる。普戸の栄吉の弟幸七が急病死する。
		4	快晴風あり	記述無し
		5	曇り	野田村の新左衛門門停亀吉がやってきて上組のはんを抱えたい旨を申し出る。
		6	九時より曇り	平戸村の名主留五郎へ話をし、白子の嘉兵衛へ結納金3両を預ける。
		7		記述無し
		8	曇り	記述無し
		9	快晴のち曇り	嘉兵衛より成木村の仁兵衛へ縁付の祝儀を送る。
		10	快晴	記述無し

巻末に掲載した表

保存

●新収蔵資料の燻蒸

当館では、新規に収集した資料を対象としビニールシートで覆う被覆燻蒸を年1回実施している。場所は荷解室である。

令和元年度は、6月24日(月)午後2時から投薬を開始し、26日(水)午前9時までの48時間燻蒸処理をし、その後排気を行った。使用薬剤はエキヒュームSで、丸三製薬バイオテック株式会社

長野支店に委託して行われた。このため6月25日(火)から29日(土)までを臨時休館とした。

また、名栗民俗資料保管庫(旧名栗村森林組合事務所)では、和光理化に委託してブンガノンを用いての殺虫燻蒸を行った。9月25日(水)午前10時30分から噴霧を開始し、4時間充填放置したのち排気を行い、午後4時に終了した。

●当館・名栗村史史料保管室の環境調査

当館では、収蔵資料に劣化をもたらす虫菌類の有無を調べるための環境調査を年2回実施している。対象となるのは、特別収蔵庫・一般収蔵庫・収蔵庫前室・荷解室・歴史展示室・特別展示室・展示ホールで、昆虫生息調査55ヶ所(歩行性昆虫トラップ48・飛翔性昆虫トラップ7)、空中浮遊菌調査8ヶ所、表面付着菌調査が5ヶ所である。また名栗地区行政センター2階にある名栗村史史料保管室では、昆虫生息調査12ヶ所(歩行性昆虫トラップ10・飛翔性昆虫トラップ2)、空中浮遊菌調査2ヶ所、表面付着菌調査が2ヶ所である。

令和元年度は1回目を6月3日(月)から6月22日(土)まで、2回目を9月3日(火)から9月25日(水)までの期間で実施した。

1回目の調査では、ステッキートラップ(歩行性昆虫を捕獲する床置き式粘着トラップ)により、チャタテムシが管理室と荷解室で、メイガが図書

室で確認された。また2回目では、ステッキートラップによりチャタテムシが管理室、整理室、荷解室、収蔵庫前室、特別収蔵庫で、タバコシバンムシが荷解室、収蔵庫前室、整理室で確認された。また、ジンサンシバンムシが飛翔性昆虫用のフェロモントラップで荷解室、身近な自然コーナー、整理室などで捕獲された。



環境調査の様子

●歴史公文書の収集と保存

当館では、飯能市文書管理規則第34条及び飯能市教育委員会文書管理規程第2条に基づき、廃棄対象となった公文書のうち、歴史資料として重要と評価した文書の収集を行っている。

当年度は、各所管課で廃棄決定された文書の選別作業を2月29日(土)から3月22日(日)にかけて実施し、のべ14日間で81箱分(L2箱・S79箱)を収集した。廃棄文書に対する比率は4.7%であった。選別した文書は、旧図書館の地下書庫へ移動させた。



この廃棄文書の山から歴史的に価値のある文書を選別



Ⅲ 常に広い視野を持って活動し、資料の価値を高めていく博物館

Ⅴ 歴史や文化を現在、そして未来へと活かしていく博物館

Ⅵ 飯能河原・天覧山周辺地域の自然の情報発信拠点としての機能もあわせもつ博物館

特別展に関する調査

令和元年度は、資料寄贈に関わるものとして昔の生活道具や古文書などの調査を18件実施した。また近世に上名栗村の世襲名主を務めた町田家の墓石調査など地域の歴史や文化に関わる調査を5件実施した。その他、特別展開催にかかり、以下のとおり特別展「飯能の名宝」や市内大字虎秀に伝来する説経節の調査も行った。

○特別展「飯能の名宝」

(平成30年度)

- 11/14 福德寺 (虎秀)
- 11/28 鳥居観音 (上名栗)
- 12/6 常楽院 (高山) ・長念寺 (白子)
- 12/22 常楽院 (高山)
- 3/1 飯能市役所第2庁舎
(令和元年度)
- 8/24 下名栗諏訪神社 (下名栗)
- 8/28 飯能市役所第2庁舎
- 9/20 飯能市役所第2庁舎
- 10/5 西光寺 (落合)
- 10/10 飯能市役所第2庁舎
- 10/11 飯能市役所第2庁舎

○特別展「説経節」 (仮称)

(令和元年度)

- 6/22 落合家 (虎秀)
- 6/28 八王子市郷土資料館
- 11/29 生涯学習課と合同調査 (当館)
- 12/5 生涯学習課と合同調査 (当館)
- 12/19 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 (新宿区)
- 3/26 落合家 (虎秀)
- 3/25 三代目若松若太夫師と調査 (当館)



特別展「説経節」(仮称)の調査

古文書詳細調査

当館では、平成16年度から21年度にかけて飯能市教育委員会で行われた古文書所在確認調査を引き継ぎ、その補足調査や、当館で所蔵、もしくは受託している史料の翻刻や内容分析、及び特定のテーマを設定して行った関係史料の調査を行ってきた。令和元年度も、前年度に引き続き池田昇氏(元日の出町史編さん担当職員)にお願ひし、受託史料である武蔵国高麗郡唐竹村鈴木家文書及び秩父郡高山村岩田家文書の整理及び内容分析を行った。

なお、平成14(2002)年8月より行ってきた地方史料調査会との合同調査は、平成31年3月をもって終結した。毎年、原則として3月と8月の年2回実施し、16年半で30回を数えた。この間、東日本大震災や当館の常設展示改装などによる休館もありながら、長期間にわたり同会との調査を継続できたことは、当館にとっても大きな財産となった。なお、この調査成果は、2016年4月に刊行された、白井哲哉・須田努編『地域の記録と記憶と問い直す』(八木書店)として結実した。

自然調査

当館では、天覧山・多峯主山の自然情報を発信するため、定期的に調査を行っている。

移り変わる季節変化を確認するため、調査頻度はNPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会が実施しているモニタリングサイト1000里地調査への参加を含めて、1ヶ月に2回程度を目安とした。調査対象は主に植物相(維管束植物)とし、その開花・結実情報を集めた。

調査方法は、モニタリングサイト1000里地調査マニュアル植物相(Ver.3.1)で使用しているトランセクト法とした。調査コースは、A諏訪沢入り、B天覧入り、C天覧・本郷入り境、D本郷入り、E本郷・御嶽入り境、F御嶽入りの6つとし、さらに植生や景観の違いから分けした。区ごとに植物相を調査用紙に記入し、成長段階(蕾、花、花終わり、実、種)も観察し、群生であった場合は特記した。また、確認した種は全体や部位の拡大などその種の特徴がわかるように写真撮影を行った。

当該年度は右表のとおり40回実施した。なおモニタリング1000里地調査の対象は、植物、鳥類、ホタル、チョウである。



自然調査風景

◆令和元年度自然調査一覧

回	日にち	コース	目的
1	4/1	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
2	4/9	E本郷・御嶽入り境～C天覧・本郷入り境	定期
3	4/16	B天覧入り～D本郷入り	植物(春編)
4	4/23	B天覧入り～D本郷入り	植物(春編)
5	4/26	A諏訪沢入り～B谷津田	定期
6	5/10	B天覧入り～D本郷入り	植物(春編)
7	5/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
8	5/14	B天覧入り～A神久山方面	モニタリング1000(鳥)
9	5/24	D本郷入り～D本郷入り	定期
10	5/31	A諏訪沢入り～B谷津田	自然観察会
11	6/1	a飯能河原	自然観察会
12	6/3	B天覧入り～A神久山方面	モニタリング1000(鳥)
13	6/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
14	6/25	B天覧入り～A神久山方面	モニタリング1000(鳥)
15	7/5	B天覧入り～B谷津田	定期
16	7/6	B天覧入り～B谷津田	モニタリング1000(ホタル)
17	7/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
18	8/1	F御嶽入り～D本郷入り	定期
19	8/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
20	8/29	E本郷・御嶽入り境～D本郷入り	定期
21	9/4	B天覧入り～B谷津田	植物(秋・冬編)
22	9/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
23	9/15	A諏訪沢入り～B谷津田	自然観察会
24	9/27	A諏訪沢入り～B谷津田	自然観察会
25	10/4	B天覧入り～D本郷入り	植物(秋・冬編)
26	10/5	B天覧入り～多峯主山山頂	モニタリング1000(チョウ)
27	10/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
28	11/8	A諏訪沢入り～B谷津田	植物(秋・冬編)
29	11/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
30	12/3	D本郷入り～B谷津田	植物(秋・冬編)
31	12/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
32	1/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
33	1/14	B天覧入り～A神久山方面	モニタリング1000(鳥)
34	1/23	B天覧入り～A東谷津トラスト地	植物(秋・冬編)
35	2/3	B天覧入り～A神久山方面	モニタリング1000(鳥)
36	2/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
37	2/18	D本郷入り～B谷津田	植物(秋・冬編)
38	2/27	F御嶽入り～E本郷・御嶽入り境	定期
39	3/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
40	3/17	D本郷入り～A東谷津トラスト地	定期

※「植物」は『天覧山・多峯主山の植物』発行に伴うもの。



I 新たな魅力に出会える博物館

ホームページ・ソーシャルメディア (SNS)

ホームページのアクセス数はほぼ横ばい。
SNSはフォロワーが伸びず、広報手段として必ずしも有効に機能していない。

○ホームページ

今年度はトップページの大幅な変更は行わず、各ページの充実に努めた。具体的には「今月の一品」と「That! きっとす」のページについて、前年度以前のページを全てPDFに変換して年度ごとにそれぞれ1つのページにまとめた。このことにより、記事を更新するごとにページが縦に長く伸びて見にくくなってしまっていたのが、当該年度分のみがページとして表示されるようになり、すっきりと見やすくなった。しかし、スマートフォンからの閲覧だとPDFデータを見るためにはダウンロードをする必要があるため、敬遠される場合がある。ページの簡潔さと各媒体から見た場合の利便性の双方を満たす方法を今後も模索していく必要がある。

右の表は、今年度のトップページへのアクセス数を月ごとに表わしたものである。前年度から2倍以上に増えた昨年度と比すると350件ほど減っているものの、昨年度がリニューアルして初めての年であり4月のアクセス数が群を抜いていた(3,191件)ことを考えると、全体としては微増と考えても良いのかもしれない。但し、これらの数字はあくまで前年度やその前の年と比較した結果であり、1日あたりの閲覧数は約50件と

仮にも多いとは言えない。したがって、利用者にとって見やすく使いやすいホームページを目指して、構成の見直し等も含めて今後も検討が必要である。

◆平成30・令和元年度ホームページ閲覧数推移

年度 月	平成30(2018)		令和元(2019)	
	閲覧数	割合	閲覧数	割合
4月	3,191	16.5%	1,360	7.2%
5月	1,864	9.7%	1,361	7.2%
6月	1,519	7.9%	1,326	7.0%
7月	1,947	10.1%	2,004	10.6%
8月	2,022	10.5%	2,633	13.9%
9月	1,283	6.6%	1,650	8.7%
10月	1,441	7.5%	2,267	12.0%
11月	1,407	7.3%	1,729	9.1%
12月	1,025	5.3%	1,032	5.4%
1月	1,001	5.2%	974	5.1%
2月	1,205	6.2%	1,140	6.0%
3月	1,393	7.2%	1,474	7.8%
合計	19,298		18,950	
1ヶ月平均	1,608.2		1,579.2	
1日平均	52.9		51.8	

○ソーシャルメディア

①ツイッター

当館は独自のアカウントを持っていないため、飯能市の公式アカウントから発信者を【博物館】と明記する形でツイートを行っている。内容は事業や休館の案内などである。

今年度も例年通り事業の直前に案内のツイート

を行ったが、その数は従来よりも少なくした。これは、各事業で取るアンケートにてツイッターが参加や来館のきっかけとなったとする回答が非常に少ないことと、当館のツイッター運営方針について再検討を始めたことによるものである。

毎回イベントや展示の際にはアンケートを実施

しているが、その結果を見る限り、現状ではツイッターが集客に影響しているという可能性は極めて低いと言わざるを得ない。そうだからと言ってツイートを減らしてよい直接の理由にはならないが、このまま同じようにツイートを続けていくのはあまり意味のないことであり、かといって方針転換の方向性が決まっているわけでもないため、まずはツイートの回数を減らすこととした。今後どのような形でツイートをしていけば良いのか、また、当館独自のアカウントの取得を目指した方が良いのか否かなど、他館の情報も収集しながら現在検討中である。

②フェイスブック

当館独自のアカウントを使って情報発信を行っている。事業や休館情報の案内のほか、館の日常などを投稿することもある。

フェイスブックを解説してから2年余になるが、今年度はフォロワーの数がほとんど伸びなかった。フォロワーの伸び悩みの傾向は既に昨年度中から見られていたが、今年は特に顕著であった。その主な理由としては、投稿の内容が毎年変わらないということと、ホームページなどとの差別化ができていない、ということが考えられる。

投稿内容の整理と変更については担当者間で検討を始めてはいるものの、未だ明確な方針が打ち出せていない状況である。そのため、まずは従来闇雲に投稿していた部分(1日の中でいくつも記事をアップロードするなど)について投稿数を絞ることで改善を目指した。しかし、このことが館内で徹底されていなかったため、結果として投稿内容に大変偏りのある年となってしまった。その

◆平成元年度フェイスブック内容別内訳

年度 分類	平成30(2018)		令和元(2019)	
	件数	割合	件数	割合
事業報告	32	60.4%	36	46.8%
案内	14	26.4%	31	40.3%
博物館活動	5	9.4%	7	9.1%
資料情報	0	0.0%	1	1.3%
学術情報	0	0.0%	1	1.3%
その他	2	3.8%	1	1.3%
合計	53		77	

一例が、活動報告についてである。当館では三分野の市民学芸員が活動しており、当該年度は養成講座も実施したが、フェイスブック上では麦作文化探求の活動のみが更新され、他の分野の活動が見えない状況となっている。また、当館で開催したイベント等の事業についても、報告を投稿する分野に偏りが出てしまった。

今後は当館のフェイスブックが抱えている問題を職員全員が認識し、館全体として方向性を定めていかなければならないだろう。

〇まとめ

以上、当館における情報発信の状況をメディアごとに述べた。どの媒体においても、一昨年度以前より続く課題と共に今年度新たに顕在化した課題も抱えている状態であり、各媒体を有効に使った情報発信ができていない状態である。

まずは現在当館が抱えている問題を館内で共有して整理し、その上で各媒体を如何に関連付けながら互いの特性を活かして活用していくか、その方法が無理ならば方針だけでも早急に検討し、改善していかなければならないだろう。



飯能市のツイッター公式アカウント

That's! きつとす

10

That's!

このコーナーは植物の
歴史・文化・特長を紹介して
いきます。

■鮮やかに咲くツユクサの生存戦略

6月、徐々に森の緑は濃くなり、夏へと移り変わっていきます。天覧山・多峯主山の山道沿いにはコアジサイやウツギの仲間が咲き始めます。夏の季節には、白色の花が多く咲きますが、その中で鮮やかな青色でひと際目立つ小さな花があります。それがツユクサです。

ツユクサは、高さ30～50cmほどで、山道や道ばたでよく咲いています。花の青い汁は、友禅染の下絵を描くのに使われていて、水で洗うと脱色します。そして、花は一日しか咲きません。そのため、短時間で次世代を残していく必要がありますから、繁殖の一面を持ち合わせています。昆虫に花粉を効率的に運んでもらうために、ツユクサは飾り雄しべをつけます。飾り雄しべは、ほとんど花粉をつけません。黄色が目立ち、花粉がたくさんあるように見えるので、昆虫を引き寄せるのに役立ちます。受精に必要な花粉を持つ雄しべは、白くてひょうろりと長いものです。昆虫が飾り雄しべに近づくと、花粉を持つ雄しべが昆虫のお腹に当たり、花粉を運んでもらうことができます。また、ツユクサはしばむねになると、自分の雄しべをぐるぐる巻き寄せ自分の雄しべと受精することもあります。

身近な小さな植物にも、隠れたドラマがあるのです。

6月中旬から、飯能市立博物館では天覧山・多峯主山の夏の植物の写真展示を行います。ツユクサのほかにも、魅力溢れる植物たちをご紹介しますので、是非お越しください。(長谷川)

博物館からのお知らせ 釧路台大学野村ゼミナール展示「和文再現発見 着物・きものKimono」6月9日(日)～6月23日(日)
自然写真展「愛しき夏の植物たち」6月15日(土)～7月28日(日)

「That's! きつとす」は、地元のケーブルテレビである「飯能・日高テレビ」で毎月発行している番組ガイドにスペースをいただき、地域の歴史や文化、自然を紹介しているものである。平成30年4月のリニューアルオープンに伴い周辺の自然のデジタルセンターの機能が付け加わり、自然分野の話題も掲載するようになった。

内容は、当館職員による資料研究の成果や地域の歴史事象のほか、資料の整理や調査など日常の活動の中で気づいたこと、感じたことなどを写真1枚程度を添えて書いており、当館にとっては身近な話題を定期的に発信できる貴重な機会となっている。

なおこの内容は当館のホームページでも見ることができる。当該年度の掲載内容は左のとおりである。

なおこの内容は当館のホームページでも見ることができる。当該年度の掲載内容は左のとおりである。

◆令和元年度「That's! きつとす」掲載記事一覧

月	内 容	担当
4月	節目の年に～改元と開館30年～	引間
5月	智観寺中山家墓地にオリ!?	尾崎
6月	鮮やかに咲くツユクサの生存戦略	長谷川
7月	水辺とホテルの密接な関係	本橋
8月	終戦直後の学校 一飯能第二国民学校『学校日誌』より	金澤
9月	秋だ! タカの渡りの時期がやってきた!	長谷川
10月	それは、天覧山から始まった! ? ～記念物保護制度100年～	引間
11月	赤・朱色・黄色 秋を彩る紅葉のメカニズム	本橋
12月	地域の災害と博物館	尾崎
1月	天覧山・多峯主山にすんでいる小さな“カヤネズミ”	長谷川
2月	(休み)	
3月	つくしとスギナは同じ植物?	本橋

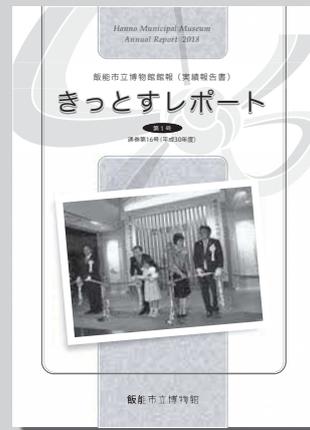
刊 行 図 書



特別展図録
「飯能の名宝」
A4判56頁(令和元年10月20日発行)



飯能市立博物館史料集第1集
「須田家日記(一)」
A4判116頁(令和2年3月29日発行)



飯能市博物館館報
「きつとすレポート」第1号
A4判76頁(令和2年3月29日発行)



Ⅱ 「学び」の入口となる博物館

事業支援は8件となり、観光の拠点としての期待が明確に！

平成28(2016)年から令和7(2025)年までの飯能市第5次総合振興計画では、まちづくりの基本理念の1つとして「魅力・交流・賑わい創造と経済の好循環」が掲げられ、「古くから培われてきた本市の歴史や伝統、文化などの地域資源を、本市の単なる特性として継承してだけでなく、更に個性を引き出し、新感覚で新たな魅力創造へのステップアップを図る」としている。

こうした理念のもと、市役所内の様々な課所が地域資源を活用し、ブランド化をはかり、シビックプライドを醸成する事業を行っているが、これらの事業には、当館がもっている地域の歴史・文化情報が有益である。こうした動きに対しては、歴史文化情報資源を一時的に活用して終わってしまうことのないよう、常に情報をブラッシュアップし、地域の活性化にも貢献できるようにしたい



エコツーリズム推進協議会現地研修会の様子(8/28)

と考えている。

令和元年度は以下の8件でこれまでに多くなっている。中でもスタンプラリーに類するものが3件あり、人々を廻遊させる手段として定着していることが見て取れる。

◆令和元年度事業支援の実績

	支援先	利用期間	内 容
1	テレビ東京	3月～4月	「出役! アド街ック天国」(5/4放映分)のコンテンツ、写真提供、トーベ・ヤンソン書状などの撮影などについて協力した。
2	埼玉トヨペット(株)	7月1日(月) ～8月31日(土)	地図に描かれた謎を解き明かし、エリア内に隠された宝物を見つけ出す「リアル宝探し Brave Treasure」において、宝箱、謎ときの手がかりを記したパネルを当館歴史展示室に設置した。
3	情報戦略課	8月1日(木) ～31日(土)	メツァオープンにより増加した観光客の市内回遊を目的に実施された、飯能市ご当地アプリを活用した「Meets!×HANNOスタンプラリー」において、スタンプ用のQRコードの掲示及び周知用のチラシを配布した。
4	飯能市エコツーリズム推進協議会	8月28日(水)	観光ガイドによる幕末の飯能をテーマにしたツアーの実施を目指した第2回現地研修会で、能仁寺や天覧山、中清米店などを案内した。
5	ウインド・シャドウ、東吾野地区行政センター	11月～12月	山間地域振興計画の事業として、顔振峠近くに設置する「渋沢平九郎と顔振峠」の案内看板の原稿を作成した。
6	(一社)奥むさし飯能観光協会など	2月27日(木) ～3月17日(火)	奥むさし飯能観光協会のほか名栗地区の11の機関・団体が共催で実施する写真展「名栗の四季」を展示ホールで実施し、名栗地区の名所、名物等について広くPRした。
7	市立図書館	2月29日(土) ～4月24日(金)	図書館1階の展示コーナーにあるガラスケース2台に、当館所蔵資料で、『収蔵資料目録6』に収録した護符(お札)を展示し、当館の活動の一端を紹介した。
8	埼玉県西部地域振興センター	3月1日(日) ～8月31日(月)	県西部地域の魅力あるスポットを周知し、周遊を促すことにより観光客の増加と定住人口の増加に寄与することを目的とした「Saitama Look West スタンプラリー」において、スタンプを設置し、参加者に自然のポストカードを配布した。

博物館協議会

博物館協議会は、飯能市立博物館条例第11条に基づき、当館の運営に関する事項を調査し、審議するために置かれている。委員は、学校教育及

び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、学識経験者から成る10人以内の委員によって構成され、任期は2年である。

任期 平成30年7月1日～平成32(令和2年)6月30日

【委員名簿】

職名	氏名	役職	備考
会長	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	
副会長	栗原 慶子	東吾野女性林研ときめ木 会長	
委員	伊藤 誠	原市場小学校長	
委員	岡野 民嗣	吾野中学校長	令和元年3月31日退任
委員	岩崎 隆	名栗中学校長	令和元年4月1日就任
委員	杉田 和美	学童保育なぐりっ子クラブ指導員	
委員	井上 淳治	(有)創林 代表取締役	
委員	野村 正弘	駿河台大学教授	
委員	小槻 成克	飯能市文化財保護審議委員会委員	
委員	馬場 憲一	法政大学名誉教授	
委員	平良 宣子	毛呂山町歴史民俗資料館学芸員	

第1回 令和元年7月30日(火)

午前10時～12時

(議 事)

協議事項

- ・平成30年度事業報告について
- ・令和元年度事業経過と今後の予定について
- ・当館の施設について

第2回 令和元年11月21日(木)

午前10時～12時

(議 事)

協議事項

- ・令和元年度主要な事業報告・予定について
- ・令和2年度主要な事業計画(案)について
- ※終了後、特別展「飯能の名宝」の展示解説を実施

第3回 令和2年3月19日(木)

午前10時～11時30分

(議 事)

協議事項

- ・令和元年度主要な事業報告・予定について
- ・令和2年度主要な事業について
- ・小・中学校社会科研究展について



博物館協議会委員への施設の案内



Ⅱ 「学び」の入口となる博物館

博物館実習は、博物館法施行規則第1条に基づき、大学において修得すべき博物館に関する科目の一つとされており、登録博物館又は博物館相当施設(大学においてこれに準ずると認められた施設を含む。)における実習により修得される。登録博物館である当館は、文部科学省が平成21年4月に作成した「博物館実習ガイドライン」を参考にしながら博物館実習を実施している。「ガイドライン」には、博物館が学芸員を始めとする博物館に関する人材を育成する責務を有していること、実習の受け入れが博物館の質の向上につながることを指摘しているが、合わせて実習を通して実習生とその周辺

の人々に当館の役割や存在意義に対する理解を深めてもらうことも重要な目的の一つと考えている。

当館では実習を行う年の1月にその年の実施要領をホームページ上で公開することとしている。実習期間は7日間である。受け入れる学生は原則として、本市に本籍もしくは住所を有する方または本市内に所在する大学等に在学する方で、博物館概論の単位を修得済みで、実習を行う年度内に学芸員資格取得に必要な単位を全て修得可能であることを応募の条件にしている。申込みは実習の前年度末までに受け付け、概ね4人以内で実習生を決定している。

実習期間 令和元年8月2日(金)～9日(金) 7日間

実習生 市川千尋(立正大学)・小野ゆりあ・馬場章太(以上駿河台大学) 田島直子(八洲学園大学)・田端祐也(日本大学)

◆令和元年度博物館実習カリキュラム

	実施日	曜日	午前	午後
1	8月2日	金	オリエンテーション・ 「当館の現状と運営方針」(尾崎)	施設見学(金澤)
2	8月3日	土	夏休み子ども歴史教室「古文書に挑戦！」準備(金澤)	
3	8月4日	日	名栗くらしの展示室見学ほか(引間)	民具整理(引間)
4	8月6日	火	夏休み子ども歴史教室 「古文書に挑戦！」準備(金澤)	ヒロシマ・ナガサキ原爆写真 パネル展について(金澤)
5	8月7日	水	夏休み子ども歴史教室「古文書に挑戦！」運営(金澤)	
6	8月8日	木	夏休み子ども歴史教室反省会(金澤)	古文書整理(金澤)
7	8月9日	金	古文書整理(金澤)	実習全体の振り返り・まとめ(尾崎・金澤)

()は指導者名



実習会場に予定されていた学習研修室の空調設備が故障し、「飯能と西川村コーナー」のテーブルセットでの実習に！

博物館実習生の声

1. 実際に博物館で業務に携わってみてわかったこと

- ・学芸員の仕事は、展示について詳しくればよいという訳ではなく、他にも受け入れた史料について情報を整理すること、市内の子どもたちを招き教室を開くこと、また暑い収蔵庫にこもり膨大な史料を選別すること等、様々な仕事があることを7日間という短い期間で身を以て感じる事が出来た。
- ・博物館で行われている展示、教育普及等の様々な事業は、民具整理、古文書整理といった、利用者からは見えない地道な仕事に支えられているということ。資料を整理する作業を通じて資料に触れ、それらについての発見を積み重ねることが博物館活動の根幹にあることを実感しました。(でも、それがものすごく膨大な量なので、事業を行いながら資料整理をするのは本当に大変だな、と思いました)
- ・博物館の展示を見に来館する方だけでなく、子ども歴史教室など子どもたちが学ぶイベントの場として利用されることがわかりました。このような活動を続けることで、目的はイベントでも展示に興味をもつ子どもがまた博物館に来ようと思うきっかけになると思います。まずはどのような目的でも来てもらえるきっかけはとても大切ではないかと考えました。
- ・博物館は、ただ来館者を受け身の姿勢で待っているのかと思っていましたが、博物館の学芸員

さんや職員の人たちは一生懸命、来館者の注目を引くために努力したり、広報活動などでも積極的にして、館のアピールをしていることがよく分かりました。

- ・市民ファーストで館の運営を行っていることが、館報のミッションから大変よくわかったし、みなさんの意識の中にも時々感じる事ができました。
- ・小さい頃から来館させていただいていた飯能市立博物館がどのような目標をもって運営されているのかが分かり、利用する側と運営する側双方の目線で、博物館という存在について深く自身の体験として考えるきっかけを今回の実習でいただきました。どんな思いで学芸員の方や共に働く方がここに居るのか、どんな心構えであるべきかがよく分かった。

2. 博物館実習で楽しかったこと

- ・「夏休み子ども歴史教室」の準備から当日の運営補助。「くずし字」というテーマを聞いた時、私の中では、小学生の子どもたちは知っているのだろうか、興味を示すのだろうか、と考えていた。しかし最終的にはくずし字暗号解読表を見なくても読めるようになっていた。非常に驚き、最後まで真剣に取り組む姿勢に感動させられた。
- ・夏休み子ども歴史教室の準備、運営です。準備ではゲームに使う物を作ることが楽しく、当日は子どもたちと楽しく過ごすことができました。ゲームに一生懸命取り組む姿を見て、頑張っ



夏休み子ども歴史教室で参加者をサポート (8/7)



楽しかった夏休み子ども歴史教室 (8/7)



夏休み子ども歴史教室の反省会 (8/8)

作って良かったと思いました。

- ・「夏休み子ども歴史教室」で、子どもたちと一緒に魚つりゲームなどをしながら学べたことが楽しかったです。自らの子育ての経験や図書館の子ども室で働いた経験が少しは役に立ったかなと思います。
- ・夏休み子ども歴史教室の準備から反省までとても楽しかった。普段の展示からいかに子どもに興味をもってもらい、学習してもらうかを思い、子どもたちの成長を見守りながら一つの企画を実践することの大変さも学べ、とても充実した経験ができた。体力的には若干つらかったが…。
- ・夏休み子ども歴史教室で、普段ふれあうことのあまり無い子どもたちを相手にどうやったら楽しく参加してもらえるか、みんなで考えて、イベントを開催したこと。すごくいい思い出になりました。
- ・名栗くらしの展示室に行って、実際の人々のくら



大変だった民具整理 (8/4)

して使われていた農具等を実際に動かしたり触ったりして体験できたこと。

- ・常設展示を職員の方に解説していただきながら見学できたこと。解説していただくことで、自分ひとりで見るよりも展示の内容を深く知ることができ、楽しかったです。

3. 博物館実習でつらかった(大変だった)こと

- ・民俗資料カードの制作。民具の寸法を測り、見取り図を書く作業で、絵を書くことが苦手な私は、人形であったらどの部分から書いたら良いのか苦労した。民具整理は非常に時間がかかることを体験して気づいた。
- ・古文書の整理です。くずし字を解読することにとっても苦戦しました。〇〇年と表記するのではなく、干支で表記されていた時には驚きました。大変な分、やり甲斐のある作業でした。
- ・博物館の基礎、基本である収集資料をただの「もの」から博物館資料にするために、番号をふったり、特長や破損を書いてカードをつくらしたりする地道な作業が多かったこと(特に古文書)。
- ・吾野の書類を整理する時のホコリとの戦いが大変だった。

4. 次年度の実習生に向けてのメッセージ(先輩として、実習を受けるにあたっての心構え、ここを楽しんでほしいなど)



苦労した古文書の整理 (8/8)

- ・実習期間は7日間で長いようであつという間だった。学芸員としての仕事を様々経験できる場はたったの7日間しかないので、日々真剣に取り組む、少しでも多くのことを学び取れるとよいと思う。
- ・細かい作業が多いので、思っている以上に体力を使いますが、集中しているとあつという間に時間が過ぎてしまいます。そして終わると達成感がすごいです。
- ・カリキュラムに沿って、職員の指示に従って実習をするのですが、受身にならず、少しでも多くのことを学ぼうという意志をもって、積極的に取り組むことが大切だと思います。
- ・あつという間に1週間が過ぎてしまいます。その1週間の中で実習中に多くのことを学んでほしいです。館内で学ぶことができる貴重な時間ですので、1日1日を大切にに取り組んでください。
- ・子どもたちが来館する日は、積極的に話しかけてみてください。こっちからしゃべりかけるとだんだん向こうから話してくれて、もっと深い理解につながると思います。
- ・実習全体を通して初めての実地での活動ということで、授業や教本では味わえない生の博物館、学芸員を学ぶことができます。ぜひ新たな知識を得ることを楽しんでもらいたい。

5. 当館の博物館実習カリキュラムの内容についてなど意見

- ・学芸員としての仕事を幅広く体験することが出来た。毎日体験する仕事に積極的に取り組むことができた。
- ・民具や古文書の実物の資料を整理させていただいたことはとても良い経験になりました。
- ・夏休み期間であること、7日間という限られた実習期間であることから仕方のないことではありますが、大人向けの講座や展示事業に関わる内容が含まれなかったことは少し残念でした。
- ・大学の实習では、教育普及について何かすることがなかったので、とても良い経験になりました。古文書整理、民具整理など実習だからこそこできることだと思います。
- ・大変満足な内容でした。みなさん本当に優しく親切な方ばかりだったので、自然体で実習に参加できました。ありがとうございました。
- ・子ども向け行事もとても楽しく、自分の勤務先でも参考にしたいと思いました。
- ・担当してくださった各学芸員さんごとに、実情や小ネタなどがはさまる事もあり、カリキュラムの中でもそれから外れた事を知ることができて程よい自由度のカリキュラムだったのかなと思う。



令和元年度博物館実習生

第 3 章

– Chapter 3 –

【各種データ】

利用者数

令和元年度利用者数

単位：人（明記したものを除く）

月	開館日数 (日)	入館者数		入館者以外の利用者数							利用者合計 に対する割合(%)	利用者 合計
		人数	1日平均	出張授業 受講者数	資料 利用者数	レファレンス 件数	講師派遣 受講者数	ホームページ アクセス 件数	合計			
4	26	2,959	113.8		11	23	71	1,360	1,465	33.1	4,424	
5	27	2,713	100.5		9	19		1,361	1,389	33.9	4,102	
6	21	1,883	89.7		16	15	110	1,326	1,467	43.8	3,350	
7	26	3,336	128.3	100	15	40	54	2,004	2,213	39.9	5,549	
8	27	3,410	126.3		7	52	54	2,633	2,746	44.6	6,156	
9	25	3,233	129.3		4	21	182	1,650	1,857	36.5	5,090	
10	22	2,788	126.7	105	10	18	80	2,267	2,480	47.1	5,268	
11	25	4,705	179.8	170	8	44	96	1,729	2,047	30.3	6,752	
12	22	2,633	119.7	95	9	19	51	1,032	1,206	31.4	3,839	
1	23	3,022	131.4		9	21		974	1,004	24.9	4,026	
2	23	3,340	145.2		11	17	61	1,140	1,229	26.9	4,569	
3	24	2,580	107.5		8	20		1,474	1,502	36.8	4,082	
合計	291	36,602	125.8	470	117	309	759	18,950	20,605	36.0	57,207	

開館(平成2年度)から令和元年度末までの

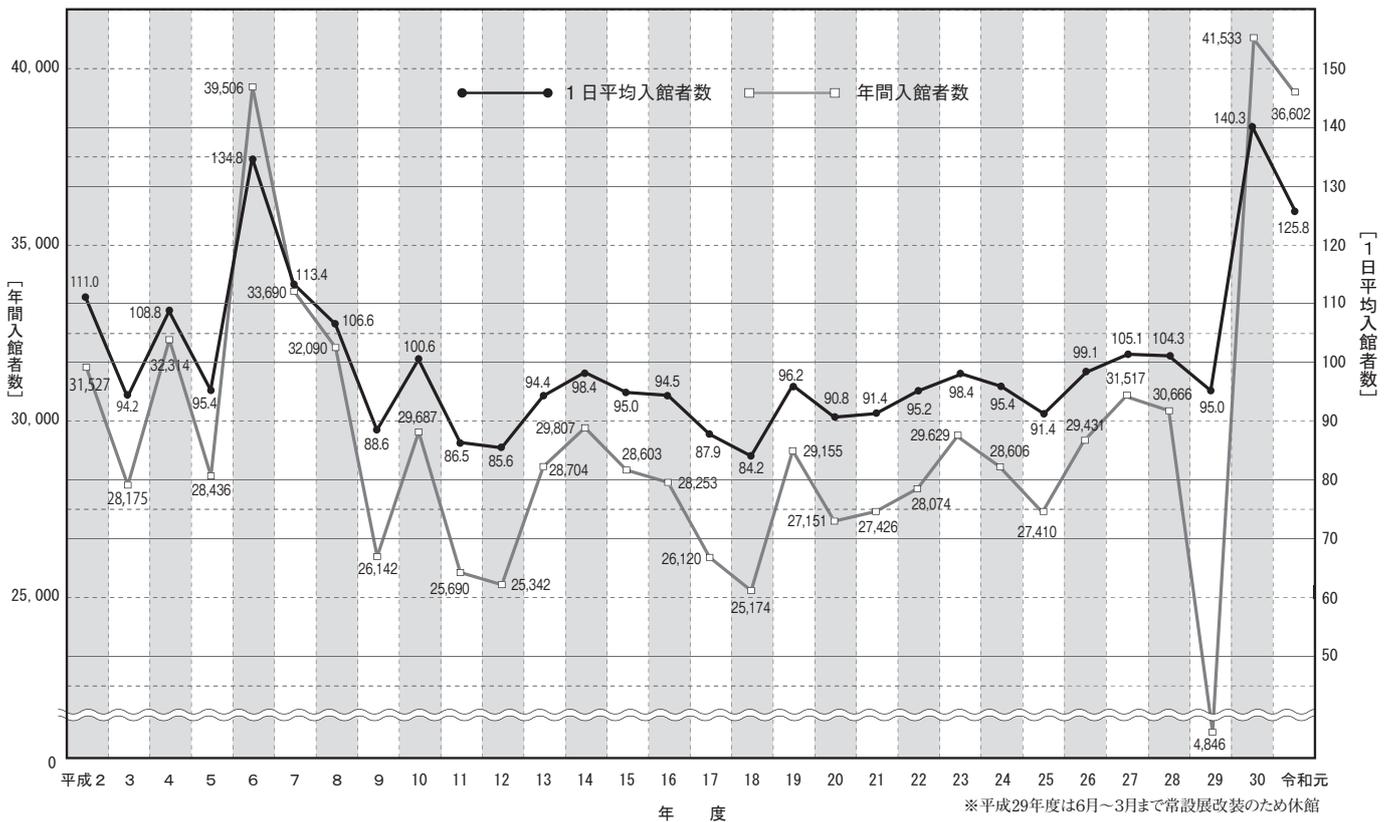
総入館者数 871,306人

開館日数 8,676日

1年平均入館者数 29,043.5人/年

1日平均入館者数 100.4人/日

入館者数の推移



歳出予算・決算

単位：円（明記したものを除く）

年度	事業名	郷土館(博物館)事務費	展示・学習会開催事業	資料収集・保存事業	調査・研究事業	郷土館(博物館)施設管理事業	郷土館(博物館)事業費小計	常設展示改装事業	郷土館(博物館)費合計	A(%)	B(円)	C(円)
平成29	予算額	7,673,000	3,888,000	2,061,000	266,000	19,771,000	33,659,000	50,000,000	83,659,000	0.26	1043.4	17,263.5
	割合	22.8%	11.6%	6.1%	0.8%	58.7%						
	決算額	7,606,006	2,478,906	1,710,887	207,114	18,000,286	30,273,199	50,112,000	80,385,199	0.24	1002.6	16,587.9
	執行率	99.1%	70.7%	83.0%	77.9%	91.0%	89.9%	—	96.1%			
平成30	予算額	7,913,000	3,554,000	1,371,000	697,000	9,641,000	23,176,000	0	23,176,000	0.08	290.1	558.0
	割合	34.1%	15.3%	5.9%	3.0%	41.6%						
	決算額	7,739,154	2,945,505	1,137,991	561,803	9,194,933	21,579,386	—	21,579,386	0.08	270.1	519.6
	執行率	97.8%	82.9%	83.0%	80.6%	95.4%	93.1%	—	93.1%			
令和元	予算額	7,975,000	4,778,000	2,027,000	364,000	12,633,000	27,777,000	0	27,777,000	0.10	348.7	758.9
	割合	28.7%	17.2%	7.3%	1.3%	45.5%						
	決算額	7,631,978	4,338,752	1,803,871	309,805	15,295,485	29,379,891	—	29,379,891	0.10	368.9	802.7
	執行率	95.7%	90.8%	89.0%	85.1%	121.1%	105.8%	—	105.8%			

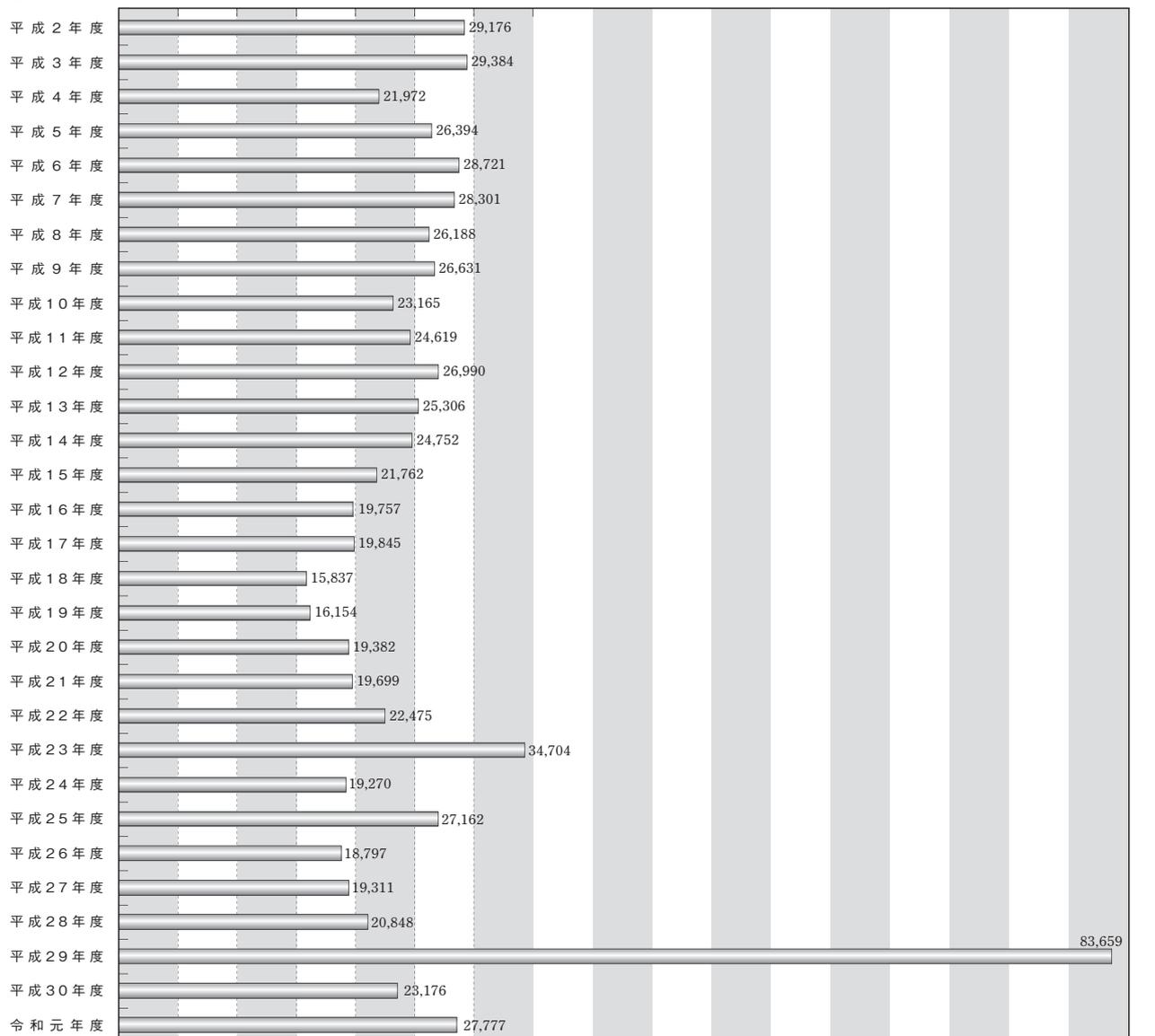
当館事業費決算額(人件費のぞく)

A：飯能市一般会計歳出決算額に対する割合 B：市民1人あたり（当該年度の4月1日現在の人口）の金額

C：入館者1人あたりの金額 ※平成29年度は開館期間が2ヶ月間だったため、例年に比べ数値が非常に高くなっている。

飯能市郷土館（飯能市立博物館）当初予算額の推移

単位：千円



※平成29年度は、常設展示改装工事のため予算が大幅に増額した。

図書資料寄贈機関

埼玉県

上尾市教育委員会
朝霞市教育委員会（文化財課）
朝霞市博物館
伊奈石の会
伊奈町
入間市教育委員会博物館
入間市博物館
（平成30年度）入間市博物館・学校連携事業研究委員会
桶川市教育委員会
春日部市郷土資料館
上里町教育委員会
川口市立科学館
川越市立中央図書館
川越市立博物館
行田市教育委員会
行田市郷土博物館
久喜市立郷土資料館
くまがや古文書学習・研究会
熊谷市
熊谷市教育委員会社会教育課市史編さん室
熊谷市立熊谷図書館
古代の入間を考える会
埼玉県
埼玉県文化財保護協会
埼玉県平和資料館
埼玉県立川の博物館
埼玉県立さきたま史跡の博物館
埼玉県立自然の博物館
埼玉県立文書館
埼玉県立嵐山史跡の博物館
埼玉県立歴史と民俗の博物館
埼玉文化懇話会
さいたま市
さいたま市大宮盆栽美術館
さいたま市立博物館
さいたま文学館
さいたま民俗文化研究所
坂戸市教育委員会
幸手市郷土資料館
サトエ記念21世紀美術館

狭山古文書勉強会
狭山市立博物館
城西大学水田美術館
（平成30年度）駿河台大学メディア情報学部野村ゼミナール
税務大学校税務情報センター租税史料室
草加市教育委員会
地学団体研究会埼玉支部
秩父市
長光寺
鶴ヶ島市教育委員会
鉄道博物館
所沢市生涯学習推進センター
戸田市立郷土博物館
新座市教育委員会
日本工業大学工業技術博物館
飯能市
飯能市教育委員会
飯能市・社会福祉法人飯能市社会福祉協議会
飯能市役所
飯能市立各小中学校
比企地区文化財振興協議会
日高市遺跡調査会
日高市教育委員会
富士見市立難波田城資料館
富士見市立水子貝塚資料館
ふじみ野市教育委員会
ふじみ野市立大井郷土資料館
松伏町
松伏町教育委員会
三郷市
宮代町郷土資料館
三芳町教育委員会
毛呂山町教育委員会
毛呂山町歴史民俗資料館
吉見町教育委員会
立正大学博物館
蕨市立歴史民俗資料館

東京都

荒川区・荒川区教育委員会
板橋区教育委員会

板橋区立郷土資料館
桜美林大学教職センター博物館学芸員課程
青梅市教育委員会
青梅市郷土博物館
学習院大学史料館
学校法人学習院
葛飾区郷土と天文の博物館
北区教育委員会
清瀬市郷土博物館
国立ハンセン病資料館
駒澤大学大学院史学会
財団法人渋沢栄一記念財団
渋沢史料館
社会福祉法人シルヴァーウィング他
新宿区文化観光産業部文化観光課文化資源係
杉並区立郷土博物館
大正大学教務課学芸員課程
台東区教育委員会
台東区教育委員会生涯学習課文化財担当
大和ハウス工業株式会社他
立川市教育委員会
公益財団法人多摩市文化振興財団(パルテノン多摩)
たましん地域文化財団
中央教育審議会
東京都三多摩公立博物館協議会
公益財団法人東京都歴史文化財団
豊島区
豊島区立郷土資料館
二十騎町プロジェクト合同会社
日本科学技術振興財団
日本博物館協会
野村不動産株式会社
八王子市教育委員会
東村山市教育委員会
東村山ふるさと歴史館
東大和市教育委員会
日野市
日野市教育委員会
府中市郷土の森博物館
ふれあい福祉協会
文化庁文化財第一課
町田市教育委員会
武蔵大学学芸員課程
明治大学

明治大学学芸員養成課程
株式会社リーガル不動産
株式会社ルーク・マーヴィス

その他

厚木市教育委員会
安中市学習の森ふるさと学習館
稲敷市立歴史民俗資料館
公益財団法人犬山城白帝文庫
岩宿博物館
岩宿博物館・相澤忠洋記念館
小山市立博物館
各務原市
かすみがうら市歴史博物館
神奈川大学日本常民文化研究所
かみつけの里博物館
菊川市教育委員会
群馬県立歴史博物館
国際平和ミュージアム平和教育研究センター
国立歴史民俗博物館
寒川町
高崎市観音塚考古資料館
高萩市山間地域の自然と文化を活かした里山づくり
プロジェクト
館林市教育委員会
千葉県文書館
津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会
津山郷土博物館
デジタルアーカイブ学会
長久保赤水顕彰会
長野市教育委員会文化財課松代文化施設等管理事務所
(真田宝物館)
流山市立博物館
日本写真学会
野田市郷土博物館
平塚市博物館
藤沢市文書館
松戸市立博物館
横浜開港資料館
立命館大学国際平和ミュージアム

飯能市立博物館条例

平成元年12月27日 条例第33号

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号。以下「法」という。)第18条の規定に基づき、飯能市立博物館(以下「博物館」という。)を飯能市大字飯能258番地の1に設置する。

(管理)

第2条 博物館は、飯能市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第3条 博物館に、館長その他必要な職員を置く。

(休館日)

第4条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(この日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)である場合を除く。)
- (2) 休日の翌日(この日が日曜日又は休日である場合を除く。)
- (3) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、前項に規定する休館日のほか臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

(利用時間)

第5条 博物館を利用することができる時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(利用の制限)

第6条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、博物館の利用を制限することができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) その他博物館の管理上支障があると認められるとき。

(入館料)

第7条 博物館の入館料は、無料とする。ただし、市長は、博物館が期間を定めて特別の資料の展示をした場合は、入館料として当該展示に係る必要な対価を徴収することができる。

(入館料の減免)

第8条 市長は、特に必要があると認めるときは、入館料を減額し、又は免除することができる。

(入館料の還付)

第9条 既に納めた入館料は、還付しない。ただし、市長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、その全部又は一部を還付することができる。

- (1) 利用者の責めに帰することができない理由により博物館を利用することができないとき。
- (2) その他市長がやむを得ない理由があると認めるとき。

(損害賠償)

第10条 博物館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、博物館の施設、設備及び資料を損傷し、又は滅失したときは、これを修理し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は一部を免除することができる。

(博物館協議会)

第11条 法第20条第1項の規定に基づき、飯能市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(協議会の組織)

第12条 協議会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

(1) 学校教育及び社会教育の関係者

(2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者

(3) 学識経験者

(委員の任期)

第13条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第14条 協議会に、会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第15条 協議会は、会長が招集し、会議の議長となる。

2 協議会は、委員の2分の1以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第16条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

(委任)

第17条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成2年4月1日から施行する。

(飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

2 飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和44年条例第8号)の一部を次のように改正する。

〔次のよう〕略

附 則 (平成24年条例第7号)

(施行期日)

1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に改正前の飯能市郷土館条例の規定により任命されている飯能市郷土館協議会の委員は、その任期満了の日までは、改正後の飯能市郷土館条例の規定により任命された委員とみなす。

附 則 (平成29年条例第20号)

(施行期日)

1 この条例は、平成30年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に改正前の飯能市郷土館条例の規定により任命されている飯能市郷土館協議会の委員は、その任期満了の日までは、改正後の飯能市立博物館条例の規定により任命された飯能市立博物館協議会の委員とみなす。(飯能市情報公開条例の一部改正)

3 飯能市情報公開条例(平成11年条例第1号)の一部を次のように改正する。

〔次のよう〕略

(飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

4 飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和44年条例第8号)の一部を次のように改正する。

〔次のよう〕略

飯能市立博物館条例施行規則

平成2年3月31日 教委規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、飯能市立博物館条例(平成元年条例第33号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(職員)

第2条 飯能市立博物館(以下「博物館」という。)に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(職務)

第3条 館長は、上司の命を受け、博物館の業務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、博物館の専門的業務を処理する。

3 その他の職員は、上司の命を受け、事務に従事する。

(施設の利用及び許可)

第4条 学習研修室、特別展示室及び図書室(以下「学習室等」という。)は、博物館の目的にそった研究会、展示会等に利用することができる。

2 学習室等を利用することができる者は、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体とする。

3 学習室等(図書室を除く。)を利用しようとする者は、飯能市立博物館施設利用許可申請書(様式第1号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

4 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市立博物館施設利用許可書(様式第2号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは条件を付けることができる。

(博物館資料の利用及び許可)

第5条 博物館の資料(以下「資料」という。)は、学術上の研究のため、利用することができる。

2 資料を利用しようとする者は、飯能市立博物館資料利用許可申請書(様式第3号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

3 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市立博物館資料利用許可書(様式第4号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは、条件を付けることができる。

(施設、資料利用許可の取消し等)

第6条 館長は、施設及び資料の利用を許可した者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、利用の条件を変更し、又は利用の許可を取り消すことができる。

(1) 利用許可の申請に偽りがあったとき。

(2) 条例又はこの規則に違反したとき。

(入館手続)

第7条 条例第7条ただし書に掲げる入館料が定められた展示を観覧しようとする者は、入館前にその定められた入館料を納付し、入館券の交付を受けなければならない。

(入館料の減免)

第8条 条例第8条の規定による入館料の減免は、次に定めるところによる。

(1) 本市が直接利用するとき 免除

(2) 本市の区域内に設置された学校又は保育所が利用するとき 免除

(3) 国又は本市以外の地方公共団体が利用するとき 免除

(4) その他教育委員会が特に必要と認めるとき 教育委員会が別に定める割合

2 入館料の減免を受けようとする者は、教育委員会に申請し、その承認を受けなければならない。

(入館料の還付)

第9条 条例第9条ただし書の規定により還付する入館料の額は、次に定めるところによる。

(1) 利用者の責めに帰することができない理由により利用することができないとき 全額

(2) その他教育委員会がやむを得ない理由があると認めるとき 教育委員会が定める額

(資料の寄贈及び寄託)

第10条 館長は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

2 資料を寄贈しようとする者は、飯能市立博物館資料寄贈申請書(様式第5号)を、資料を寄託しようとする者は、飯能市立博物館資料寄託申請書(様式第6号)を館長に提出するものとする。

3 館長は、資料を寄贈した者に対して飯能市立博物館資料受領書(様式第7号)を、資料を寄託した者に対して飯能市立博物館資料受託書(様式第8号)を交付するものとする。

4 寄託を受けた資料は、博物館所蔵の資料と同様の取り扱いをするものとする。ただし、当該資料の館外貸出しについては、寄託者の承認を得なければならない。

5 館長は、不可抗力による寄託資料の損害に対して、その責めを負わないものとする。

(委任)

第11条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則(平成4年教委規則第7号)

この規則は、平成5年1月1日から施行する。

附 則(平成10年教委規則第6号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年教委規則第5号)

この規則は、平成13年5月1日から施行する。

附 則(平成15年教委規則第9号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年教委規則第20号)

この規則は、平成18年1月1日から施行する。

附 則(平成30年教委規則第3号)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

様式第1・3・5・6号(74ページ)、様式第2・4・6・7号省略

様式第1号(第4条関係)

担当	館長

熊本市立博物館施設利用許可申請書

年 月 日

(宛先)熊本市立博物館長

団体名 _____

住所 _____

申請者 氏名 _____

電話番号 () _____

下記のとおり施設を利用したいので申請します。

利用責任者	住所	氏名	電話番号 ()
利用目的			
利用日時	年 月 日 時 分～ 年 月 日 時 分		
利用施設	<input type="checkbox"/> 学習研修室	人	
	<input type="checkbox"/> 特別展示室	展示品()	点
利用備品	<input type="checkbox"/> スライド映写機 <input type="checkbox"/> ビデオ機器 <input type="checkbox"/> 展示パネル <input type="checkbox"/> 展示ケース <input type="checkbox"/> 展示台 <input type="checkbox"/> その他()		
その他 特記事項			

※ □内は、該当するところにレ印をつけてください。

様式第1号 施設利用許可申請書

様式第5号(第10条関係)

担当	館長

第 号

熊本市立博物館資料寄贈申請書

年 月 日

(宛先)熊本市立博物館長

住所 _____

申請者 氏名 _____

電話番号() _____

下記のとおり資料を寄贈したいので申請します。

記			
資料名	数量	備考	

様式第5号 資料寄贈申請書

様式第3号(第5条関係)

担当	館長

熊本市立博物館資料利用許可申請書

年 月 日

(宛先)熊本市立博物館長

団体名 _____

住所 _____

申請者 氏名 _____

電話番号() _____

下記のとおり博物館資料を利用したいので申請します。

利用目的			
利用期間	年 月 日から 年 月 日まで		
利用場所	館 内・館 外()		
利用方法			
利用資料	分類番号	資料名	数量
輸送方法	館外利用のみ()		
利用責任者			
特記事項			

返却日	受領者

様式第3号 資料利用許可申請書

様式第6号(第10条関係)

担当	館長

第 号

熊本市立博物館資料寄託申請書

年 月 日

(宛先)熊本市立博物館長

住所 _____

申請者 氏名 _____

電話番号() _____

次のとおり資料を寄託したいので申請します。

記				
寄託期間	年月日から	年月日まで		
寄託資料	資料名	数量	備考	

様式第6号 資料寄託申請書

職員

令和元年度

教育長	今井 直己	非常勤(自然調査)	本橋 綾香
生涯学習スポーツ部長	益子 恵子	非常勤(資料整理・展示準備ほか)	
館長(学芸員)	尾崎 泰弘		石田 朋子
主査(学芸員)	引間 隆文		加藤 緑
主任(学芸員)	長谷川裕子		入子美佐子
主事(学芸員)	金澤花陽乃	派遣(施設管理)	野口 修

● 市民学芸員(敬称略)

池田勝造	石原紀子	石森実三	板津沙耶香	伊藤孝文	伊藤美津江	宇津木繁生
大野さく子	大野正一	久津輪 社	小暮 進	小林豊子	子安修二	子安裕子
坂本利二	佐々木初江	篠宮敏次	嶋崎季子	嶋田恭子	清水芙美子	杉山玉子
関根秀俊	遠山光保	富澤武男	永田幸雄	仲舘祐子	中藤栄寿	中野和子
中山 功	双木幸三	西久保治子	根立範子	長谷川志保子	馬場朱美	原田恵子
福嶋信子	別府 愛	松田早苗	村岡裕子	柳戸淳吉	山川貞治	山岸忠義
山崎和永	山田栄子	和島和恵	渡邊栄子	渡邊雅子	(以上47名)	

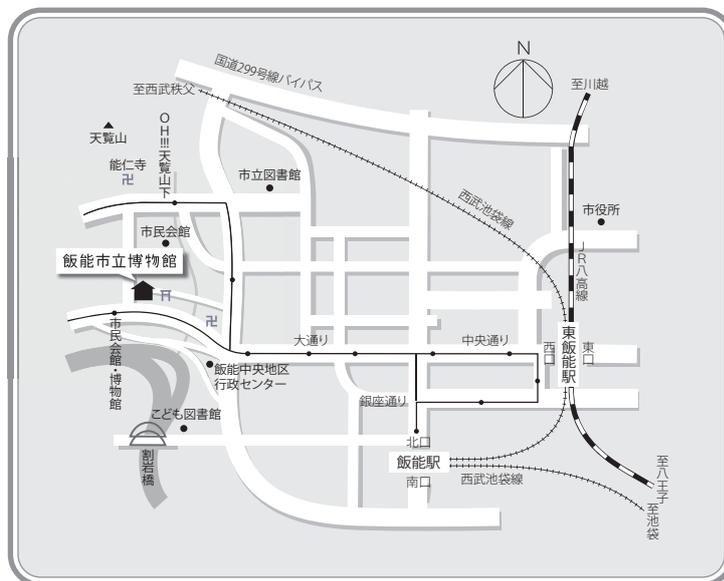


利用案内

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：月曜日、祝日の翌日(ただしこの日が休日の場合は開館)
年末年始(12月28日～1月4日)
- 入館料：無料

交通案内

- 自動車：圏央道狭山日高ICより約20分
- 公共交通機関：飯能駅北口より徒歩約15分または東飯能駅西口より徒歩約20分
飯能駅北口または東飯能駅西口より国際興業バス名栗方面「市民会館・博物館」バス停車下車徒歩3分、または西武飯能日高行「OH!!!天覧山下」バス停徒歩5分



飯能市立博物館館報 きっとすレポート

第2号 (通巻第17号)

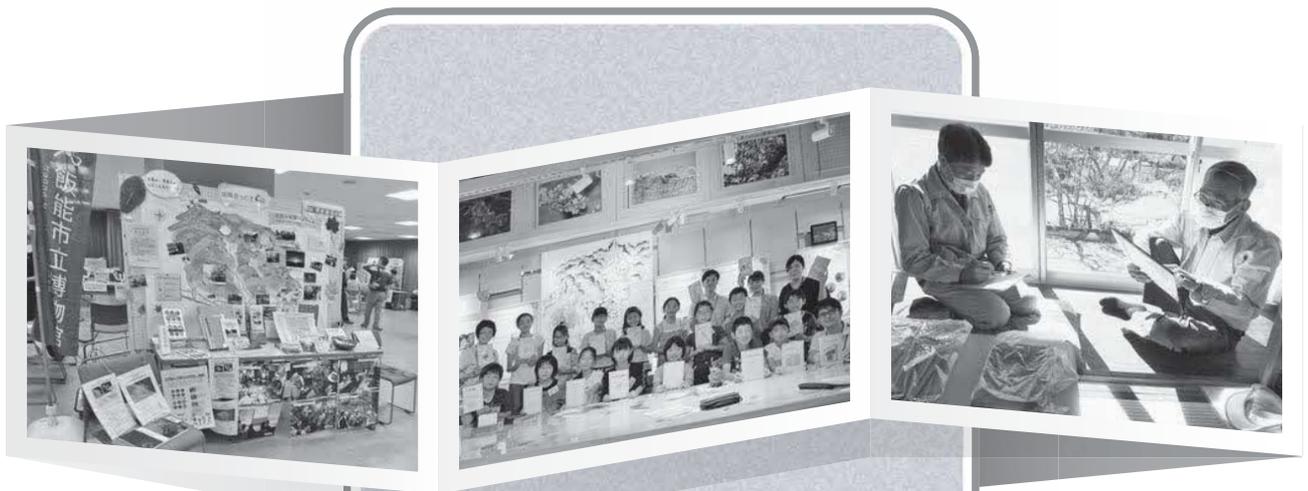
令和2年11月10日発行

発行 飯能市立博物館
〒357-0063 埼玉県飯能市大字飯能258-1
TEL (042) 972-1414 FAX (042) 972-1431
E-mail: museum@city.hanno.lg.jp
http://www.city.hanno.lg.jp/hall/museum.html

制作 (有)クレバラー・デザインスタジオ
〒357-0044 埼玉県飯能市川寺106-4
TEL (042) 974-5260

〈印刷の仕様〉

- | | | |
|---|---------|---|
| 1 | 版 型 | A 4 版 |
| 2 | 紙 質 | (表紙) マットコート紙 菊判111kg
(本文) クリームキンマリ菊判62.5kg |
| 3 | 印刷方法 | オフセット印刷 1色刷り (本文) 76ページ |
| 4 | 印刷内容 | モノクロ写真 86枚 |
| 5 | スクリーン線数 | 175線 |
| 6 | 製 本 | 無線綴じ |



 飯能市立博物館
Hanno Municipal Museum

埼玉県飯能市大字飯能 258-1
TEL (042) 972-1414 FAX (042) 972-1431